基幹理工学研究科の方針

ディプロマ・ポリシー〈時代を切り拓く人材の育成〉

早稲田大学の総合性・独創性を活かし，体系的な教育課程と，全学的な教育環境と学生生活環境のもとに，多様な学問・文化・言語・価値観の交流を育み，地球社会に主体的に貢献できる人材を育成する。

さらに現代社会においては，科学技術に関する広い知識と，人文・社会科学系の知識を含む幅広い教養を備え，将来への洞察力を持って時代を切り拓く人材の育成が求められている。また新しい時代の科学技術を確立するとともに，学問の枠組み・意味さらには学問とその活用の関係を再構築することが時代の大きな要請となっている。

基幹理工学研究科では社会を支えるキー・テクノロジーである情報，機械，エレクトロニクス，物質・材料，エネルギー，アートとメディアに関する基礎的科学技術とその根幹にある数学，および両者の架け橋となる応用数理を軸に据えつつ，各専門分野での教育研究を展開する。そして各専門分野の深化・発展に貢献するばかりでなく，新しい学問領域に創造的に取り組み，時代を切り拓き世界で活躍できる研究者・高度専門科学技術者の育成を目指す。

カリキュラム・ポリシー〈学部・大学院の一貫教育〉

基幹理工学研究科は，数学応用数理，情報理工学，機械科学，電子光システム学，表現工学の５専攻を設置し，学部での教育研究を基盤に，大学院ではより高度な研究に取り組む人材を育成する。従来の大学院カリキュラムは，専門性の高い科目を集めた編成になりがちであったが，科学技術が飛躍的な進歩を遂げている今日，学部教育のみでは基礎学問や関連知識の修得は困難になっている。本研究科においては，学部および修士課程を基礎教育期間と位置付け，学部・大学院（修士課程）における一貫教育の実践を理念とする。したがって，修士課程においては学部教育に深く連携したカリキュラムを設置している。その特色は，専門分野や関連分野について体系的に学べること，幅広い関連分野を学ぶことにより，自らの専門が科学技術の領域においてどのような位置にあるかを理解できることである。修士課程学生は，研究指導を受ける研究室を中心とする教育研究活動を通じて，各自の研究テーマに取り組むことにより研究・問題解決能力を身に付けることが可能である。

さらに博士後期課程に進学した学生は，高度で専門的な理想および応用について研究し，その深奥を究めることを目指すことが可能である。

アドミッション・ポリシー〈基幹理工学研究科の求める人材〉

早稲田大学では，『学問の独立』の教育理念のもとで，一定の高い基礎学力を持ち，かつ知的好奇心が旺盛で，本学の理念である進取の精神に富む，勉学意欲の高い学生を，我が国をはじめ世界から多数迎え入れる。

近年，科学技術の領域は飛躍的な大きな広がりを呈し，それに対応してそれぞれの領域は分化・深化してきた。大学における教育研究体制もこれに呼応した形で発展してきた。しかしながら，専門分野の発展と同時に，新しい価値観の創造，新しい科学技術分野あるいは学問分野の開拓が強く求められる時代を迎えた。これに伴い，地球規模で考え行動し，新しい時代を切り拓く人材を育成する教育研究の展開が求められる。

基幹理工学研究科では，科学技術の根幹を担う数理科学，情報科学，機械科学，材料科学，電子光科学，表現工学などの専門分野の教育研究が学部教育に継続して進められる。これらの専門分野の発展・深化に貢献するのみならず，新しい分野に創造的に取り組む意欲と能力を備えた研究者・高度専門科学技術者を目指す意欲的な人材を求める。

2012年度　基幹理工学研究科要項

早稲田大学大学院
基幹理工学研究科

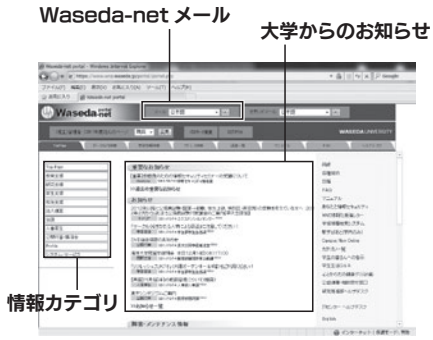
この要項は，学業を進めていくうえで必要不可欠な基本的事項を収録したものであり，修了時まで使用するので紛失しないように十分に注意すること。

履修や学生生活に必要な情報はほぼ網羅されているので，日常的に確認し，わからないことがある場合にはこの要項をよく読むこと。

なお，本学ではホームページを開設し，インターネットを通じた情報発信を行っている。

アクセス方法は次ページの通りなので，常時確認すること。

Waseda-net ポータル／ Waseda-net メール
早稲田大学の学生・教職員・校友が共通して利用する基盤システムで，この Waseda-net ポータルにログインすることにより，利用者の資格，属性に応じたサービスや情報が得られる（授業の科目登録，試験，レポート，履修などに関することや，講演会やセミナー，シンポジウム，公開行事の案内など）。Waseda-net メールは Web ブラウザがあれば，どこでも利用できる Web メールサービスである。このアドレスは卒業後も使用できる。
https://www.wnp.waseda.jp



ログインには、入学時に登録手続を行う Waseda-net の ID とパスワードが必要。

授業支援ポータル「Course N@vi」
「Course N@vi」は講義資料のダウンロード機能や小テスト機能などを備えた授業サポートツールである。Waseda-net ポータルにログインし，左メニュー「授業」より，「Course N@vi」を選択して利用する。

理工系学生ページ
「理工系学生ページ」は，理工学術院が授業支援などのために独自に作成しているページである。Waseda-net ポータルにログインし，左メニュー「システム・サービス」から「理工系学生ページ」を選択して参照する。このページでは，科目登録結果，休講情報などの個人向けの情報を閲覧できる。最低でも週に 1 回はチェックすること。

理工系学生ページ

携帯電話対応 Web サイト
携帯電話対応 Web サイト「WW モバイル」を開設している。理工学術院からの連絡や休講情報，講演会情報，端末室の利用状況などを携帯電話を利用して時間や場所を問わず参照できる。休講情報を参照するためにはアクセス・コードが必要である。アクセス・コードは「理工系学生ページ」で確認すること。

携帯電話対応 Web サイト
「WW モバイル」の QR コード

理工学術院ホームページ
理工学術院から発信される各種情報を掲載している。特に「在学生の方」のページでは科目登録情報や奨学金情報など重要な情報が随時更新される。
http://www.sci.waseda.ac.jp/

※要項の内容は変更になることがあるので，これらのページを常に確認すること。

CONTENTS

Ⅰ 基幹理工学研究科の特徴 1

Ⅱ 基幹理工学研究科の沿革と概要 3

Ⅲ 基幹理工学研究科要項 7

1 履修方法 7
2 学位 8
3 先取り履修制度 8
4 後取り履修制度 9
5 コア科目・推奨科目 9
6 特定課題演習・実験 10
7 インターンシップ 10
8 ボランティア 10
9 学費の納入と抹籍 11
10 共通科目の学科目配当表 13
11 各専攻の学科目配当表 15
数学応用数理専攻 15
情報理工学専攻 27
機械科学専攻 38
電子光システム学専攻 45
表現工学専攻 51
12 教員免許状の取得方法 55
13 授業時間帯 56
14 レポート・論文作成にあたっての注意事項 56
15 成績の表示 56
16 科目等履修生 57

Ⅳ 学生生活 59

1 CAMPUS DIARY 59
2 理工学術院および基幹理工学研究科ホームページ 59
3 学籍番号 59
4 クラス担任制度 59
5 学生相談 60
6 就職 62
7 学生証 63
8 各種証明書類の交付 64
9 各種願・届の提出 64
10 奨学金制度 66
11 掲示 67
12 教室・共通ゼミ室の使用 69
13 学生の課外活動 69
14 安全管理 70
15 海外留学等 71
16 禁煙キャンパス 72
17 自転車，バイクおよび自動車の通学利用禁止 73
18 図書館（理工学生読書室・理工学図書館） 73
19 コンピュータ・ルーム 75
20 実験施設紹介 76
21 保健センター西早稲田分室 78
22 交通機関のストライキと授業 80
23 天候悪化（台風・大雪等）による休講等の取扱いについて 80

Ⅴ 付 録 83

1 早稲田大学大学院学則（抜粋） 83
2 早稲田大学学位規則（抜粋） 91
3 大学院外国人特別研修生に関する規程 94
4 大学院科目等履修生に関する規程 96
5 大学院研究生に関する規程 97
6 早稲田大学校歌 98
7 早分かり URL・電話番号 99
8 キャンパスマップ 100

Ⅰ　特　徴
Ⅱ　沿革と概要
Ⅲ　研究科要項
Ⅳ　学生生活
Ⅴ　付　録

Ⅰ

基幹理工学研究科の特徴

基幹理工学研究科のめざすところ

科学技術の領域は飛躍的に大きな広がりを呈し，それに対応して，それぞれの領域は深化・分化してきた。大学における教育研究体制もこれに呼応した形で発展してきた。しかしながら，それぞれの専門分野の一層の発展と同時に，新しい価値観の創造，新しい科学技術分野あるいは学問分野の開拓が強く求められる時代を迎えた。これに伴い，改めて地球規模で考え行動し，新しい時代を切り拓く人材を育成する教育研究の展開が求められることとなった。

基幹理工学研究科では，人文・社会学系の素養の上に科学技術の基幹となる数学をはじめとする理工系の素養を身に付け，その上で現代の科学技術さらには新たに展開される次世代の社会を支える科学技術の基幹を担う数理科学，情報科学，機械科学，材料科学，電子光科学，表現工学等の基礎を修得し，さらにこの基礎に立ちそれぞれ専門分野での展開を学ぶとくに大学院修士課程では学部教育に継続したかたちで6年一貫の教育研究が進められる。そして，そこでは専門分野の深化・分化に貢献するばかりでなく，新しい分野にも創造的に取り組む能力を備えた研究者・高度専門科学技術者の育成を基本理念とする。

新しい時代の科学技術

文明の潮流に科学技術が大きなかかわりをもって久しい。そして，科学技術は種々の意味で人類の可能性を大きく広げると同時に，豊かな社会の実現に大きく貢献してきた。しかしながら，その反動として地球環境問題をはじめとする負の遺産に直面することにもなった。この結果，科学技術はこの課題を背負いつつ，大量生産・大量消費・大量廃棄型社会から持続可能な社会の実現に向かって大きく舵をとらなければならない時代を迎えたと言っても過言ではない。

このような状況の中で科学技術に関する広い知識と，人文・社会科学系の知を含む幅広い教養を備え，将来への洞察力をもち新しい時代を切り拓く人材の育成が今求められている。

また同時に，学問の枠組み・意味さらには学問とその活用の関係を新しい時代に対応して再構築することが大きな時代の要請となってきた。

そこで，本研究科では社会を支えるキー・テクノロジーである情報，機械，エレクトロニクス，物質・材料，エネルギーに関する基礎的科学技術とその根幹にある数学および両者の掛け橋となる応用数理を軸に据えつつ，各専門分野での教育研究を展開し，各専門分野あるいは新しい学問領域に取り組む能力を涵養し，新しい時代を切り拓き世界で活躍しうる人材の育成をめざす。

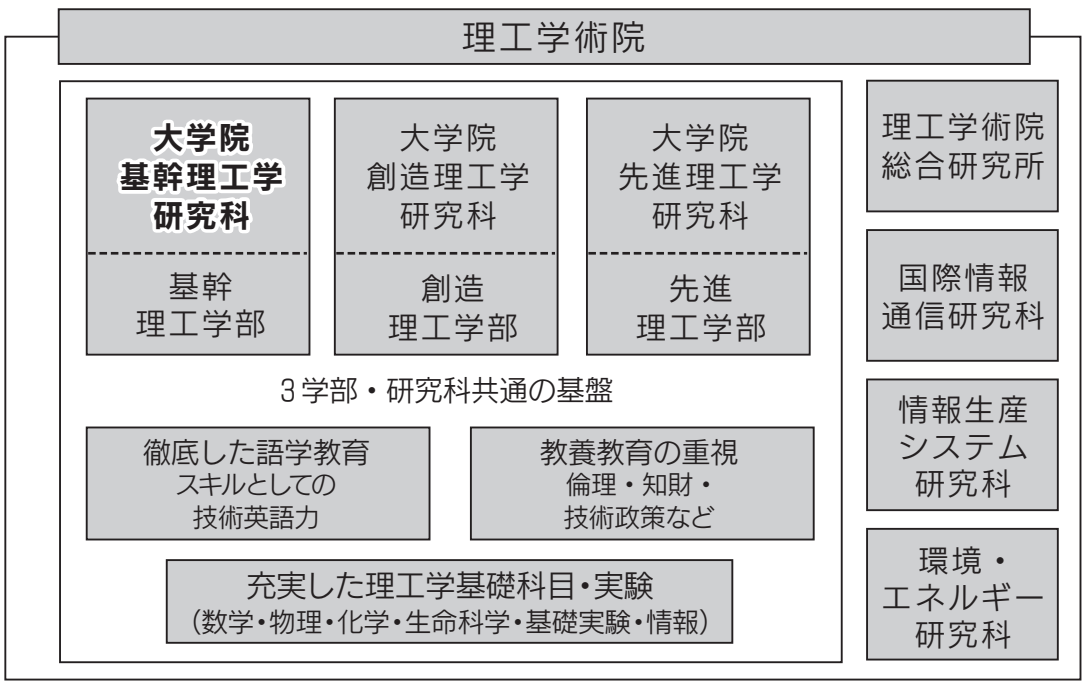
次世代を担う研究者・高度専門科学技術者の育成

大学院修士課程では，研究指導を受ける研究室を中心とする教育研究活動を通じて，基礎と応用を学びつつ，各自のテーマに取り組むことによって研究能力・問題解決能力を身に付けることができる。そこでは学ぶという受動的な学習姿勢から，自らテーマに取り組み，問題を解決し，成果をまとめるという能動的な学習姿勢への転換が行われる。かくして，修士課程学生は次世代を担う研究者・高度専門科学技術者としてのスタートを切ることが可能となる。

さらに高度で専門的な理論および応用について研究し，その深奥を究めようとする学生は博士後期課程に進学することになる。

なお，博士後期課程を修了するためには３年以上在学することが必要条件となるが，優れた研究業績を上げた者については研究科運営委員会が認めた場合に限りこの課程に１年以上在学すれば足りることになっている。

〈理工学術院 組織構成〉



Ⅱ

基幹理工学研究科の沿革と概要

沿　　革

1920年2月(大正 9 年)　大学令による大学となる
大学院新設
1951年4月(昭和26年)　工学研究科（機械工学，電気工学，建設工学，鉱山及金属工学，応用化学の5専攻）の修士課程を設置
堤　秀夫工学研究科委員長就任
11月　堤　秀夫工学研究科委員長再任
1953年3月(昭和28年)　工学研究科（機械工学，電気工学，建設工学，鉱山及金属工学，応用化学の5専攻）の博士課程を設置
1954年3月(昭和 29 年)　応用物理学専攻の修士課程を設置
9 月　伊原貞敏工学研究科委員長就任
1956年9月(昭和31年)　青木楠男　〃
1957年10月(昭和32年)　早稲田大学創立 75 周年
1958年9月(昭和33年)　山本研一工学研究科委員長就任
1960年9月(昭和35年)　宮部　宏　〃
1961年3月(昭和36年)　工学研究科を理工学研究科と改称
9 月　数学専攻の修士課程，博士課程および応用物理学専攻の博士課程を設置
1962年9月(昭和37年)　難波正人理工学研究科委員長就任
10月　早稲田大学創立 80 周年
1964年9月(昭和39年)　難波正人理工学研究科委員長再任
1965年4月(昭和40年)　機械工学専攻に機械工学専門分野・工業経営学専門分野を，電気工学専攻に電気工学専門分野・通信工学専門分野を，建設工学専攻に建築学専門分野・土木工学専門分野を，鉱山及金属工学専攻に資源工学専門分野・金属工学専門分野を設置
1966年9月(昭和41年)　岩片秀雄理工学研究科委員長就任
1968年9月(昭和43年)　葉山房夫　〃
1970年9月(昭和45年)　〃　再任
1972年4月(昭和47年)　鉱山及金属工学専攻を資源及金属工学専攻と改称
9 月　並木美喜雄理工学研究科委員長就任
1973年4月(昭和48年)　応用物理学専攻を物理学及応用物理学専攻と改称
1974年9月(昭和49年)　並木美喜雄理工学研究科委員長再任
1976年4月(昭和51年)　学則改正
電気工学専攻のうちの通信工学専門分野を電子通信学専門分野と改称
9 月　斎藤　孟理工学研究科委員長就任
1978年9月(昭和53年)　〃　再任
1980年9月(昭和55年)　加藤一郎理工学研究科委員長就任
1981年4月(昭和56年)　研究生制度新設
委託学生を委託研修生に特殊学生を一般研修生に改称

1982 年 9 月 (昭和 57 年)　加藤一郎理工学研究科委員長再任
10月　早稲田大学創立 100 周年
1983 年 4 月 (昭和 58 年)　応用化学専攻に応用化学専門分野・化学専門分野を設置
7 月　特別選考制度による学生募集開始（昭和 59 年度生より）
1984 年 9 月 (昭和 59 年)　掘井健一郎理工学研究科委員長就任
1986 年 9 月 (昭和 61 年)　〃　再任
1988 年 4 月 (昭和 63 年)　資源及金属工学専攻を資源及材料工学専攻と改称
ならびに同専攻のうちの金属工学専門分野を材料工学専門分野と改称
9 月　大頭　仁理工学研究科委員長就任
1990 年 4 月 (平成 2 年)　応用化学専攻のうちの化学専門分野を応用化学専攻から分離，化学専攻として設置
9 月　大頭　仁理工学研究科委員長再任
1992 年 9 月 (平成 4 年)　大井喜久夫理工学研究科委員長就任
1994 年 9 月 (平成 6 年)　〃　再任
1995 年 4 月 (平成 7 年)　電気工学専攻のうちの電子通信学専門分野を電気工学から分離，電子・情報通信学専攻として設置
情報科学専攻の修士課程を設置
数学専攻を数理科学専攻と改称
1996 年 4 月 (平成 8 年)　機械工学専攻のうちの工業経営学専門分野を経営システム工学専門分野と改称
委託研修生を委託科目等履修生に一般研修生を一般科目等履修生に改称
9 月　尾崎　肇理工学研究科委員長就任
1997 年 4 月 (平成 9 年)　情報科学専攻の博士後期課程を設置
1998 年 9 月 (平成 10 年)　逢坂哲彌理工学研究科委員長就任
2000 年 9 月 (平成 12 年)　逢坂哲彌理工学研究科委員長再任
2001 年 4 月 (平成 13 年)　生命理工学専攻の修士課程，博士後期課程を設置
資源及材料工学専攻を環境資源及材料理工学専攻と改称
資源及材料工学専攻の資源工学専門分野を地球・環境資源理工学専門分野と改称
資源及材料工学専攻の材料工学専門分野を物質材料理工学専門分野と改称
2001 年 6 月 (平成 13 年)　文部科学省科学研究費　中核的研究拠点（COE）形成基礎研究費「ナノ構造配列を基盤とする分子ナノ工学の構築とマイクロシステムへの展開」（研究リーダー大泊巌）採択
2002 年 9 月 (平成 14 年)　大場一郎理工学研究科委員長就任
10月　21 世紀 COE プログラム「プロダクティブ ICT アカデミアプログラム」（研究拠点リーダー村岡洋一）および「実践的ナノ化学教育研究拠点」（研究拠点リーダー竜田邦明）採択
2003 年 4 月 (平成 15 年)　機械工学専攻のうちの経営システム工学専門分野を機械工学専攻から分離，経営システム工学専攻として設置
建設工学専攻のうちの建築学専門分野を建設工学専攻から分離，建築学専攻と

	して設置
	電気工学専攻，電子・情報通信学専攻および情報科学専攻を電気・情報生命専攻，情報・ネットワーク専攻に再編
	ナノ理工学専攻の修士課程，博士後期課程を設置
7 月	21 世紀 COE プログラム「超高齢社会における人とロボット技術の共生」（研究拠点リーダー藤江正克）および「多元要素からなる自己組織系の物理」（研究拠点リーダー石渡信一）採択
2004 年 5 月（平成 16年）	戦略的研究拠点育成プログラム（通称：スーパー COE）「先端科学と健康医療の融合拠点の形成」（代表者：白井克彦総長）採択
9 月	竜田邦明理工学研究科長就任
	理工学術院設置
2005 年 4 月（平成 17年）	環境・エネルギー専攻の修士課程を設置
12月	魅力ある大学院教育イニシアティブ「異分野融合型 PBL －自立創造的研究者養成」（研究拠点リーダー　梅津光生）採択
2006 年 9 月（平成 18年）	橋本周司理工学術院長就任
	河合素直基幹理工学研究科長就任
	理工学総合研究所と各務記念材料研究所を統合し，理工学総合研究センターを設置
2007 年 4 月（平成 19年）	理工学研究科を基幹理工学研究科，創造理工学研究科，先進理工学研究科に再編
	基幹理工学研究科には数学応用数理専攻，情報理工学専攻，機械科学専攻の 3 専攻を設置
6 月	グローバル COE プログラム「『実践的化学知』教育研究拠点」（拠点リーダー黒田一幸）および「アンビエント SoC 教育研究の国際拠点」（拠点リーダー後藤敏）採択
9 月	大学院教育改革支援プログラム「超専攻型融合テーマスタディクラスター教育」（拠点リーダー梅津光生）採択
10月	早稲田大学創立 125 周年
2008 年 4 月（平成 20年）	63 号館完成
	50 号館（通称 TWIns）完成
6 月	グローバル COE プログラム「グローバルロボットアカデミア」（拠点リーダー藤江正克）採択
9 月	橋本周司理工学術院長再任
	河合素直基幹理工学研究科長再任
2009 年 4 月（平成 21年）	大久保キャンパスを西早稲田キャンパスと名称変更
	日独共同大学院プログラム「流体数学」（コーディネーター柴田良弘）採択
2010 年 4 月（平成 22年）	基幹理工学研究科に電子光システム学専攻設置
	創造理工学研究科に経営デザイン専攻設置
	先進理工学研究科に共同先端生命科学専攻，共同先進健康科学専攻，共同原子力

	専攻設置
9 月	山川宏理工学術院長就任
	大石進一基幹理工学研究科長就任
	国際化拠点整備事業（グローバル 30）の採択により，理工学術院の 3 学部・3 研究科に「国際コース」を設置
11月	白井克彦総長退任，鎌田薫総長就任
2011 年 4 月 (平成23年)	基幹理工学研究科に表現工学専攻設置

概　　要

大学院基幹理工学研究科は，高度にして専門的な理工学の理論および応用を研究，教授し，その深奥を究めて，文化の創造，発展と人類の福祉に寄与することを目的としている。

課　　程

大学院博士課程 5 年を前期 2 年と後期 3 年に区分し，前期 2 年の課程はこれを修士課程として取り扱う。

修士課程を修了するには，大学院に 2 年以上在学し，本研究科の定めるところの所要の授業科目について 30 単位以上を修得し，かつ必要な研究指導を受けた上修士論文の審査および最終試験に合格しなければならない。ただし優れた研究業績を上げた者については，研究科運営委員会が認めた場合に限り，この課程に 1 年以上在学すれば足りるものとする。修士課程を修了したものには修士（工学），または修士（理学）の学位が授与される。

博士後期課程を修了するには，博士後期課程に 3 年以上在学し，本研究科の定めるところの研究指導を受けた上，博士論文の審査および最終試験に合格しなければならない。ただし優れた研究業績を上げた者については，研究科運営委員会が認めた場合に限り，この課程に 1 年以上在学すれば足りるものとする。博士後期課程を修了した者には，博士（工学），または博士（理学）の学位が授与される。

専　　攻

基幹理工学研究科には次の専攻が置かれている。

1）数学応用数理専攻
2）情報理工学専攻
3）機械科学専攻
4）電子光システム学専攻
5）表現工学専攻

※基幹理工学研究科ではユニット制度を実施しない。

ユニット制度とは研究部門，専門部門あるいは専攻を越えてカリキュラムが組織される制度である。

Ⅲ

基幹理工学研究科要項

1	履修方法	1. 履修方法
2	学位	2. 学 位
3	先取り履修制度	3. 先取り履修
4	後取り履修制度	4. 後取り履修
5	コア科目・推奨科目	5. コア科目 推奨科目
6	特定課題演習・実験	6. 演習・実験
7	インターンシップ	7. インターンシップ
8	ボランティア	8. ボランティア
9	学費の納入と抹籍	9. 学 費
10	共通科目の学科目配当表	10. 共通科目
11	各専攻の学科目配当表	11. 専攻別案内
	数学応用数理専攻	数学応数
	情報理工学専攻	情報理工
	機械科学専攻	機械科学
	電子光システム学専攻	電子光
	表現工学専攻	表現工学
12	教員免許状の取得方法	12. 教職免許
13	授業時間帯	13. 授業時間帯
14	レポート・論文作成にあたっての注意事項	14. レポート・論文作成
15	成績の表示	15. 成績の表示
16	科目等履修生	16. 科目等履修生

1 履修方法

【修士課程】

(1) 入学時に選択した研究指導の担当教員が指導教員となる。

(2) 修士論文に着手するためには，各専攻の定める第 1 年度の必要単位を修得し，第 1 年度の終わりに修士論文の研究計画書を提出しなければならない。

(3) 修士の学位を取得するためには，2 年以上在学し，30 単位以上を修得し，かつ，必要な研究指導を受けた上，修士論文の審査に合格しなければならない。ただし，在学期間に関しては，優れた業績を上げた者について研究科運営委員会が認めた場合に限り，1 年以上在学すれば足りるものとする。

(4) 学生は，指定された科目登録手続期間内に，当該年度に履修しようとする学科目を登録（申請および確認）しなければならない。

学科目の選択にあたっては，本研究科要項と Web シラバス等を熟読して，各自の学習目標を定め，登録間違い・登録漏れのないよう注意すること。

Web シラバス　https://www.wnz.waseda.jp/syllabus/epj3011.htm

登録した学科目以外の受講は認めない。無登録科目を聴講・受験しても単位は与えられない。

登録した学科目の変更・取消は，決められた期間以外は認めない。登録にあたっては慎重を期し，本人が行うこと。なお，必ず登録の結果を確認すること。

科目履修においては，事前に指導教員に確認し，許可を得た科目のみを申請すること。

なお，実際の申請手順等については，理工学術院のホームページ上の案内を確認すること。

(5) 科目履修条件として，科目名に I，II を付してある学科目については，その順序に従って履修しなければならない。また，科目名に A, B, C, D を付してある学科目については，履修の順序を特に定めない。

(6) 演習科目の修得単位数が，各専攻の定めた制限単位を超える場合には，その超えた分については修了必要単位数に算入しない。

(7) 講義科目の選択は，原則として自専攻内に置かれた科目の中からとするが，指導教員が認めた場合に限り，他専攻・他研究科・他学術院・他コースからも選択できる。ただし，オープン科目は，修了必要単位数に算入できない。（他コース：2010 年 9 月から設置された英語による授業のみで単位を修得できる国際コースのこと。）

基幹理工学研究科内他専攻・理工学術院内他研究科・他学術院・他コース聴講の扱い
（修了必要単位数に算入できる上限単位数）

専攻名	他専攻聴講	理工学術院内他研究科聴講	他学術院聴講	他コース聴講
数学応用数理専攻	0 単位	0 単位	4 単位※	6 単位
情報理工学専攻	制限なし		0 単位	6 単位
機械科学専攻	制限なし		0 単位	6 単位
電子光システム学専攻	制限なし		0 単位	6 単位
表現工学専攻	制限なし		4 単位	6 単位

※ただし，教育・総合科学学術院 教育学研究科 数学教育専攻設置の科目に限る。算入を希望する場合には，理工学術院統合事務所に申し出ること。

(8) 特別な事情がある場合には，関連教員の許可を得て，第 2 年度の始めに専門分野内でほかの研究指導に移ることができる。

(9) 修士論文の作成，その他研究一般については，指導教員の指示に従う。

(10) 修士課程においては，4 年間を超えて在学できない。

(11) 9 月修了（9 月 15 日付）については，必ず指導教員と所属専攻へ具体的な手続や可否について相談と確認をすること。なお，当該年度 6 月中旬までに所属専攻を通して，9 月修了対象者として理工学術院へ報告があった学生のみが対象となるので注意すること。

【博士後期課程】

(1) 入学時に選択した研究指導の担当教員が指導教員となる。

(2) 博士後期課程では必要修得単位数はないが，博士後期課程設置科目を履修できる。また，その他の理工学術院内に設置された講義科目はその担当教員の了解のもとに聴講できる。他研究科の講義科目についてもこれに準ずる。

(3) 博士論文の作成，その他研究一般については，指導教員の指示に従う。

(4) 博士後期課程においては，6 年間を超えて在学できない。

(5) 博士論文を提出しないで退学した者のうち，博士後期課程に 3 年以上在学し，かつ必要な研究指導を受けた者は，退学した日から起算して 3 年以内に限り博士論文を提出し最終試験を受けることができる。

(6) 課程の修了および学位の授与については，後掲の大学院学則第 13 条から第 16 条を参照のこと。

2 学位

【修士課程】

専攻名	学位（専攻分野）
数学応用数理	修士（工学）または修士（理学）
情報理工学	修士（工学）
機械科学	修士（工学）
電子光システム学	修士（工学）または修士（理学）
表現工学	修士（工学）

【博士後期課程】

専攻名	学位（専攻分野）
数学応用数理	博士（工学）または博士（理学）
情報理工学	博士（工学）
機械科学	博士（工学）
電子光システム学	博士（工学）または博士（理学）
表現工学	博士（工学）

3 先取り履修制度（学部 4 年次に履修した大学院授業科目の単位認定）

教育研究上，本研究科が有益と認めるときは，理工学術院内学部および教育学部理学科の 4 年次（前年度）に履修した大学院授業科目を，下表の各専攻が定める範囲内において大学院基幹理工学研究科既修得単位として認定する。

専攻名	先取り履修の認定上限単位数
数学応用数理	10 単位
情報理工学	10 単位
機械科学	4 単位
電子光システム学	10 単位
表現工学	10 単位

4　後取り履修制度

教育研究上，指導教員が有益と認めるときには，各専攻・分野が定める範囲内において，理工学術院内学部，教育学部理学科の授業科目を履修し，その修得単位を修了に必要な単位（30 単位）として認定できる。

ただし，学部在籍時に修得した科目は履修申請できない。

※1　指導教員が必要と認めた場合に限る。

※2　ただし，修了必要単位に算入できない。

専攻名	後取り履修の認定 上限単位数
数学応用数理	6 単位 ※1
情報理工学	上限なし※2
機械科学	4 単位
電子光システム学	上限なし※2
表現工学	上限なし※1

5　コア科目・推奨科目

自己の所属する専攻の部門にコア科目，推奨科目が設置されている場合は，それぞれの履修方法に従って科目を履修すること。

数学応用数理専攻

コア科目は設置しない。

数学応用数理専攻に設置されている
すべての講義科目を推奨科目とする。

情報理工学専攻

コア科目・推奨科目とも設置しない。

機械科学専攻

コア科目は設置しない。

機械科学専攻に設置されている
すべての講義科目を推奨科目とする。

電子光システム学専攻

コア科目・推奨科目とも設置しない。

表現工学専攻

コア科目は設置しない。

表現工学専攻に設置されている
すべての講義科目を推奨科目とする。

6 特定課題演習・実験（4 単位）

科学・技術の急速な発展に対応し，各専攻が必要に応じて企画して行なう特定のトピックスに関するゼミナールまたは実験である。当該分野で集中講義，集中ゼミナールなどと明示してある年度に限り選択できる。

7 インターンシップ

夏季および春季休業期間中に，関連の企業や研究所において，学習したことが実際の生産現場等でどのように活用されているのかを見聞し体得する。

評価については，受け入れ先からの報告と学生の研修レポートおよびプレゼンテーション等を総合的に判断して行い，基準以上の評価を得た者に 2 単位が与えられる。

海外における研修および理工学基礎実験の TA（ティーチングアシスタント）も対象とする。

（注）事前に理工学術院統合事務所にインターンシップ申請用紙を必ず提出すること。これにより「早稲田大学学生補償制度（傷害補償）：略称『学傷補』」と「早稲田大学学生補償制度（賠償責任補償）：略称『学賠補』」に加入する。

8 ボランティア

この科目は，学内外で学生が自らの意志で自発的に関った福祉・災害救援・人権・平和環境などの人間社会の切実な諸問題に対する活動をし，「活動報告書」と「活動を通じて得たもの」を述べたレポートの 2 つの提出物を基に評価して単位を与える科目である。

実質 5 日間程度の活動が対象。

ただし，特定の宗教，政治に関わるようなものは，本科目の対象としない。

大学院共通科目　1 単位（重複履修不可）

（注）事前に，「ボランティア申請書」，「保証人の同意書」を提出すること。これにより「早稲田大学学生補償制度（傷害補償）：略称『学傷補』」と「早稲田大学学生補償制度（賠償責任補償）：略称『学賠補』」に加入する。

9　学費の納入と抹籍

(1) **納入期日**

学費はそれぞれの年度において，次の期日までに納入しなければならない。

ただし，実際の口座引落としなどは日付が異なるため，別途送付される案内で確認すること。

	納入期限
春学期(前期)学費	5月1日
秋学期(後期)学費	10月1日

(2) **2012 年度入学者学費**

【修士】

※正規の課程で本大学学部および大学院に入学金を納め在籍した者が入学する場合は，入学金が免除になる。

		1 年度		2 年度	
		入学時	秋学期(後期)	春学期(前期)	秋学期(後期)
入学金		200,000	0	0	0
授業料		389,000	389,000	392,000	392,000
教育環境整備費		90,000	90,000	90,000	90,000
実験演習料	数学応用数理専攻	35,000	35,000	35,000	35,000
	情報理工学専攻	40,000	40,000	40,000	40,000
	機械科学専攻 電子光システム専攻 表現工学専攻	48,000	48,000	48,000	48,000
学生健康増進互助会費		1,500	1,500	1,500	1,500
合計	数学応用数理専攻	715,500	515,500	518,500	518,500
	情報理工学専攻	720,500	520,500	523,500	523,500
	機械科学専攻 電子光システム専攻 表現工学専攻	728,500	528,500	531,500	531,500
年度合計	数学応用数理専攻	1,231,000		1,037,000	
	情報理工学専攻	1,241,000		1,047,000	
	機械科学専攻 電子光システム専攻 表現工学専攻	1,257,000		1,063,000	

単位（円）

【博士後期】

※正規の課程で本大学学部および大学院に入学金を納め在籍した者が入学する場合は，入学金が免除になる。

		1年度		2年度		2年度	
		入学時	秋学期（後期）	春学期（前期）	秋学期（後期）	春学期（前期）	秋学期（後期）
入学金		200,000	0	0	0	0	0
授業料		322,000	322,000	324,000	324,000	326,500	326,500
教育環境整備費		55,000	55,000	55,000	55,000	55,000	55,000
実験演習料	数学応用数理専攻	35,000	35,000	35,000	35,000	35,000	35,000
	情報理工学専攻	40,000	40,000	40,000	40,000	40,000	40,000
	機械科学専攻 電子光システム専攻 表現工学専攻	48,000	48,000	48,000	48,000	48,000	48,000
学生健康増進互助会費		1,500	1,500	1,500	1,500	1,500	1,500
合計	数学応用数理専攻	613,500	413,500	415,500	415,500	418,000	418,000
	情報理工学専攻	618,500	418,500	420,500	420,500	423,000	423,000
	機械科学専攻 電子光システム専攻 表現工学専攻	626,500	426,500	428,500	428,500	431,000	431,000
年度合計	数学応用数理専攻	1,027,000		831,000		836,000	
	情報理工学専攻	1,037,000		841,000		846,000	
	機械科学専攻 電子光システム専攻 表現工学専攻	1,053,000		857,000		862,000	

単位（円）

所定年限以上在学する学生の各期学費取り扱いについては，下記表を参照すること。

	授業料	教育環境整備費	実験演習料	学生健康増進互助会費
修士論文・博士論文の審査のみが残っている者	所定額の 50%	所定額の 1/2	修士課程は修士課程2年次所定額，博士後期課程は博士後期課程3年次所定学	所定額
修了必要単位の合計からの不足単位数はあるが修士論文・博士論文の審査に合格している者				
修了必要単位の合計からの不足単位数が14単位以下で修士論文・博士論文の審査に合格しておらず，授業科目を履修している者	所定額の 70%			
修了必要単位の合計からの不足単位数が15単位以下で修士論文・博士論文の審査に合格しておらず，授業科目を履修する者	所定額			

※「修了必要単位の合計からの不足単位数」は，前の学期の終了時に算出したものを基準とする。

※ 在籍中に休学・留学した場合の学費については，理工学術院統合事務所まで問い合わせること。

(3) 納入方法

学費等の納入方法は，入学手続時に選択をした「学費等振込用紙」での振込，もしくは，郵便局を含む全国の金融機関指定口座からの口座振替のいずれかになる。この口座は，入学手続時に申請したものである。なお，口座振替の場合，事前に「口座振替のお知らせ」が学費負担者宛てに送付されるので，必ず確認をすること。また，金融機関や口座等に変更が生じた場合は，すぐに理工学術院統合事務所に申し出ること。

学費は，それぞれ指定の期日までに納入しなければならないが，特別な事情でそれが不可能な場合は，学費延納を認められる事がある。詳細については理工学術院統合事務所に相談すること。

(4) 抹 籍

学費の納入を怠った場合は抹籍（本学学生の身分を失う）となり，学費が納入された学期末に遡って退学となる。この場合，在学年数および成績の一部が無効となる。なお，特別の事情により自動的に抹籍となる日（以下参照）以前に離籍を希望する場合は，理工学術院統合事務所へ相談すること。

	納入期限	自動的に抹籍となる期日	退学とみなす期日
春学期(前期)学費	5月1日	9月20日	3月31日
秋学期(後期)学費	10月1日	翌年3月31日	9月20日

10 共通科目の学科目配当表

理工学術院3研究科（基幹理工学研究科，創造理工学研究科，先進理工学研究科）の共通科目を以下の通り設置する。

学科目名	担当教員	単位	毎週授業時間数		担当	
			春期	秋期	研究科	専攻
現代数学概論A	福田 隆	2	0	2	基幹理工学	数学応用数理
現代数学概論B	米田 元	2	2	0		
現代数学概論C	高橋 秀慈	2	0	2		
現代数学概論D	小薗 英雄	2	0	2		
現代数学概論E	松嶋 敏泰	2	0	2		
数学史特論	坂口 勝彦	2	2	0		
数学と文化史特論	坂口 勝彦	2	0	2		
年金ポートフォリオ運用概論	鈴木 武，清水 時彦，陣場 隆，山下 隆	2	2	0		
年金数理概論	清水 時彦，井上 修二，枇杷 高志	2	0	2		
情報理論※	(未定)	2	0	2		
SoC設計技術A	柳澤 政生，山名 早人，笠原 博徳，戸川 望，木村 啓二，廣津 良	2	2 (後半)	0		情報理工学
SoC設計技術B		2	2 (前半)	0		
SoC設計技術C		2	集中			

※本年度休講

学科目名	担当教員	単位	毎週授業時間数		担当	
			春期	秋期	研究科	専攻
科学とジェンダー	高松 敦子，膳場 百合子，広中 由美子	2	集中	0	基幹理工学	機械科学
自然エネルギー論	宿谷 昌則	2	0	2	創造理工学	建築学
環境学特論 A	長沢 伸也	2	2	0		総合機械工学
環境学特論 B	榊原 豊	2	0	2		建設工学
環境学特論 C	永田 勝也，大聖 泰弘，名古屋 俊士	2	2	0		総合機械工学
環境学特論 D※	（未定）	2	0	2		
知的所有権概論 A	羽片 和夫	2	2	0		
知的所有権概論 B	大津山 秀樹，森 智香子	2	0	2		
人間中心機械概論	音野 重樹，中野 幹生，中臺 一博，仁科 繁明	2	2	0		
イノベーションの創造と知的財産	伊藤 ゆみ子，森 康晃	2	0	2		経営デザイン
企業経営のための知財マネジメントの応用	森 康晃，國光 健一，細田 浩一，龍神 嘉彦	2	2	0		
原子核概説	鷹野 正利	2	2	0	先進理工学	物理学及応用物理学
量子力学概説	中里 弘道，安倍 博之	4	2	2		
統計力学概説	相澤 洋二	4	2	2		
先進理工技術経営	清水 功雄	2	0	2		応用化学
技術者倫理	中村 昌允	1	集中			
知的所有権特論	隅蔵 康一	1	0	集中		
社会技術革新学	府川 伊三郎	1	集中	0		
化学物質リスクマネージメント	蒲生 昌志，篠原 直秀，垣見 清孝，岸本 充生，松方 正彦，吉田 喜久雄，東野 晴行	1	0	2（前半）		
脳科学講義 A	大島 登志男，岡本 仁，谷藤 学，細谷 俊彦，	2	0	4		生命医科学
脳科学講義 B	大島 登志男，岡本 仁，黒田 公美，藤井 直敬，	2	6	0		
先端生命医科学特論 A：イノベーティブキャリア	朝日 透，他	2	2	0		
先端生命医科学特論 B：イノベーティブディスカバリー	武岡 真司，合田 亘人，他	2	0	2		
神経科学の最前線	荒木 敏之，西野 一三，功刀 浩，和田 圭司，山村 隆，本田 学，星野 幹雄	2	2	2		電気・情報生命
生命倫理科学	浅野 茂隆	2	0	2		生命理工学
総合ナノ理工学特論	ナノ理工学専攻全教員	2	2	0		ナノ理工学
化学物質総合管理学	竹山 春子，増田 優	2	2	0		共同先進健康
生活環境総合管理学※	竹山 春子，酒井 一博，安部 八洲男，長田 敏	2	0	集中		
食農総合管理学	竹山 春子	2	集中	0		
感染症総合管理学※	竹山 春子，岡部 信彦，俣野 哲朗，西條 政幸，脇田 隆宇，大西 真，野崎 智義，宮崎 義継，浜口 功	2	2	0		
ハザード評価学※	竹山 春子	2	0	2		
リスク評価学	竹山 春子，岸田 文雄	2	0	集中		
Professional Communication1	英語教育センター教員	1	2	0	英語教育センター※1	
Professional Communication2		1	0	2		
Advanced Technical Reading and Writing1		1	2	0		
Advanced Technical Reading and Writing2		1	0	2		
Advanced Technical Presentation		1	2 0	0 2		
Workplace English1		1	2	0		
Workplace English2		1	0	2		
博士実践特論 A：イノベーションリーダーシップ	朝日 透，杉浦 正和，鶴谷 武親，大滝 令嗣	2	集中	集中		
博士実践特論 B：産業イノベーション	古川 行夫，西出 徹雄，久村 春芳，阿部 正博，高崎 浩，佐野 正克	2	集中	0		
博士実践特論 S：ロジカルコミュニケーション	朝日 透，安田 正，上原 千友	2	集中	0		
インターンシップ※2	全指導教員	2	◎	◎		

※本年度休講

※1 理工系大学院生として求められる英語力（文献を読む，論文を書く，学会発表をする，職場で業務を行うなど）が身につけられるよう，理工学術院3研究科では共通科目として以下の英語科目を設置している。

Professional Communication 1・2 では科学技術分野のアイデアを伝えるために必要なスキルを学ぶ。Advanced Technical Reading and Writing 1・2 では論文をいかに読みこなし，いかに書くかを学ぶ。Advanced Technical Presentation では研究成果をいかに発表するかを学ぶ。Workplace English 1・2 では実務で必要な読み・書き・プレゼンテーションのスキルを学ぶ。

※2 インターンシップは，必ず実習前に，理工学術院統合事務所に所定の届出を行うこと。

数学応用数理専攻

数学応用数理専攻の目的は，純粋数学・応用数学を包含した意味での数理科学の多様な分野にあらわれる問題を数学的に研究することにある。

この分野の基礎的段階では，学生各自のテーマにおいて必要となる基本的概念についての理解を深めなければならない。次の段階では，培ってきた理論や方法をそれぞれの問題に応用する能力を養わなければならない。さらに高いレベルの段階では，数理科学の未知の分野を開拓したり，未解決の問題にチャレンジするなどの研究活動を行うことになる。

数学応用数理専攻は数理論理学，代数学，幾何学，解析学，現象数理，計算数学，統計科学の 7 部門から構成されている。学生はいずれかの部門に所属し，各部門の推奨科目を中心に履修科目を選択する。ただし，学問の性格上それぞれの部門は独立しているわけではなく，異なる部門がお互いに有機的に関連している。したがって，学生諸君も部門にとらわれることなく，バランスよく履修科目を選んで学習することが望ましい。

修士課程においては，講義のほかにセミナー形式をとる演習科目が設置されており，指導教員が担当する演習科目は必修である。この演習は数学応用数理専攻の根幹をなすもので，学生は十分に準備をしてのぞまなければならない。出席者の間での研究討論を通して，テーマに対する理解を深めることが大切である。

博士後期課程の学生は専門研究者として，主体的に研究活動を行うことができるような研究能力・姿勢を養うこととする。

数学応用数理専攻履修方法

1. 指導教員が担当する演習科目は在学年度において必ず履修しなければならない。
2. 演習科目は 13 単位以上履修してもその分は修了必要単位数に算入しない。
3. 推奨科目の履修にあたっては，自己の所属する部門の指示にしたがうこと。
4. 現代数学概論 A, B, D, E は修了必要単位に算入しない。また，共通科目履修の上限は 8 単位である。

各部門の概要

◆数理論理学部門

数理論理学は伝統的には集合論，帰納関数論，モデル論，証明論に分持されている。このうち帰納関数論はコンピュータの基礎理論とつながり，その結果証明論の一部もコンピュータの関連部門とつながりを持ってきている。一方，集合論は純粋数学の一分野として発展してきており，無限を対象とする純粋数学のほかの分野への応用も見られる。当部門では集合論とその応用，情報科学の基礎理論を開講している。

◆代数学部門

代数学部門における研究テーマは現在次のものからなる：代数的整数論，不定方程式論，保型函数論，可換代数学，ホモロジー代数学，数論的幾何学，幾何学的コード理論，代数幾何学。

◆幾何学部門

幾何学部門は，「多様体上の解析学」と「トポロジー」の二本の柱からなっている。

第一の柱である「多様体上の解析学」は，相対論と場の量子論の影響のもとで長足の進歩を遂げ，現代数学の中核ともいうべき巨大な分野に成長している。本部門における研究テーマは現在次のものからなる。

(a) 解析多様体論，(b) 接続の幾何学，(c) リー群の表現論，(d) 無限自由度の代数解析，(e) 多様体上の非線形解析，双曲幾何学である。

もう１つの柱である「トポロジー」は，現在，３次元多様体論，力学系の理論を中心として新しい展開を見せている，活気あふれる分野である。本部門における研究テーマは，(a) 結び目の幾何学，(b) 力学系，(c) ３次元双曲多様体論，である。

◆解析学部門

解析学部門は，関数解析学，実関数論，関数方程式論を主要な研究対象としている。

関数解析学の研究では，関数環論の複素解析への応用，確率論に現れる関数空間の研究など，また実関数論では，実ハーディ空間などの種々の関数空間や補間理論の偏微分方程式への応用などを研究する。

関数方程式論では，偏微分方程式，特に非線形のものが中心課題になっており，取り扱う問題は非線形発展方程式，最適制御問題，双曲型方程式，放物型方程式，楕円型方程式，流体方程式系，変分問題等非常に多岐にわたっている。従ってこの分野を研究する学生は鮮明な問題意識を持って，幅広い選択肢から研究テーマを選ぶ必要がある。研究の手法は，オーソドックスな微積分から関数解析，非線形半群論，変分問題，写像度，粘性解，フーリエ解析，分岐理論，計算機援用証明など多種多様であり，従って類似のテーマを持った教員間でも，研究方法や手段はそれぞれ異なっている。

◆現象数理部門

物理学，化学，数理生態学など，自然科学，工学に現れる諸現象を検討し，その中に新しい数学の芽を発見し，それを新たな数学として育てることを目的とする。具体的には非線形系の数理 ― 反応拡散方程式，非線型波動方程式など―― ，相対性理論，フラクタル構造などの物質の領域構造のトポロジーなどを研究対象とする。

◆計算数学部門

計算数学部門はコンピュータを援用して数学や物理学における様々な問題を解析する場合に有効となる手法と理論（基礎から応用まで）とその応用を主な研究対象としている。

◆統計科学部門

現代は不確実性の時代であるとしばしば言われている。一見ランダムに見える現象の背後に潜む一定の法則を見いだし，それを意識的に用いて合理的かつ有効な意志決定を行うのが数理統計の目的である。

統計科学部門では偶然を支配する「確率」の基本性質，および社会・自然における様々な現象に対応した確率現象のモデル（確率過程）の構成と推測ならびにその応用に至るまで測度論的基礎を考慮しつつ展開する。さらに各種の統計データが与えられているとき，それを用いて有効な情報を抽出し，統計モデル選択，未知の確率分布に関する推定，検定，あるいは将来の事柄の予測を行う統計データ解析の基本とその応用について数理的根拠を明確にしつつ展開する。学部では理論の厳密性は第二として入門的な事柄を教えるのに対して，大学院では基礎から体系的に内容を理解できるように教育研究指導を行う。研究テーマとしては，時系列解析，多変量解析，漸近理論，決定理論，ベイズ推測，現代確率論，統計的推測に基づいた金融工学などの分野が含まれる。

（Ⅰ）研究指導

（修士課程）

部　　門	研　究　指　導	担　当　教　員
数理論理学部門	集合論研究	江田　勝哉
代数学部門	ゲーム理論研究	尾崎　学，佐々木　宏夫
	整数論研究	小松　啓一
	整数論・特殊関数研究	橋本　喜一朗
	代数的符号理論研究	近藤　庄一
	代数幾何学研究	楫　　元
	代数幾何学研究	永井　保成
	代数的整数論研究	尾崎　学
幾何学部門	トポロジー研究	村上　順
	トポロジー研究	渡辺　展也
	代数解析学研究	上野　喜三雄
	幾何学研究	本間　泰史
	微分幾何学研究	ゲスト　マーティン
	双曲幾何学研究	松崎　克彦
解析学部門	関数解析研究	田中　純一
	偏微分方程式研究	柴田　良弘，ヒーバーマティアス
	偏微分方程式研究	山﨑　昌男
	非線形偏微分方程式研究	石井　仁司，大谷　光春
	非線形偏微分方程式研究	小薗　英雄
	非線形偏微分方程式研究	西原　健二
	非線形解析研究	田中　和永，小澤　徹
	数学応用数理研究	柴田　良弘，舟木　直久
現象数理部門	数理物質工学研究	伊藤　公久
	物質の数理構造研究	小山　晃
	非線形システム研究	高橋　大輔
	非線形システム研究	堤　　正義
	非線形システム研究	山田　義雄
	相対論研究	米田　元
	応用確率モデル研究	堤　　正義，豊泉　洋
	ことばの情報数理研究	堤　　正義，匂坂　芳典
計算数学部門	数値解析研究	大石　進一
	数値解析研究	柏木　雅英
	情報理論研究	松嶋　敏泰
	理論計算機科学研究	守屋　悦朗
	偏微分方程式の数値解析研究	田端　正久
統計科学部門	統計数理研究	鈴木　武
	数理統計・時系列・金融研究	谷口　正信
	応用統計学研究	井上　淳

（博士後期課程）

部　　門	研 究 指 導	担 当 教 員
数理論理学部門	集合論研究	江田　勝哉
代数学部門	ゲーム理論研究	尾崎　学，佐々木　宏夫
	整数論研究	小松　啓一
	整数論・特殊関数研究	橋本　喜一朗
	代数的符号理論研究	近藤　庄一
	代数幾何学研究	楫　　元
	代数幾何学研究	永井　保成
	代数的整数論研究	尾崎　学
幾何学部門	トポロジー研究	村上　順
	トポロジー研究	渡辺　展也
	代数解析学研究	上野　喜三雄
	幾何学研究	本間　泰史
	微分幾何学研究	ゲスト　マーティン
	双曲幾何学研究	松崎　克彦
解析学部門	関数解析研究	田中　純一
	偏微分方程式研究	柴田　良弘
	偏微分方程式研究	山﨑　昌男
	非線形偏微分方程式研究	石井　仁司，大谷　光春
	非線形偏微分方程式研究	小薗　英雄
	非線形偏微分方程式研究	西原　健二
	非線形解析研究	田中　和永，小澤　徹
	数学応用数理研究	柴田　良弘，舟木　直久
現象数理部門	数理物質工学研究	伊藤　公久
	物質の数理構造研究	小山　晃
	非線形システム研究	高橋　大輔
	非線形システム研究	堤　　正義
	非線形システム研究	山田　義雄
	相対論研究	米田　元
	応用確率モデル研究	堤　　正義，豊泉　洋
	ことばの情報数理研究	堤　　正義，匂坂　芳典
計算数学部門	数値解析研究	大石　進一
	数値解析研究	柏木　雅英
	情報理論研究	松嶋　敏泰
	理論計算機科学研究	守屋　悦朗
	偏微分方程式の数値解析研究	田端　正久
統計科学部門	統計数理研究	鈴木　武
	数理統計・時系列・金融研究	谷口　正信
	応用統計学研究	井上　淳

（Ⅱ）講義科目　科目の前に付した△印は隔年講義，※印は本年度休講を示す。

学科目名	担当教員	単位	毎週授業時間数	
			春期	秋期
※△集合論Ａ	江田　勝哉	4	2	2
△集合論Ｂ	江田　勝哉	4	2	2
※　代数学特論Ａ	近藤　庄一	2	2	0
※　代数学特論Ｂ	近藤　庄一	2	0	2
※△整数論特論Ａ	小松　啓一	2	2	0
△整数論特論Ｂ	尾崎　学	2	0	2
※　計算数論特論	（未定）	4	2	2
※△数学応用数理特論Ａ	舟木　直久	2	集中	0
※△数学応用数理特論Ｂ	舟木　直久	2	0	集中
△数学応用数理特論Ｃ	舟木　直久	2	集中	0
△数学応用数理特論Ｄ	舟木　直久	2	0	集中
※△代数幾何学Ａ	楫　元	2	2	0
※△代数幾何学Ｂ	楫　元	2	0	2
△代数幾何学Ｃ	楫　元	2	2	0
△代数幾何学Ｄ	楫　元	2	0	2
代数幾何学特論Ａ	藤田　隆夫	2	2	0
代数幾何学特論Ｂ	藤田　隆夫	2	0	2
代数幾何学特論Ｃ	黒田　茂	2	2	0
代数幾何学特論Ｄ	黒田　茂	2	0	2
△代数幾何学概論Ａ	永井　保成	2	2	0
△代数幾何学概論Ｂ	永井　保成	2	0	2
※△代数幾何学概論Ｃ	永井　保成	2	2	0
※△代数幾何学概論Ｄ	永井　保成	2	0	2
※△微分幾何学Ａ	ゲスト　マーティン	2	0	2
△微分幾何学Ｂ	ゲスト　マーティン	2	0	2
微分幾何学概論Ａ	一山　稔之	2	2	0
微分幾何学概論Ｂ	一山　稔之	2	0	2
※△トポロジー特論Ａ	村上　順	2	0	2
△トポロジー特論Ｂ	村上　順	2	2	0
位相幾何学特論	渡辺　展也	2	0	2
△幾何学Ａ	本間　泰史	2	0	2

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業時間数	
			春期	秋期
※△幾何学B	本間 泰史	2	0	2
※△無限自由度の代数解析A	上野 喜三雄	2	2	0
△無限自由度の代数解析B	上野 喜三雄	2	2	0
※△双曲幾何学特論A	松崎 克彦	2	0	2
△双曲幾何学特論B	松崎 克彦	2	0	2
関数論特論A	若林 功	2	2	0
関数論特論B	若林 功	2	0	2
△ Lebesgue 空間と Sobolev 空間	伊東 裕也	2	2	0
△非線形解析入門A	小澤 徹	2	0	2
△非線形解析入門B	鈴木 幸人	2	0	2
※△関数解析続論	山﨑 昌男	2	0	2
△作用素の半群	山﨑 昌男	2	0	2
※△超関数と Fourier 変換	倉田 和浩	2	2	0
※△解析特論A	大谷 光春	2	2	0
※△解析特論B	石井 仁司	2	0	2
△非線形解析特論	西原 健二	2	0	2
△関数解析特論	田中 純一	2	2	0
※△確率論特論	伊藤 俊次	4	2	2
※△相対論特論A	米田 元	2	2	0
△相対論特論B	米田 元	2	0	2
※ 計算機科学特論A	守屋 悦朗	2	2	0
※△計算機科学特論B	守屋 悦朗	2	0	2
経済の数理特論	佐々木 宏夫	2	0	2
計画数学特論	武藤 滋夫	2	0	2
場の量子論	山中 由也	2	2	0
有限要素法	小山 大介	2	0	2
※ 最適化問題	(未定)	2	2	0
統計的学習理論	浮田 善文	2	0	2
ハイパフォーマンスコンピュテーション	荻田 武史	2	0	2
※△統計的推測論A	久保木 久孝	2	2	0
△統計的推測論B	久保木 久孝	2	2	0
※ 統計的漸近理論	鈴木 武	2	0	2

学　科　目　名	担　当　教　員	単位	毎週授業時間数	
			春期	秋期
※△時系列解析	谷口　正信	2	0	2
△多変量解析特論	井上　淳	2	0	2
※△金融工学A	浦谷　規	2	2	0
△金融工学B	浦谷　規	2	2	0
保険数学特論	内藤　和晃	2	2	0
物質の数理構造特論A	小山　晃	2	0	2
物質の数理構造特論B	伊藤　公久	2	0	2
※　非線形現象の数理A	堤　　正義	2	2	0
※△非線形現象の数理B	山田　義雄	2	2	0
△ソリトンの数理A	高橋　大輔	2	0	2
※△ソリトンの数理B	高橋　大輔	2	0	2
△特殊関数の数理A	橋本　喜一朗	2	2	0
※△特殊関数の数理B	橋本　喜一朗	2	0	2
△数値解析特論A	大石　進一	2	0	2
※△数値解析特論B	大石　進一	2	0	2
※　数値解析特論C	(未定)	2	0	2
数値解析特論D	柏木　雅英	2	2	0
情報理論特論A	松嶋　敏泰	2	0	2
情報理論特論B	新家　稔央	2	0	2
暗号と情報セキュリティ	峯松　一彦	2	2	0
符号理論特論	鴻巣　敏之	2	集中	0
量子情報理論	今福　健太郎	2	2	0
※　現代解析学集中特論A	(未定)	2	0	集中
※　現代解析学集中特論B	(未定)	2	0	集中
△偏微分方程式の数値解析A	田端　正久	2	0	2
※△偏微分方程式の数値解析B	田端　正久	2	2	0
※　応用確率モデル理論	豊泉　洋	2	2	0
ことばの情報数理理論	匂坂　芳典	2	0	2
流体数学特別講義☆	柴田　良弘，小薗　英雄，山﨑　昌男	2	0	2
位相空間論特論	小山　晃	2	2	0
※　楕円モジュラー関数とK3モジュラー関数論	志賀　弘典	2	0	2

☆は博士後期課程のみ

（Ⅲ）演習科目

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業時間数	
			春期	秋期
集合論演習A	江田 勝哉	3	3	0
集合論演習B	江田 勝哉	3	0	3
集合論演習C	江田 勝哉	3	3	0
集合論演習D	江田 勝哉	3	0	3
整数論演習A	小松 啓一	3	3	0
整数論演習B	小松 啓一	3	0	3
整数論演習C	小松 啓一	3	3	0
整数論演習D	小松 啓一	3	0	3
整数論・特殊関数演習A	橋本 喜一朗	3	3	0
整数論・特殊関数演習B	橋本 喜一朗	3	0	3
整数論・特殊関数演習C	橋本 喜一朗	3	3	0
整数論・特殊関数演習D	橋本 喜一朗	3	0	3
代数的符号理論演習A	近藤 庄一	3	3	0
代数的符号理論演習B	近藤 庄一	3	0	3
代数的符号理論演習C	近藤 庄一	3	3	0
代数的符号理論演習D	近藤 庄一	3	0	3
代数幾何学A演習A	楫 元	3	3	0
代数幾何学A演習B	楫 元	3	0	3
代数幾何学A演習C	楫 元	3	3	0
代数幾何学A演習D	楫 元	3	0	3
代数幾何学B演習A	永井 保成	3	3	0
代数幾何学B演習B	永井 保成	3	0	3
代数幾何学B演習C	永井 保成	3	3	0
代数幾何学B演習D	永井 保成	3	0	3
トポロジーA演習A	村上 順	3	3	0
トポロジーA演習B	村上 順	3	0	3
トポロジーA演習C	村上 順	3	3	0
トポロジーA演習D	村上 順	3	0	3
トポロジーB演習A	渡辺 展也	3	3	0
トポロジーB演習B	渡辺 展也	3	0	3
トポロジーB演習C	渡辺 展也	3	3	0
トポロジーB演習D	渡辺 展也	3	0	3

学科目名	担当教員	単位	毎週授業時間数	
			春期	秋期
代数解析学演習A	上野　喜三雄	3	3	0
代数解析学演習B	上野　喜三雄	3	0	3
代数解析学演習C	上野　喜三雄	3	3	0
代数解析学演習D	上野　喜三雄	3	0	3
幾何学演習A	本間　泰史	3	3	0
幾何学演習B	本間　泰史	3	0	3
幾何学演習C	本間　泰史	3	3	0
幾何学演習D	本間　泰史	3	0	3
双曲幾何学演習A	松崎　克彦	3	3	0
双曲幾何学演習B	松崎　克彦	3	0	3
双曲幾何学演習C	松崎　克彦	3	3	0
双曲幾何学演習D	松崎　克彦	3	0	3
微分幾何学演習A	ゲスト　マーティン	3	3	0
微分幾何学演習B	ゲスト　マーティン	3	0	3
微分幾何学演習C	ゲスト　マーティン	3	3	0
微分幾何学演習D	ゲスト　マーティン	3	0	3
関数解析演習A	田中　純一	3	3	0
関数解析演習B	田中　純一	3	0	3
関数解析演習C	田中　純一	3	3	0
関数解析演習D	田中　純一	3	0	3
偏微分方程式A演習A	柴田　良弘	3	3	0
偏微分方程式A演習B	柴田　良弘	3	0	3
偏微分方程式A演習C	柴田　良弘	3	3	0
偏微分方程式A演習D	柴田　良弘	3	0	3
偏微分方程式B演習A	山崎　昌男	3	3	0
偏微分方程式B演習B	山崎　昌男	3	0	3
偏微分方程式B演習C	山崎　昌男	3	3	0
偏微分方程式B演習D	山崎　昌男	3	0	3
非線形偏微分方程式A演習A	石井　仁司	3	3	0
非線形偏微分方程式A演習B	石井　仁司	3	0	3
非線形偏微分方程式A演習C	石井　仁司	3	3	0
非線形偏微分方程式A演習D	石井　仁司	3	0	3
非線形偏微分方程式B演習A	大谷　光春	3	3	0

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業時間数	
			春期	秋期
非線形偏微分方程式B演習B	大谷 光春	3	0	3
非線形偏微分方程式B演習C	大谷 光春	3	3	0
非線形偏微分方程式B演習D	大谷 光春	3	0	3
非線形偏微分方程式C演習A	小薗 英雄	3	3	0
非線形偏微分方程式C演習B	小薗 英雄	3	0	3
非線形偏微分方程式C演習C	小薗 英雄	3	3	0
非線形偏微分方程式C演習D	小薗 英雄	3	0	3
非線形偏微分方程式D演習A	西原 健二	3	3	0
非線形偏微分方程式D演習B	西原 健二	3	0	3
非線形偏微分方程式D演習C	西原 健二	3	3	0
非線形偏微分方程式D演習D	西原 健二	3	0	3
変分問題演習A	田中 和永	3	3	0
変分問題演習B	田中 和永	3	0	3
変分問題演習C	田中 和永	3	3	0
変分問題演習D	田中 和永	3	0	3
非線形解析演習A	小澤 徹	3	3	0
非線形解析演習B	小澤 徹	3	0	3
非線形解析演習C	小澤 徹	3	3	0
非線形解析演習D	小澤 徹	3	0	3
数理物質工学演習A	伊藤 公久	3	3	0
数理物質工学演習B	伊藤 公久	3	0	3
数理物質工学演習C	伊藤 公久	3	3	0
数理物質工学演習D	伊藤 公久	3	0	3
物質の数理構造演習A	小山 晃	3	3	0
物質の数理構造演習B	小山 晃	3	0	3
物質の数理構造演習C	小山 晃	3	3	0
物質の数理構造演習D	小山 晃	3	0	3
非線形システムA演習A	高橋 大輔	3	3	0
非線形システムA演習B	高橋 大輔	3	0	3
非線形システムA演習C	高橋 大輔	3	3	0
非線形システムA演習D	高橋 大輔	3	0	3
非線形システムB演習A	堤 正義	3	3	0
非線形システムB演習B	堤 正義	3	0	3

学科目名	担当教員	単位	毎週授業時間数	
			春期	秋期
非線形システムB演習C	堤　正義	3	3	0
非線形システムB演習D	堤　正義	3	0	3
非線形システムC演習A	山田　義雄	3	3	0
非線形システムC演習B	山田　義雄	3	0	3
非線形システムC演習C	山田　義雄	3	3	0
非線形システムC演習D	山田　義雄	3	0	3
相対論演習A	米田　元	3	3	0
相対論演習B	米田　元	3	0	3
相対論演習C	米田　元	3	3	0
相対論演習D	米田　元	3	0	3
経済の数理演習A	佐々木　宏夫	3	3	0
経済の数理演習B	佐々木　宏夫	3	0	3
経済の数理演習C	佐々木　宏夫	3	3	0
経済の数理演習D	佐々木　宏夫	3	0	3
代数的整数論演習A	尾崎　学	3	3	0
代数的整数論演習B	尾崎　学	3	0	3
代数的整数論演習C	尾崎　学	3	3	0
代数的整数論演習D	尾崎　学	3	0	3
数値解析A演習A	大石　進一	3	3	0
数値解析A演習B	大石　進一	3	0	3
数値解析A演習C	大石　進一	3	3	0
数値解析A演習D	大石　進一	3	0	3
数値解析B演習A	柏木　雅英	3	3	0
数値解析B演習B	柏木　雅英	3	0	3
数値解析B演習C	柏木　雅英	3	3	0
数値解析B演習D	柏木　雅英	3	0	3
情報理論演習A	松嶋　敏泰	3	3	0
情報理論演習B	松嶋　敏泰	3	0	3
情報理論演習C	松嶋　敏泰	3	3	0
情報理論演習D	松嶋　敏泰	3	0	3
理論計算機科学演習A	守屋　悦朗	3	3	0
理論計算機科学演習B	守屋　悦朗	3	0	3
理論計算機科学演習C	守屋　悦朗	3	3	0

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業時間数	
			春期	秋期
理論計算機科学演習D	守屋 悦朗	3	0	3
統計数理演習A	鈴木 武	3	3	0
統計数理演習B	鈴木 武	3	0	3
統計数理演習C	鈴木 武	3	3	0
統計数理演習D	鈴木 武	3	0	3
数理統計・時系列・金融演習A	谷口 正信	3	3	0
数理統計・時系列・金融演習B	谷口 正信	3	0	3
数理統計・時系列・金融演習C	谷口 正信	3	3	0
数理統計・時系列・金融演習D	谷口 正信	3	0	3
応用統計学演習A	井上 淳	3	3	0
応用統計学演習B	井上 淳	3	0	3
応用統計学演習C	井上 淳	3	3	0
応用統計学演習D	井上 淳	3	0	3
数学応用数理演習A	舟木 直久	3	3	0
数学応用数理演習B	舟木 直久	3	0	3
数学応用数理演習C	舟木 直久	3	3	0
数学応用数理演習D	舟木 直久	3	0	3
偏微分方程式の数値解析演習A	田端 正久	3	3	0
偏微分方程式の数値解析演習B	田端 正久	3	0	3
偏微分方程式の数値解析演習C	田端 正久	3	3	0
偏微分方程式の数値解析演習D	田端 正久	3	0	3
応用確率モデル演習A	豊泉 洋	3	3	0
応用確率モデル演習B	豊泉 洋	3	0	3
応用確率モデル演習C	豊泉 洋	3	3	0
応用確率モデル演習D	豊泉 洋	3	0	3
ことばの情報数理演習A	匂坂 芳典	3	3	0
ことばの情報数理演習B	匂坂 芳典	3	0	3
ことばの情報数理演習C	匂坂 芳典	3	3	0
ことばの情報数理演習D	匂坂 芳典	3	0	3

情報理工学専攻

情報理工学専攻では，社会活動や科学技術を推進するためのキーテクノロジーと位置付けられる，情報技術と通信技術を融合したICT（Information and Communications Technology）系学問領域を研究・教育し，高度な専門知識を有する学生を社会に輩出することを目指している。情報理工学専攻では，情報通信，情報科学，情報工学の3つを基軸としている。

情報通信においては，社会生活のインフラストラクチャを構成する大規模な通信・放送ネットワークの整備と今後益々多種多彩な社会の要請に応えるシステムの実現が強く推し進められようとしている。通信・放送ネットワーク構築の基盤をなす情報通信に関する学問領域は，社会の要請に伴い急速に拡大かつ研究の水準が著しく向上しており，これに対応することが主要な目的となる。また，ICTが社会生活に及ぼす影響を熟慮し，情報通信倫理に裏付けされた研究分野の方向付けを明確にする目的も担っている。

情報科学では，知識情報処理，ソフトウェア工学，コンピュータ・アーキテクチャなどがコンピュータの発展と利用の推進力となっており，これらの技術は適用分野の量的拡充のみならず質的変革の時期を迎えている。すなわち，単なるハードウェアの高速化，大容量化あるいはソフトウェア技術の高度化だけでは解決されない根源的問題に直面している。例えば，人工知能に代表される知識処理に関する新たな研究分野の発展が期待されているが，この研究領域を発展させるには，従来の計算機科学の枠組みを逸脱した新たな発想と理論に基づく情報処理に関する研究が不可欠となっている。

情報工学は，情報科学と情報通信に関わる技術領域の研究と教育を担う分野であり，理論の体系化と工学への応用に関する基礎研究が主体となる。先端的研究の推進は言うまでもなく，ものづくりを重視した幅広くかつ深い見識を有する人材育成の実現を目標としており，このためには理論と応用の専門家集団による研究，教育への集中的な取り組みが必要とされる。

このように，情報通信，情報科学，情報工学は，急速な進展を遂げており，先端的な研究，教育環境を維持するためには，これら密接に関係する領域の協調無くして実現することは極めて困難である。しかも，一方での成果が基礎となって他方の発展を期するという，輪廻的な展開が必須であることが認識されている。本専攻では，コンピュータ・ヒューマン・インタラクション部門，ネットワーク部門，高度計算機構部門，ソフトウェア部門，情報アーキテクチャ部門の5分野を設け，それら分野の有機的なつながりにより，情報通信，情報科学，情報工学の統合・融合を目指している。

博士後期課程修了者については，電気メーカ，通信事業者などの研究所ならびに国の研究機関に加えて，大学などの教育機関での活躍が期待できる。また，修士課程修了者についても，上記のような研究機関に加えて，ソフトウェア開発企業などで新しいソフトウェアの開発に従事するものや，コンサルティング会社など多様な分野での活躍が予想される。

情報理工学専攻履修方法

1. 指導教員が担当する演習科目は，在学年度において必ず履修しなければならない。
2. 演習科目は13単位を超えて履修してもその分は修了必要単位数には算入しない。
3. 講義科目の選択にあたっては，指導教員の指導を受けること。
4. 情報理工学特別実験A，Bは在学年度において必ず履修しなければならない。

各分野の概要

◆コンピュータ・ヒューマン・インタラクション部門

コンピュータを中心とした情報処理システムのハードウェア，ソフトウェア，ICT 分野への応用に関する研究，教育を行っている。

具体的には，以下のような内容の研究指導を行っている。

1. マルチメディア／ハイパーメディアシステム

コンピュータをより使いやすく人間に身近なものとするために画像，文字，音などの複数のメディアを使用したコンピュータが研究されている。現在は，このマルチメディア／ハイパーメディア環境における Computer Aided Instruction（CAI），Computer Aided Learning（CAL），データベースシステムの研究を行っている。

2. 知覚情報処理

よりヒューマンフレンドリーなコンピュータを実現するためには，人間のもつ知覚情報処理機構をコンピュータ上に実現し，人間と体験空間を共有することを可能とするシステムの開発が重要である。ここでは，このようなシステムの実現を目指しており，音声認識・理解，画像理解等の研究を行っている。

3. コンピュータ応用

現在のコンピュータはすべての産業に利用されており，ICT 分野への応用も無数に存在する。本研究における代表的なテーマとしては，VLSI CAD（Computer Aided Design），電力系統解析，画像を背景とする文字列の識別及び認識，離散システムシミュレーション，航空流体解析，有限要素法，ロボット等が挙げられる。

4. コンピュータービジョン

ものを見ることは人間には自然で簡単なことであるが，視覚を人工的に実現することは非常に難しいことが，過去数十年の研究でわかっている。それでも，より柔軟で高度な自立的機能を機械に持たせるため，断片的な情報の統合による広い意味の視覚の実現を目指し研究を行っている。

◆ネットワーク部門

情報通信技術の急速な進歩に即した研究および教育内容に対する社会の要請に応えるべく，情報ネットワークシステム，メディアシステム等に関する研究・教育を行っている。また，通信・放送・コンピュータ融合の時代を迎え，情報に対する高度な処理と情報の効率的な伝送に関する基盤技術の確立は不可欠である点を踏まえ，画像情報と無線通信に焦点を当てた研究と教育を行っている。

具体的には，以下のような内容の研究指導を行っている。

1. 情報ネットワークシステム

ノードとリンクの構成と機能，マルチメディア情報処理と符号化，ネットワークセキュリティおよびパーソナルコミュニケーション等のシステムアーキテクチャ，プロトコルに関する研究とともに，通信と放送の融合を念頭に置いた広帯域ディジタル統合網の網制御方式と端末機能に関する研究を行う。

2. メディアシステム

ヒューマンインタフェースへの応用を目的とした，画像ならびに音声情報処理，符号化，認識等の理論とシステム応用，および移動体マルチメディアシステムに関する研究を行う。

3. 画像情報

画像の生成，変換，処理，符号化，伝送，蓄積，表示，記録等の要素技術について十分に理解させると

ともに，その中から適宜最新の興味あるテーマを選択して研究指導を行う。また，これらの知識に加えて情報ネットワーク技術や画像データベースに関する知識を総合し，マルチメディア通信システムを構築する手法について研究指導を行う。

4. ワイヤレスコミュニケーション（無線通信）

携帯電話, 無線 LAN, ディジタル放送などのワイヤレスコミュニケーションを検討対象として電波伝搬, ネットワーク構成，ディジタル伝送などの基盤技術の研究を行う。これらのワイヤレスコミュニケーションに関するすべての研究は，無線周波数帯の有効利用が究極の目的であり，具体的には，フェージングや電波干渉による信号劣化の解明と対策，多元接続方式に基づく回線割り当て法などのネットワーク構成技術およびディジタル信号処理をベースとした高能率変復調や誤り訂正に関する伝送技術などの研究項目が例として挙げられる。

◆高度計算機構部門

計算機の役割は，人間の知的能力を増幅することにある。これまで計算機は，主に定型作業を高速実行することによって人間を助けてきたが，社会において生成され流通する情報が急増するにつれ，計算機自体にもより高度で知的な作業を行わせ，人間の負担を軽減する必要性が増大してきている。高度計算機構分野では，コンピュータの機能をこのような観点から抜本的に高度化する方法を，さまざまな角度から探究し，将来の情報処理環境のあり方を模索，呈示することを目標としている。

具体的には，以下のような内容の研究指導を行っている。

1. 知識情報処理

知識情報処理の基礎として，知識をはじめとする高度な情報を表現，獲得，操作するための枠組を研究する。また，それらを記述するためのプログラミング言語の理論的基礎，プログラミング技術，実行方式を探求する。実践的側面においては，大規模知識処理システムのアーキテクチャや，設計，診断，制御など各種の応用の研究を行う。さらに，高度な情報処理環境を構築するには，計算機内部の情報処理と並んで，複数の主体（人間ないしは計算機）の間の情報のやりとり，つまり通信に対して，ソフトウェア的観点から検討を加えることもきわめて重要である。本研究では，その基礎的側面として，複数主体間の通信の理論的定式化やセキュリティの問題などを研究する。

2. 学習する情報処理システム

ここでの「学習」とは，コンピュータが知識を獲得していって，一層高度な情報処理を実現していくことを意味するものである。このような学習は，情報処理システムが不良設定性や不確定性を有する場合に有効であり，感性をもつ生体に見受けられるしなやかな情報処理に通じるものである。具体的な項目としては，学習アルゴリズム，ニューロコンピューティング（コネクショニズム），そしてそれらの応用としての高度コンピュータ・ヒューマンインタフェースがあげられる。

◆ソフトウェア部門

現在の情報化社会にあって，コンピュータを制御するためのソフトウェアに対するニーズが巨大化し，その生産が追い付かない状態が久しく続いている。当分野の目的は，高信頼性かつ高性能のソフトウェアを社会の要望に応じて生産する理論的および実戦的方法を研究かつ教育することである。
具体的には，以下のような内容の研究指導を行っている。

1. プログラム設計論

計算機科学の中で理論的にもっとも美しくかつ現実的にもっとも有用な成果を達成してきた分野である。コンピュータが人間生活の隅々にまで浸透した現代社会において，コンピュータの制御に必要不可欠なプログラムはますます重要性を増している。逐次型，並列型，決定性，および確率的なアルゴリズムに基づいたプログラムについて，実際的立場に立った設計論と解析論の研究と教育を行う。

2. ソフトウェア開発工学

良いソフトウェアを効率良く開発・保守するためには，種々の方法論やそれを支援するソフトウェア・ツール群が必要である。これらを実現するために，各種の新しい概念をもったソフトウェアの設計，実装・および，その理論的基盤の確立を主たる研究テーマとする。また，これらのソフトウェアを実行するハードウェア・アーキテクチャの開発，その設計支援，および各種の処理系についても研究を行っている。

3. 分散協調ソフトウェア

インターネット上の複数のプログラムや，機器を制御するソフトウェアなどが，相互に連携する機会が増えている。このようなソフトウェアは，協力，調整あるいは競争し合いながらも自律的に行為を決定し，

単独では容易でない機能やサービスの実現をめざしている。本技術を支える理論的基盤，知的な共同行為を実現するマルチエージェントシステムの要素技術，それを活用したネットワークシステムや社会シミュレーションの教育・研究を行う。

4. 高信頼ソフトウェア工学

高機能，高品質，多品種なソフトウェア群を高効率に開発し保守するために不可欠なソフトウェア工学技術および知識体系の研究を行っている。具体的には，要求とプログラムのギャップを埋めるモデリングや，設計，再利用，自動生成等の高効率開発技術，および，レビュー，テスト，測定，形式検証等の高品質開発技術を扱っている。理論や経験に裏付けられて現実に役立つ方法論やツールの確立，および，知見の実証的導出を行っている。また応用対象としてセキュリティの問題や，組込み，プロセス，マネジメント等もあげられる。

◆情報アーキテクチャ部門

情報処理についてネットワークおよびそのノードとなるコンピュータのハードウェアとソフトウェアを対象に，基礎から応用に至るまでの広い範囲の研究を行う。情報処理は技術の発展が速く，研究内容を例え一時的に列挙したとしても，またたく間に陳腐化してしまう。むしろ本分野では，既存の研究の枠組にとらわれない先進的なテーマを発掘することを特徴とする。

具体的には，以下のような内容の研究指導を行っている。

1. 情報アーキテクチャ設計解析

コンピュータや情報通信ネットワークシステム全体からシステム構成素子として不可欠な VLSI（超大規模集積回路）まで幅広い範囲を対象とし，それぞれの設計方法論，および，コンピュータによる設計支援手法（CAD：Computer-Aided Design））などに関して，理論的ならびに実践的な立場から研究を行う。理論的な側面としては，アルゴリズムとデータ構造，計算機プログラミング技術，計算複雑度の理論，計算幾何学，グラフ理論，組み合わせ論などの基礎的学問分野を扱う。また，実践的な立場としては，大規模ネットワーク，プリント回路，パッケージング，マルチチップ・モジュール，画像・通信処理用 LSI，汎用・専用プロセッサ，アナログ機能素子などの設計（アーキテクチャ，機能合成，論理合成，レイアウト，テスト）と解析（モデリング，シミュレーション，動作検証，信頼性，動作速度，消費電力）を対象とする。

2. 並列処理ハードウェア／ソフトウェア

現在マイクロプロセッサからスーパーコンピュータに至るすべてのコンピュータの基本構築技術となっている並列処理技術に関して，アーキテクチャ，ソフトウェア（自動並列化コンパイラ，並列 OS，スケジューリング等），及び応用に関する研究を行っている。

3. 基盤ソフトウェアおよび先端的アプリケーション

オペレーティングシステム，分散ミドルウェア，ネットワークソフトウェアなどの基盤ソフトウェアに関する研究と，それらを利用することにより可能となる先端的なアプリケーションに関する研究を行っている。基盤ソフトウェア研究としてはリソース管理や抽象化に関する研究，基盤ソフトウェア開発手法，セキュリティ，大規模情報管理，高信頼性，実時間性などの研究を行っている。先端的アプリケーションとしては，画像解析，音声解析などを含む先端的マルチメディアアプリケーション，Web サーチなどの超大規模データ管理アプリケーション，実世界とサイバースペースの統合を行うユビキタスコンピューティングアプリケーションに関する研究などを行っている。

（Ⅰ）研究指導

（修士課程）

部　　門	研　究　指　導	担　当　教　員
コンピュータ・ヒューマン・インタラクション部門	知覚情報システム研究	小林　哲則，松山　泰男
	音コミュニケーション研究	及川　靖広，松山　泰男
	コンピュータービジョン研究	石川　博
ネットワーク部門	画像情報研究	甲藤　二郎
	ワイヤレスコミュニケーション研究	髙畑　文雄
	情報システム工学研究	後藤　滋樹
	無線信号処理研究	前原　文明
高度計算機構部門	量子イメージング研究	入江　克
	並列知識情報処理研究	上田　和紀
	計算知能研究	松山　泰男
ソフトウェア部門	ソフトウェア開発工学研究	深澤　良彰
	ソフトウェア環境研究	筧　捷彦
	知識ソフトウェア研究	菅原　俊治
	高信頼ソフトウェア工学研究	鷲崎　弘宜
情報アーキテクチャ部門	情報構造研究	村岡　洋一
	分散システム研究	中島　達夫
	アドバンスト・コンピューティング・システム研究	笠原　博徳
	並列・分散アーキテクチャ研究	山名　早人
	設計解析システム研究	戸川　望，　柳澤　政生
	先端プロセッサ構成研究	木村　啓二
	情報システム設計研究	戸川　望
	マルチメディアシステム研究	戸川　望，　後藤　敏
	低消費電力集積システム研究	戸川　望，柳澤　政生，宇佐美　公良

（博士後期課程）

部　　門	研　究　指　導	担　当　教　員
コンピュータ・ヒューマン・インタラクション部門	知覚情報システム研究	小林　哲則，松山　泰男
	音コミュニケーション研究	及川　靖広，松山　泰男
	コンピュータービジョン研究	石川　博
ネットワーク部門	画像情報研究	甲藤　二郎
	ワイヤレスコミュニケーション研究	髙畑　文雄
	情報システム工学研究	後藤　滋樹
	無線信号処理研究	前原　文明
高度計算機構部門	環境量子情報機構研究	入江　克
	並列知識情報処理研究	上田　和紀
	計算知能研究	松山　泰男
ソフトウェア部門	ソフトウェア開発工学研究	深澤　良彰
	ソフトウェア環境研究	筧　捷彦
	知識ソフトウェア研究	菅原　俊治
	高信頼ソフトウェア工学研究	鷲崎　弘宜
情報アーキテクチャ部門	情報構造研究	村岡　洋一
	分散システム研究	中島　達夫
	アドバンスト・コンピューティング・システム研究	笠原　博徳
	並列・分散アーキテクチャ研究	山名　早人
	設計解析システム研究	戸川　望，　柳澤　政生
	先端プロセッサ構成研究	木村　啓二
	情報システム設計研究	戸川　望
	マルチメディアシステム研究	戸川　望，　後藤　敏
	低消費電力集積システム研究	戸川　望，柳澤　政生，宇佐美　公良

（Ⅱ）講義科目　科目の前に付した△印は隔年講義，※印は本年度休講を示す。

学科目名	担当教員	単位	毎週授業時間数 春期	秋期
ヒューマンインタフェース特論	阿部　匡伸，菊池　英明，小林　哲則，五十嵐　健夫 暦本　純一，後藤　真孝，岡田　美智雄	2	0	2
知覚情報システム	小林　哲則	2	2	0
画像情報特論	甲藤　二郎	2	2	0
ワイヤレス通信ネットワーク	髙畑　文雄	2	0	2
情報ネットワーク構成特論	後藤　滋樹	2	2	0
量子イメージング	入江　克	2	2	0
高信頼ソフトウェア	上田　和紀	2	2	0
記号とパターンの統合	松山　泰男	2	2	0
ソフトウェア基礎論特論	筧　捷彦	2	0	2
ソフトウェア開発工学特論	本位田　真一，位野木　万里	2	0	2
並列処理特論	村岡　洋一	2	2	0
分散組込み・リアルタイム処理	中島　達夫	2	2	0
コンピュータ・アーキテクチャ特論	笠原　博徳	2	2	0
ネットワーク・アプリケーション	山名　早人	2	0	2
計算機支援設計	柳澤　政生	2	0	2
先端プロセッサ技術	木村　啓二	2	2	0
ディジタルシステム設計	戸川　望	2	0	2
無線信号処理	前原　文明	2	2	0
分散協調ソフトウェア特論	菅原　俊治	2	0	2
ソフトウェア品質保証特論	鷲崎　弘宜	2	2	0
データベース特論	福田　剛志	2	0	2
情報セキュリティ	西野　哲朗	2	2	0
自然言語処理	村木　一至	2	2	0
※△生体情報処理	合原　一幸	2	0	2
バイオインフォマテイクス特論	山名　早人，野口　保，藤渕　航，諏訪　牧子，本野　千恵， 清水　佳奈，藤　博幸，福井　一彦，富永　大介	2	0	2
電気通信システム	松本　充司	2	0	2
メディアシステム技術特論	亀山　渉，井上　哲理，磯　俊樹，淺谷　耕一	2	2	0
移動通信・放送の制度と技術	福田　雅樹，太田　現一郎，竹田　義行	2	2	0
移動通信・放送の制度と技術	福田　雅樹，竹田　義行，太田　現一郎	2	0	2
情報通信と国際標準化	佐藤　拓朗，渡辺　裕	2	0	2
企業ビジネスと国際標準化	佐藤　拓朗，渡辺　裕	2	2	0

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業時間数	
			春期	秋期
ソフトウェア開発技術1	野田 夏子，鹿糠 秀行	2	2	0
ソフトウェア開発技術2	久保秋 真	2	0	2
ソフトウェア開発技術特論A	竹内 睦貴，駒谷 昇一，眞木 一志	2	2	0
音響知覚概論	東山 三樹夫	2	0	2
コンピュータービジョン	石川 博	2	2	0
集積回路システム設計	宇佐美 公良	2	2	0
ソフトウェア開発技術特論B	藤田 一郎，細川 宣啓	2	2	0
プロジェクト研究	中島 達夫，村岡 洋一，筧 捷彦，後藤 滋樹，深澤 良彰，上田 和紀，山名 早人	4	2	2

（Ⅲ）演習科目

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業時間数	
			春期	秋期
知覚情報システム演習A	小林 哲則，松山 泰男	3	3	0
知覚情報システム演習B	小林 哲則，松山 泰男	3	0	3
知覚情報システム演習C	小林 哲則，松山 泰男	3	3	0
知覚情報システム演習D	小林 哲則，松山 泰男	3	0	3
音コミュニケーション演習A	及川 靖広，松山 泰男	3	3	0
音コミュニケーション演習B	及川 靖広，松山 泰男	3	0	3
音コミュニケーション演習C	及川 靖広，松山 泰男	3	3	0
音コミュニケーション演習D	及川 靖広，松山 泰男	3	0	3
画像情報演習A	甲藤 二郎	3	3	0
画像情報演習B	甲藤 二郎	3	0	3
画像情報演習C	甲藤 二郎	3	3	0
画像情報演習D	甲藤 二郎	3	0	3
ワイヤレスコミュニケーション演習A	髙畑 文雄	3	3	0
ワイヤレスコミュニケーション演習B	髙畑 文雄	3	0	3
ワイヤレスコミュニケーション演習C	髙畑 文雄	3	3	0
ワイヤレスコミュニケーション演習D	髙畑 文雄	3	0	3
情報ネットワーク構成論演習A	後藤 滋樹	3	3	0
情報ネットワーク構成論演習B	後藤 滋樹	3	0	3
情報ネットワーク構成論演習C	後藤 滋樹	3	3	0

学科目名	担当教員	単位	毎週授業時間数	
			春期	秋期
情報ネットワーク構成論演習D	後藤　滋樹	3	0	3
量子イメージング演習A	入江　克	3	3	0
量子イメージング演習B	入江　克	3	0	3
量子イメージング演習C	入江　克	3	3	0
量子イメージング演習D	入江　克	3	0	3
並列知識情報処理演習A	上田　和紀	3	3	0
並列知識情報処理演習B	上田　和紀	3	0	3
並列知識情報処理演習C	上田　和紀	3	3	0
並列知識情報処理演習D	上田　和紀	3	0	3
計算知能演習A	松山　泰男	3	3	0
計算知能演習B	松山　泰男	3	0	3
計算知能演習C	松山　泰男	3	3	0
計算知能演習D	松山　泰男	3	0	3
ソフトウェア環境演習A	筧　　捷彦	3	3	0
ソフトウェア環境演習B	筧　　捷彦	3	0	3
ソフトウェア環境演習C	筧　　捷彦	3	3	0
ソフトウェア環境演習D	筧　　捷彦	3	0	3
ソフトウェア開発工学演習A	深澤　良彰	3	3	0
ソフトウェア開発工学演習B	深澤　良彰	3	0	3
ソフトウエア開発工学演習C	深澤　良彰	3	3	0
ソフトウェア開発工学演習D	深澤　良彰	3	0	3
情報構造演習A	村岡　洋一	3	3	0
情報構造演習B	村岡　洋一	3	0	3
情報構造演習C	村岡　洋一	3	3	0
情報構造演習D	村岡　洋一	3	0	3
分散システム演習A	中島　達夫	3	3	0
分散システム演習B	中島　達夫	3	0	3
分散システム演習C	中島　達夫	3	3	0
分散システム演習D	中島　達夫	3	0	3
アドバンスト・コンピューティング・システム演習A	笠原　博徳	3	3	0
アドバンスト・コンピューティング・システム演習B	笠原　博徳	3	0	3
アドバンスト・コンピューティング・システム演習C	笠原　博徳	3	3	0

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業時間数	
			春期	秋期
アドバンスト・コンピューティング・システム演習D	笠原　博徳	3	0	3
並列・分散アーキテクチャ演習A	山名　早人	3	3	0
並列・分散アーキテクチャ演習B	山名　早人	3	0	3
並列・分散アーキテクチャ演習C	山名　早人	3	3	0
並列・分散アーキテクチャ演習D	山名　早人	3	0	3
設計解析システム演習A	戸川　望，柳澤　政生	3	3	0
設計解析システム演習B	戸川　望，柳澤　政生	3	0	3
設計解析システム演習C	戸川　望，柳澤　政生	3	3	0
設計解析システム演習D	戸川　望，柳澤　政生	3	0	3
先端プロセッサ構成演習A	木村　啓二	3	3	0
先端プロセッサ構成演習B	木村　啓二	3	0	3
先端プロセッサ構成演習C	木村　啓二	3	3	0
先端プロセッサ構成演習D	木村　啓二	3	0	3
情報システム設計演習A	戸川　望	3	3	0
情報システム設計演習B	戸川　望	3	0	3
情報システム設計演習C	戸川　望	3	3	0
情報システム設計演習D	戸川　望	3	0	3
無線信号処理演習A	前原　文明	3	3	0
無線信号処理演習B	前原　文明	3	0	3
無線信号処理演習C	前原　文明	3	3	0
無線信号処理演習D	前原　文明	3	0	3
知識ソフトウェア演習A	菅原　俊治	3	3	0
知識ソフトウェア演習B	菅原　俊治	3	0	3
知識ソフトウェア演習C	菅原　俊治	3	3	0
知識ソフトウェア演習D	菅原　俊治	3	0	3
マルチメディアシステム演習A	戸川　望，後藤　敏	3	3	0
マルチメディアシステム演習B	戸川　望，後藤　敏	3	0	3
マルチメディアシステム演習C	戸川　望，後藤　敏	3	3	0
マルチメディアシステム演習D	戸川　望，後藤　敏	3	0	3
低消費電力集積システム演習A	戸川　望，柳澤　政生，宇佐美　公良	3	3	0
低消費電力集積システム演習B	戸川　望，柳澤　政生，宇佐美　公良	3	0	3
低消費電力集積システム演習C	戸川　望，柳澤　政生，宇佐美　公良	3	3	0
低消費電力集積システム演習D	戸川　望，柳澤　政生，宇佐美　公良	3	0	3

学　科　目　名	担　当　教　員	単位	毎週授業時間数	
			春期	秋期
高信頼ソフトウェア工学演習A	鷲崎　弘宜	3	3	0
高信頼ソフトウェア工学演習B	鷲崎　弘宜	3	0	3
高信頼ソフトウェア工学演習C	鷲崎　弘宜	3	3	0
高信頼ソフトウェア工学演習D	鷲崎　弘宜	3	0	3
コンピュータービジョン演習A	石川　博	3	3	0
コンピュータービジョン演習B	石川　博	3	0	3
コンピュータービジョン演習C	石川　博	3	3	0
コンピュータービジョン演習D	石川　博	3	0	3

（Ⅳ）実験科目

学　科　目　名	担　当　教　員	単位	毎週授業時間数	
			春期	秋期
情報理工学特別実験A	全教員	1	2	0
情報理工学特別実験B	全教員	1	0	2

機械科学専攻

機械科学専攻は，自然の摂理に基づいた科学（Science）とその応用学術分野である機械工学（Mechanical Engineering）を核に据え，物理・数学を基盤として，熱流体，力学，システム，材料，設計の機械系基幹学問を教育研究することを理念とする。この理念に沿って，科学的思考法の鍛錬と，工学的センスを養成する「教育」および学界・産業界に貢献する「研究」を行うことを使命とする。また，従来の学界・産業界から厚い信頼のある基盤的分野のみならず，航空分野をさらに充実させるとともに，21 世紀の未開の領域を切り開く新規分野の開拓・創設を目指す。

機械科学専攻履修方法

1. 指導教授が担当する演習科目は，在学年度において必ず履修しなければならない。
2. 演習科目は 13 単位以上履修してもその分は修了必要単位数に参入しない。

各分野の概要

◆熱流体科学部門

機械・航空分野では熱的変化を伴う非定常流れ現象を扱う機会が多い。本部門では，流体工学，熱力学をベースとして，高速・非定常流動や燃焼・反応流などに関する基礎研究を行なうと共に，機械・航空分野における応用例として，航空エンジン要素や各種ターボ機械内部での熱流体挙動を実験的・数値的に解明することを志向する。

◆力学系・応用数学部門

工学系に現れる様々な力学的現象や非線形挙動の予測や評価のために，数理的な手法を用いて，それを工学系の解析設計へ応用するための方法の確立を目的とする。具体的には，力学系の例として，柔軟宇宙構造物，宇宙ロボット，ビークルなどの非ホロノミック系，マルチボディシステムに現れるディラック構造と陰的なラグランジュ系，さらに流体系の例として流体過渡現象，流体関連振動，超高速液体噴流，交通流などの実験・計測手法，理論解析の方法，数値計算法，最適化手法などについて吟味，検討を行う。

◆システム・環境エネルギー部門

当部門は，エネルギー動力システムをはじめとする各種システムを対象に，システムの力学的挙動を解明し，これをもとにシステムの最適設計さらには最適制御を可能とする方法論の確立を目指し，あわせて具体的なエネルギー・システムのエネルギー利用効率の向上等によって環境問題等にも貢献することを目的に，教育研究を展開する。当然，その過程で，具体的なシステムの構成要素の特性評価さらにはシステムの効率向上に関する実験研究をも行う。あわせて，計測制御工学に関する各種の研究をも行う。

◆材料設計・加工部門

機械構造部材の高強度化，軽量化，耐食・耐久性，信頼性・安全性を追求する観点から，材料力学，弾・塑性力学，構造力学，破壊力学，金属物理学，機械材料学などの学習を背景に，航空機，鉄道車両，自動車，産業機械，精密機器などにおける最適な材料設計，加工方法，評価技術，数値シミュレーションの基礎と応用研究を志向する。

◆機能設計・マイクロ工学部門

高機能な新しい機械システムを実現するための解析力と設計能力の両方に優れた技術者・研究者を育成するために，機械設計，トライボロジー，精密工学，電磁力学などを教授する。さらに研究では，微細・精密で高速な精密情報機器や医療機器の開発を目指す。

（Ⅰ）研究指導

（修士課程）

部　　門	研　究　指　導	担　当　教　員
熱流体科学部門	流体工学研究	太田　有
	流体工学研究	宮川　和芳
	熱流体科学・生命基礎研究	内藤　健
	航空宇宙輸送システム研究	佐藤　哲也，鈴木　和雄
	空気力学研究	手塚　亜聖
力学系・応用数学部門	応用数学研究	山本　勝弘
	応用数学研究	吉村　浩明
	応用数学研究	柳尾　朋洋
システム・環境エネルギー部門	制御工学研究	橋詰　匠
	制御工学研究	武藤　寛
	機械システム制御工学研究	齋藤　潔
	動力・エネルギー工学研究	天野　嘉春，伊東　弘一
材料設計・加工部門	材料強度学研究	増田　千利
	複合材料工学研究	川田　宏之
	材料加工研究	浅川　基男，鈴木　進補
	環境材料学研究	酒井　潤一
	航空宇宙構造研究	森野　美樹
機能設計・マイクロ工学部門	トライボロジー研究	富岡　淳
	精密工学研究	川本　広行

（博士後期課程）

部　　門	研 究 指 導	担 当 教 員
熱流体科学部門	流体工学研究	太田　有
	流体工学研究	宮川　和芳
	熱流体科学・生命基礎研究	内藤　健
	航空宇宙輸送システム研究	佐藤　哲也，鈴木　和雄
	空気力学研究	手塚　亜聖
力学系・応用数学部門	応用数学研究	山本　勝弘
	応用数学研究	吉村　浩明
	応用数学研究	柳尾　朋洋
システム・環境エネルギー部門	制御工学研究	橋詰　匠
	制御工学研究	武藤　寛
	機械システム制御工学研究	齋藤　潔
	動力・エネルギー工学研究	天野　嘉春，伊東　弘一
材料設計・加工部門	材料強度学研究	増田　千利
	複合材料工学研究	川田　宏之
	材料加工研究	浅川　基男，鈴木　進補
	環境材料学研究	酒井　潤一
	航空宇宙構造研究	森野　美樹
機能設計・マイクロ工学部門	トライボロジー研究	富岡　淳
	精密工学研究	川本　広行

（Ⅱ）講義科目　科目の前に付した△印は隔年講義，※印は本年度休講を示す。

学科目名	担当教員	単位	毎週授業時間数	
			春期	秋期
連続体力学特論	山本　勝弘	2	2	0
複合材料工学特論	川田　宏之	2	2	0
塑性力学	浅川　基男	2	0	2
トライボロジー１	富岡　淳	2	2	0
トライボロジー２	富岡　淳，三上　誠	2	0	2
非線形力学	吉村　浩明	2	2	0
非線形有限要素法	久田　俊明	2	0	2
流体力学特論	太田　有	4	2	2
マイクロ工学	川本　広行	2	0	0
制御工学特論	橋詰　匠	4	2	2
制御工学	武藤　寛	2	2	0
機械システム制御工学特論	齋藤　潔	2	2	0
動力・エネルギーシステム工学特論	天野　嘉春	2	2	0
流体関連振動	太田　有，山本　勝弘，宮川　和芳	2	2	0
システム応用解析	藪野　浩司	2	2	0
熱流体科学特論	内藤　健	2	2	0
材料強度学特論	増田　千利	2	0	2
環境材料学特論	酒井　潤一	2	0	2
高速推進工学特論	佐藤　哲也	2	2	0
空気力学特論	手塚　亜聖	2	2	0
統計力学特論	柳尾　朋洋	2	0	2
宇宙工学特論	森野　美樹	2	0	2
流体機械特論	宮川　和芳	2	2	0
※△損傷事例解析	木原　重光，他	2	0	2
△材料のリスク特論	木原　重光，他	2	0	2
溶接・接合	安田　功一	2	2	0
鉄鋼材料学特論	竹内　泉，他	2	2	0
航空エンジン技術特論	鈴木　和雄	2	2	0
宇宙環境利用工学特論	鈴木　進補	2	0	2
Sustainable Science	安井　至	2	0	集中

（Ⅲ）演習科目

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業時間数	
			春期	秋期
工学系解析演習A	山本　勝弘	3	3	0
工学系解析演習B	山本　勝弘	3	0	3
工学系解析演習C	山本　勝弘	3	3	0
工学系解析演習D	山本　勝弘	3	0	3
流体工学演習A	太田　有	3	3	0
流体工学演習B	太田　有	3	0	3
流体工学演習C	太田　有	3	3	0
流体工学演習D	太田　有	3	0	3
流体機械演習A	宮川　和芳	3	3	0
流体機械演習B	宮川　和芳	3	0	3
流体機械演習C	宮川　和芳	3	3	0
流体機械演習D	宮川　和芳	3	0	3
熱流体科学演習A	内藤　健	3	3	0
熱流体科学演習B	内藤　健	3	0	3
熱流体科学演習C	内藤　健	3	3	0
熱流体科学演習D	内藤　健	3	0	3
航空宇宙輸送システム演習A	佐藤　哲也	3	3	0
航空宇宙輸送システム演習B	佐藤　哲也	3	0	3
航空宇宙輸送システム演習C	佐藤　哲也	3	3	0
航空宇宙輸送システム演習D	佐藤　哲也	3	0	3
空気力学演習A	手塚　亜聖	3	3	0
空気力学演習B	手塚　亜聖	3	0	3
空気力学演習C	手塚　亜聖	3	3	0
空気力学演習D	手塚　亜聖	3	0	3
システム数理演習A	吉村　浩明	3	3	0
システム数理演習B	吉村　浩明	3	0	3
システム数理演習C	吉村　浩明	3	3	0
システム数理演習D	吉村　浩明	3	0	3
制御工学演習A	橋詰　匠	3	3	0
制御工学演習B	橋詰　匠	3	0	3
制御工学演習C	橋詰　匠	3	3	0

学科目名	担当教員	単位	毎週授業時間数	
			春期	秋期
制御工学演習D	橋詰　匠	3	0	3
計測・制御工学演習A	武藤　寛	3	3	0
計測・制御工学演習B	武藤　寛	3	0	3
計測・制御工学演習C	武藤　寛	3	3	0
計測・制御工学演習D	武藤　寛	3	0	3
機械システム制御工学演習A	齋藤　潔	3	3	0
機械システム制御工学演習B	齋藤　潔	3	0	3
機械システム制御工学演習C	齋藤　潔	3	3	0
機械システム制御工学演習D	齋藤　潔	3	0	3
動力・エネルギーシステム工学演習A	天野　嘉春，伊東　弘一	3	3	0
動力・エネルギーシステム工学演習B	天野　嘉春，伊東　弘一	3	0	3
動力・エネルギーシステム工学演習C	天野　嘉春	3	3	0
動力・エネルギーシステム工学演習D	天野　嘉春	3	0	3
複合材料工学演習A	川田　宏之	3	3	0
複合材料工学演習B	川田　宏之	3	0	3
複合材料工学演習C	川田　宏之	3	3	0
複合材料工学演習D	川田　宏之	3	0	3
材料システム設計演習A	浅川　基男	3	3	0
材料システム設計演習B	浅川　基男	3	0	3
材料システム設計演習C	浅川　基男	3	3	0
材料システム設計演習D	浅川　基男	3	0	3
材料強度学演習A	増田　千利	3	3	0
材料強度学演習B	増田　千利	3	0	3
材料強度学演習C	増田　千利	3	3	0
材料強度学演習D	増田　千利	3	0	3
環境材料学演習A	酒井　潤一	3	3	0
環境材料学演習B	酒井　潤一	3	0	3
環境材料学演習C	酒井　潤一	3	3	0
環境材料学演習D	酒井　潤一	3	0	3
航空宇宙構造演習A	森野　美樹	3	3	0
航空宇宙構造演習B	森野　美樹	3	0	3
航空宇宙構造演習C	森野　美樹	3	3	0

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業時間数	
			春期	秋期
航空宇宙構造演習D	森野　美樹	3	0	3
トライボロジー演習A	富岡　淳	3	3	0
トライボロジー演習B	富岡　淳	3	0	3
トライボロジー演習C	富岡　淳	3	3	0
トライボロジー演習D	富岡　淳	3	0	3
マイクロ工学演習A	川本　広行	3	3	0
マイクロ工学演習B	川本　広行	3	0	3
マイクロ工学演習C	川本　広行	3	3	0
マイクロ工学演習D	川本　広行	3	0	3
非平衡統計力学演習A	柳尾　朋洋	3	3	0
非平衡統計力学演習B	柳尾　朋洋	3	0	3
非平衡統計力学演習C	柳尾　朋洋	3	3	0
非平衡統計力学演習D	柳尾　朋洋	3	0	3

電子光システム学専攻

電子光システム学専攻は，原子，分子を基本素材とした自己集積，自己組織化による高次構造形成，あるいは超微細加工技術によるナノメータからマクロなサイズに至る機能システムの実現のために，電子と光を媒介とする機能発現，機能集積によるシステム化，という新しい学術分野を開拓する。さらに，これらの教育と研究を通して，ものを通じての論理構成能力の養成，ものつくりのセンス及びシステム的思考のセンスの体得，多角的視野の獲得，柔軟な思考能力と進取の精神の涵養を行う。

本専攻は，電子と光の高度な技術活用によって経済の活性化を期する，との強い社会的要請に基づいて設立された。エレクトロニクス，フォトニクスは 21 世紀における産業の中核といわれ，多くの産業分野が電子と光を意識することにより技術の究極の高度化を図っている。また，エレクトロニクスおよびフォトニクスを，ハードウェアの理解に立脚しながらシステム化し，そしてネットワーク技術へと昇華させることにより，より豊かな社会の構築に大きく貢献することが期待されている。これらの要請に応えるために，電子光システム学における世界的水準の技術者ならびに研究者を育成する。

基幹産業に関わる多くの企業がエレクトロニクス，フォトニクスを意識することによりもたらされる技術の高度化に注目し，電子と光を対象とした素材やデバイスの開発とそれらのシステム応用を推進している。また，大規模集積回路開発の延長線上にあるシステムオンチップはその活用の範囲に広がりを見せている。さらに，これらの機能のネットワークによる共有化は豊かな高度情報化社会の構築に不可欠となっている。したがって，電子光システム学の知識と素養を身に着けた修士課程修了生ならびに博士後期課程修了生は，電気・電子・通信・素材・自動車・航空宇宙等の企業，官公庁，各種教育研究機関など多様な分野において活躍することが想定される。

電子光システム学専攻履修方法

1. 指導教員が担当する演習科目は，在学年度において必ず履修しなければならない。
2. 演習科目は 13 単位以上履修してもその分は修了必要単位数には算入しない。

各分野の概要

◆基礎物性部門

凝集体の物性に関する基礎的研究を行うことを目的としている。量子物理，固体物理，熱学，統計力学などを専門とする教員によって構成されており，本部門では，原子，電子，光子から連続体までのマルチスケールにおける物性研究を進める。本部門の具体的な研究テーマは，以下の通りである。

○固体における相転移および相変化によって生じた対称性の破れた状態に注目し，その詳細を透過型電子顕微鏡等の回折結晶学手法により明らかにしている。特に，ナノスケールによって特徴付けられる新規な状態の探査を行う。

○場の量子論，量子力学基礎，素粒子物理学。最近の話題として，熱的状況における場の理論やアルカリ原子のボース・アインシュタイン凝縮現象の理論的研究を行う。

○量子力学を用いた固体の諸物性に関する基礎的研究。特に，原子レベルでの欠陥や添加元素が固体の諸物性に与える影響に関する研究を行う。

○高温における物質の物理化学，特に熱力学データの測定，反応拡散現象，混相流体の挙動などの研究を行う。

○材料設計の基礎となる数学的手法やシミュレーション技術に関する研究を行う。組織形成を記述する偏微分方程式やモンテカルロ法，フェーズ・フィールド法などの数値シミュレーションが主たる研究対象である。

◆エレクトロニクス部門

電子素子の動作原理やその製造プロセスを基盤として，素子性能の高度化，新機能の発現，さらには異分野への応用に関する研究を行う。電子素子の性能は，これまで，素子寸法を縮小することによって向上され，高度情報化社会の基盤をなしてきた。今日，電子素子の寸法はナノスケールにまで縮小され，微細化限界を迎えようとしている。この状況においては，さらなる微細化による性能向上だけでなく，ナノスケールにおいて顕在化する物理現象の活用，炭素材料やソフトマテリアルをも融合する新しいプロセス開発などを通して，電子を基盤とする技術を化学，生物，環境，機械などの異分野に展開することも要請される。具体的には，分子ナノ工学研究，ナノデバイス研究，マイクロシステム研究，ナノ材料情報学研究に関する研究指導を行う。

◆フォトニクス部門

半導体レーザ・発光ダイオードなどの光発生，光検波，光変調などの光と媒質の相互作用や，光ファイバ通信，光空間通信などの光導波，光空間伝搬や光伝送システム，さらに光センサ，光計測，光ディスクなどの光応用に関して，波動から光子までの視点から俯瞰した学問分野であるフォトニクスに関して，それらの動作原理を理解し，さらに新たな光機能を創出し，高度情報化社会を一層豊かにするための応用に資する研究を行う。光学，量子力学，半導体工学，量子エレクトロニクス，伝送理論，無線通信などの学問を基礎とし，ナノ光物性技術，光学材料技術，光デバイス技術，光回路技術，光信号伝送や光信号処理技術，そして光ネットワークまでを包括する。具体的には，機能フォトニクス研究及び光無線通信方式研究に関する研究指導を行う。

◆情報システム部門

情報システムの構成要素である LSI（大規模集積回路）や SoC（System on a Chip）から動画像などのマルチメディアや高度情報通信を対象とした応用システム開発まで幅広い範囲を対象とし，それぞれの設計方法論，計算機による設計支援（CAD：Computer-Aided Design）などに関して，理論的ならびに実践的な立場から研究を行う。理論的な側面としては，アルゴリズムとデータ構造，プログラム構成論，計算複雑度の理論，グラフ理論，組み合わせ論，デジタル信号処理，コンピュータアーキテクチャなどの基礎学問分野を扱う。実践的な側面としては，動画像処理（圧縮，認識など），セキュリティ（暗号化，復号化など），情報通信ネットワーク（アドホック・ネットワーク，センサー・ネットワークなど），CAD 技術（ハードウェア／ソフトウェア協調設計，高位検証など），低消費電力技術などを扱う。具体的には，設計解析システム研究，アプリケーション SoC 研究，高位検証技術研究，マルチメディアシステム研究に関する研究指導を行う。

（Ⅰ）研究指導

（修士課程）

部　　門	研　究　指　導	担　当　教　員
基礎物性部門	固体物理研究	小山　泰正
	数理材料設計学研究	齊藤　良行
	凝縮系の理論物理研究	山中　由也
	量子物性科学研究	山本　知之
	高温物理化学研究	山中　由也，伊藤　公久
エレクトロニクス部門	分子ナノ工学研究	谷井　孝至
	ナノデバイス研究	谷井　孝至，川原田　洋
	マイクロシステム研究	谷井　孝至，庄子　習一
	ナノ材料情報学研究	谷井　孝至，渡邉　孝信
フォトニクス部門	機能フォトニクス研究	宇髙　勝之
	光無線通信方式研究	宇髙　勝之，松本　充司
情報システム部門	設計解析システム研究	柳澤　政生
	マルチメディアシステム研究	柳澤　政生，後藤　敏
	高位検証技術研究	柳澤　政生，木村　晋二
	アプリケーション SoC 研究	柳澤　政生，池永　剛
	低消費電力集積システム研究	柳澤　政生，戸川　望，宇佐美　公良

（博士後期課程）

部　　門	研　究　指　導	担　当　教　員
基礎物性部門	固体物理研究	小山　泰正
	数理材料設計学研究	齊藤　良行
	凝縮系の理論物理研究	山中　由也
	量子物性科学研究	山本　知之
	高温物理化学研究	山中　由也，伊藤　公久
エレクトロニクス部門	分子ナノ工学研究	谷井　孝至
	ナノデバイス研究	谷井　孝至，川原田　洋
	マイクロシステム研究	谷井　孝至，庄子　習一
	ナノ材料情報学研究	谷井　孝至，渡邉　孝信
フォトニクス部門	機能フォトニクス研究	宇髙　勝之
	光無線通信方式研究	宇髙　勝之，松本　充司
情報システム部門	設計解析システム研究	柳澤　政生
	マルチメディアシステム研究	柳澤　政生，後藤　敏
	高位検証技術研究	柳澤　政生，木村　晋二
	アプリケーション SoC 研究	柳澤　政生，池永　剛
	低消費電力集積システム研究	柳澤　政生，戸川　望，宇佐美　公良

（Ⅱ）講義科目

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業時間数	
			春期	秋期
フォトニクス特論	宇髙　勝之	2	0	2
固体物理特論	小山　泰正	2	2	0
数理材料設計学特論	齊藤　良行	2	2	0
分子ナノ工学概論	谷井　孝至	2	0	2
計算機支援設計	柳澤　政生	2	0	2
凝縮系の理論物理特論	山中　由也	2	2	0
量子物性科学特論	山本　知之	2	0	2
ナノデバイス工学	川原田　洋	2	0	2
ナノバイオフュージョンシステム	庄子　習一，谷口　彰良，工藤　寛之，荒川　貴博	2	0	2
計算機実験学概論	渡邉　孝信	2	0	2
高温物理化学特論	伊藤　公久	2	2	0
材料の機器分析	井上　靖秀	2	2	0
医用電子工学	京相　雅樹	2	2	0
センサネット	本田　敏	2	2	0
フォトニックシステム	鈴木　正敏	2	2	0
電気通信システム	松本　充司	2	0	2
超高速フォトニックデバイス	小林　直人	2	0	2
集積回路システム設計	宇佐美　公良	2	2	0

（Ⅲ）演習科目

学科目名	担当教員	単位	毎週授業時間数	
			春期	秋期
固体物理演習A	小山　泰正	3	3	0
固体物理演習B	小山　泰正	3	0	3
固体物理演習C	小山　泰正	3	3	0
固体物理演習D	小山　泰正	3	0	3
数理材料設計学演習A	齊藤　良行	3	3	0
数理材料設計学演習B	齊藤　良行	3	0	3
数理材料設計学演習C	齊藤　良行	3	3	0
数理材料設計学演習D	齊藤　良行	3	0	3
凝縮系の理論物理演習A	山中　由也	3	3	0
凝縮系の理論物理演習B	山中　由也	3	0	3
凝縮系の理論物理演習C	山中　由也	3	3	0
凝縮系の理論物理演習D	山中　由也	3	0	3
量子物性科学演習A	山本　知之	3	3	0
量子物性科学演習B	山本　知之	3	0	3
量子物性科学演習C	山本　知之	3	3	0
量子物性科学演習D	山本　知之	3	0	3
高温物理化学演習A	伊藤　公久	3	3	0
高温物理化学演習B	伊藤　公久	3	0	3
高温物理化学演習C	伊藤　公久	3	3	0
高温物理化学演習D	伊藤　公久	3	0	3
分子ナノ工学演習A	谷井　孝至	3	3	0
分子ナノ工学演習B	谷井　孝至	3	0	3
分子ナノ工学演習C	谷井　孝至	3	3	0
分子ナノ工学演習D	谷井　孝至	3	0	3
ナノエレクトロニクス演習A	川原田　洋	3	3	0
ナノエレクトロニクス演習B	川原田　洋	3	0	3
ナノエレクトロニクス演習C	川原田　洋	3	3	0
ナノエレクトロニクス演習D	川原田　洋	3	0	3
マイクロシステム演習A	庄子　習一	3	3	0
マイクロシステム演習B	庄子　習一	3	0	3
マイクロシステム演習C	庄子　習一	3	3	0

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業時間数	
			春期	秋期
マイクロシステム演習D	庄子 習一	3	0	3
ナノ材料情報学演習A	渡邉 孝信	3	3	0
ナノ材料情報学演習B	渡邉 孝信	3	0	3
ナノ材料情報学演習C	渡邉 孝信	3	3	0
ナノ材料情報学演習D	渡邉 孝信	3	0	3
機能フォトニクス演習A	宇髙 勝之	3	3	0
機能フォトニクス演習B	宇髙 勝之	3	0	3
機能フォトニクス演習C	宇髙 勝之	3	3	0
機能フォトニクス演習D	宇髙 勝之	3	0	3
光無線通信方式演習A	松本 充司	3	3	0
光無線通信方式演習B	松本 充司	3	0	3
光無線通信方式演習C	松本 充司	3	3	0
光無線通信方式演習D	松本 充司	3	0	3
設計解析システム演習A	柳澤 政生	3	3	0
設計解析システム演習B	柳澤 政生	3	0	3
設計解析システム演習C	柳澤 政生	3	3	0
設計解析システム演習D	柳澤 政生	3	0	3
マルチメディアシステム演習A	後藤 敏, 柳澤 政生	3	3	0
マルチメディアシステム演習B	後藤 敏, 柳澤 政生	3	0	3
マルチメディアシステム演習C	後藤 敏, 柳澤 政生	3	3	0
マルチメディアシステム演習D	後藤 敏, 柳澤 政生	3	0	3
高位検証技術演習A	木村 晋二, 柳澤 政生	3	3	0
高位検証技術演習B	木村 晋二, 柳澤 政生	3	0	3
高位検証技術演習C	木村 晋二, 柳澤 政生	3	3	0
高位検証技術演習D	木村 晋二, 柳澤 政生	3	0	3
アプリケーション SoC 演習A	池永 剛, 柳澤 政生	3	3	0
アプリケーション SoC 演習B	池永 剛, 柳澤 政生	3	0	3
アプリケーション SoC 演習C	池永 剛, 柳澤 政生	3	3	0
アプリケーション SoC 演習D	池永 剛, 柳澤 政生	3	0	3
低消費電力集積システム演習A	宇佐美 公良, 柳澤 政生, 戸川 望	3	3	0
低消費電力集積システム演習B	宇佐美 公良, 柳澤 政生, 戸川 望	3	0	3
低消費電力集積システム演習C	宇佐美 公良, 柳澤 政生, 戸川 望	3	3	0
低消費電力集積システム演習D	宇佐美 公良, 柳澤 政生, 戸川 望	3	0	3

表現工学専攻

近年のメディア技術の発達により，新たな文化・産業の創出が期待されているが，一方で，それに伴う諸問題，例えばコンテンツの質的・量的不足や生体への不適合などが顕在化している。それらの問題を解決し，次世代のメディアを活用したライフスタイルや社会システムを展望するためには，科学技術を介した生体の諸特性，感性やコミュニケーションの理解・表象と同時に，それらを支える科学技術のあり方への取り組みが必要である。表現工学専攻では，このような認識に基づき，科学技術と芸術表現の融合による，新たな社会ニーズへの対応と価値の創造へ挑戦していくことを，その理念としている。

表現工学専攻では，科学技術と芸術表現を横断・融合する概念である「インターメディア」を対象として，高度かつ専門的な教育・研究活動を推進する。具体的に，修士課程においては，インターメディア工学部門とインターメディア芸術部門の2部門を設定し，部門毎の専門性を反映した講義科目と，部門間の融合性を意図した演習科目・研究指導を設置する。博士後期課程においては，部門間の横断・融合を促進し，より高度な研究業績の達成を目指した研究指導を行う。なお，コンテンツ制作を主題とした研究課題においては，国際水準のコンペティションでの受賞に相当する業績の達成を目標とし，それに基づく修士論文および博士論文の研究指導を行う。

表現工学専攻履修方法

1. 指導教員が担当する演習科目は，在学年度において必ず履修しなければならない。
2. 演習科目は13単位を超えて履修しても，その分は修了単位数には算入しない。
3. 講義科目の選択にあたっては，指導教授の指導を受けること。

各分野の概要

表現工学専攻には，以下の2部門が設定されている。学生諸君には，各自の専門性に対応した部門の講義科目の履修と，部門間を積極的に横断・融合する研究課題の設定を推奨する。

◆インターメディア工学部門

映像・音響工学，人間工学，センシング工学，バーチャルリアリティ，五感・認知科学などの分野をカバーする。動的知能表現システム研究，先端メディアと人間工学研究，マルチメディア表現システム研究，知覚情報システム研究，音響情報処理研究，音コミュニケーション科学研究，オーディオビジュアル情報処理研究からなる研究指導を行っている。

◆インターメディア芸術部門

デザイン，音楽，美術，記号論，物語論などの分野をカバーする。音楽情報科学研究，メディアデザイン研究，デジタルメディア表現研究，藝術工学研究，映像表現と創造研究，表現構造研究からなる研究指導を行っている。

(Ⅰ) 研究指導

(修士課程)

部　　門	研 究 指 導	担 当 教 員
インターメディア工学部門	動的知能表現システム研究	尾形　哲也
	先端メディアと人間工学研究	河合　隆史
	マルチメディア表現システム研究	河合　隆史，亀山　渉
	知覚情報システム研究	小林　哲則
	音響情報処理研究	山崎　芳男
	音コミュニケーション科学研究	及川　靖広
	オーディオビジュアル情報処理研究	山崎　芳男，渡辺　裕
インターメディア芸術部門	音楽情報科学研究	菅野　由弘
	メディアデザイン研究	長　　幾朗
	デジタルメディア表現研究	長　　幾朗，坂井　滋和
	藝術工学研究	藪野　健
	映像表現と創造研究	藪野　健，安藤　紘平
	表現構造研究	山田　泰完

(博士後期課程)

部　　門	研 究 指 導	担 当 教 員
インターメディア工学部門	動的知能表現システム研究	尾形　哲也
	先端メディアと人間工学研究	河合　隆史
	マルチメディア表現システム研究	河合　隆史，亀山　渉
	知覚情報システム研究	小林　哲則
	音響情報処理研究	山崎　芳男
	音コミュニケーション科学研究	及川　靖広
	オーディオビジュアル情報処理研究	山崎　芳男，渡辺　裕
インターメディア芸術部門	音楽情報科学研究	菅野　由弘
	メディアデザイン研究	長　　幾朗
	デジタルメディア表現研究	長　　幾朗，坂井　滋和
	藝術工学研究	藪野　健
	表現構造研究	山田　泰完

(Ⅱ) 講義科目

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業時間数	
			春期	秋期
動的知能表現システム特論	尾形　哲也	2	2	0
メディアエルゴノミクス特論	河合　隆史	2	2	0
先端メディアシステム工学	河合　隆史	2	0	2
音楽情報科学特論	菅野　由弘	2	2	0

学　科　目　名	担　当　教　員	単位	毎週授業時間数	
			春期	秋期
知覚情報システム	小林　哲則	2	2	0
メディアデザイン特論	長　　幾朗	2	2	0
藝術工学特論	藪野　健	2	2	0
音響情報処理特論	山崎　芳男	2	0	2
表現構造特論	山田　泰完	2	2	0
音コミュニケーション科学特論	大内　康裕	2	0	2
画像情報特論	甲藤　二郎	2	2	0

（Ⅲ）演習科目

学　科　目　名	担　当　教　員	単位	毎週授業時間数	
			春期	秋期
動的知能表現システム演習A	尾形　哲也	3	3	0
動的知能表現システム演習B	尾形　哲也	3	0	3
動的知能表現システム演習C	尾形　哲也	3	3	0
動的知能表現システム演習D	尾形　哲也	3	0	3
先端メディアと人間工学演習A	河合　隆史	3	3	0
先端メディアと人間工学演習B	河合　隆史	3	0	3
先端メディアと人間工学演習C	河合　隆史	3	3	0
先端メディアと人間工学演習D	河合　隆史	3	0	3
マルチメディア表現システム演習A	河合　隆史，亀山　渉	3	3	0
マルチメディア表現システム演習B	河合　隆史，亀山　渉	3	0	3
マルチメディア表現システム演習C	河合　隆史，亀山　渉	3	3	0
マルチメディア表現システム演習D	河合　隆史，亀山　渉	3	0	3
知覚情報システム演習A	小林　哲則	3	3	0
知覚情報システム演習B	小林　哲則	3	0	3
知覚情報システム演習C	小林　哲則	3	3	0
知覚情報システム演習D	小林　哲則	3	0	3
音響情報処理演習A	山崎　芳男	3	3	0
音響情報処理演習B	山崎　芳男	3	0	3
音響情報処理演習C	山崎　芳男	3	3	0
音響情報処理演習D	山崎　芳男	3	0	3
オーディオビジュアル情報処理演習A	山崎　芳男，渡辺　裕	3	3	0

学 科 目 名	担 当 教 員	単位	毎週授業時間数	
			春期	秋期
オーディオビジュアル情報処理演習B	山崎 芳男, 渡辺 裕	3	0	3
オーディオビジュアル情報処理演習C	山崎 芳男, 渡辺 裕	3	3	0
オーディオビジュアル情報処理演習D	山崎 芳男, 渡辺 裕	3	0	3
音コミュニケーション科学演習A	及川 靖広	3	3	0
音コミュニケーション科学演習B	及川 靖広	3	0	3
音コミュニケーション科学演習C	及川 靖広	3	3	0
音コミュニケーション科学演習D	及川 靖広	3	0	3
音楽情報科学演習A	菅野 由弘	3	3	0
音楽情報科学演習B	菅野 由弘	3	0	3
音楽情報科学演習C	菅野 由弘	3	3	0
音楽情報科学演習D	菅野 由弘	3	0	3
メディアデザイン演習A	長 幾朗	3	3	0
メディアデザイン演習B	長 幾朗	3	0	3
メディアデザイン演習C	長 幾朗	3	3	0
メディアデザイン演習D	長 幾朗	3	0	3
デジタルメディア表現演習A	長 幾朗, 坂井 滋和	3	3	0
デジタルメディア表現演習B	長 幾朗, 坂井 滋和	3	0	3
デジタルメディア表現演習C	長 幾朗, 坂井 滋和	3	3	0
デジタルメディア表現演習D	長 幾朗, 坂井 滋和	3	0	3
藝術工学演習A	藪野 健	3	3	0
藝術工学演習B	藪野 健	3	0	3
藝術工学演習C	藪野 健	3	3	0
藝術工学演習D	藪野 健	3	0	3
映像表現と創造演習A	藪野 健, 安藤 紘平	3	3	0
映像表現と創造演習B	藪野 健, 安藤 紘平	3	0	3
映像表現と創造演習C	藪野 健, 安藤 紘平	3	3	0
映像表現と創造演習D	藪野 健, 安藤 紘平	3	0	3
表現構造演習A	山田 泰完	3	3	0
表現構造演習B	山田 泰完	3	0	3
表現構造演習C	山田 泰完	3	3	0
表現構造演習D	山田 泰完	3	0	3

12 教員免許状の取得方法

(1) **基幹理工学研究科で取得できる教員免許状の種類および免許教科**

免許状の種類

中学校教諭専修免許状,

高等学校教諭専修免許状

免許教科

数学，理科，情報

(2) **専修免許状の取得方法**

専　　攻	取得できる教科
数理応用数理専攻	数学, 情報（高校のみ）
情報理工専攻	数学, 情報（高校のみ）
機械科学専攻	理科，数学
電子光システム学専攻	数学
表現工学専攻	なし

【基礎資格】

・修士の学位を有すること

・大学の専攻科または文部大臣の指定するこれに相当する課程に 1 年以上在学し，30 単位以上を修得すること。

・本研究科入学以前に一種免許状を取得していること。または本研究科在学中に教育職員免許法第 5 条別表第 1 の所定単位を履修し取得条件をみたすこと。

【単位修得方法】

「教科に関する専門教育科目」を 24 単位以上修得するものとする。

「教科に関する専門教育科目」は理工学術院ホームページで確認すること。

（http:// www.sci.waseda.ac.jp/office/KYOUSHOKU/kyousyoku-top.html）

(3) **免許状の申請**

原則として本人が授与権者（居住地の都道府県教育委員会）に対して行う。ただし 3 月の修了時に限り，教育職員免許状を必要とする学生のために，大学が各人の申請をとりまとめて申請を代行（一括申請）し，学位授与式当日手渡せるようとりはからっている。

その手続については，7 月に免許状一括申請の登録，11 月に宣誓・署名・捺印および申請料金の納入の手続を行うので，掲示及びメールでの連絡等に十分注意すること。期限遅れ等により一括審査を受けられなかった場合は，個人で申請することになる。

〈注意〉一種免許状を取得しておらず，今年度より教職課程の聴講を希望する者は，学部の科目等履修生となった上で，教職課程の科目を聴講することになる。詳細については，理工学術院統合事務所および出身学部事務所に問い合わせること。

13 授業時間帯

早稲田大学の授業時間帯は下表のとおりである。

時 限	1	2	3	4	5	6	7
時 間	9：00 〜 10：30	10：40 〜 12：10	13：00 〜 14：30	14：45 〜 16：15	16：30 〜 18：00	18：15 〜 19：45	19：55 〜 21：25

14 レポート・論文作成にあたっての注意事項

出典を明示せずに書物，ウェブ・サイトなどから他人の文章や資料の全部または一部をレポート・論文等に記載した場合，「盗用」・「剽窃」にあたり不正行為とみなされ，処分の対象になる。

自分の考えを述べる上で他人の文章や資料を「引用」・「参照」する際は，引用箇所を「 」等で明示し，出典（著者名，タイトル，該当ページ，出版社，出版年，ウェブ・サイトの場合はアドレスとアクセスした日付）を正確に記載することが一般的なルールである。ただし，引用の分量が多くなる場合は，「引用」・「転載」の許可を著者に求める必要があるので，必要最小限にとどめること。

15 成績の表示

成績は，各学期ごとに定められた発表日に Waseda-net ポータル上で発表される。成績発表日については理工学術院ホームページで確認すること。

講義科目・演習科目・修士論文の成績表記は A⁺・A・B・C・Fをもって表示し，A⁺〜 Cを合格，Fを不合格とする。研究指導の成績表記は Pと Qをもって表示し，Pは合格，Qは不合格とする。なお，成績発表の際にはこのほかに H・＊という記号を使用する。

H……成績保留を意味する。担当教員から課題などを発表してもらえる場合があるので，掲示や教員の指示を確認すること。なお，教員からの指示に従わずに年度を越えた場合には自動的に F 評価となる。

＊……登録している科目で，担当教員からの成績がまだ出ていない科目を示す。

評 価	A⁺	A	B	C	F	H
点 数	100 〜 90	89 〜 80	79 〜 70	69 〜 60	59 〜	
成績証明書	A⁺	A	B	C	表 示 な し	
判 定	合 格				不 合 格	

【GPA について】

①計算式

科目の成績評価に対して Grade Point と呼ばれる換算値（A⁺は 4 点，A は 3 点，B は 2 点，C は 1 点，不合格は 0 点）が決められている。それぞれの「科目の単位数」と「成績評価の Grade Point」の積の総和を「総登録単位数」で割って，スコア化したものが GPA（Grade Point Average）である。総登録単位数には，不合格科目の単位も含まれる。これを式で表すと，次のようになる。

$$\frac{(A^{+}\text{修得単位数}\times 4)+(\text{A修得単位数}\times 3)+(\text{B修得単位数}\times 2)+(\text{C修得単位数}\times 1)+(\text{不合格科目単位数}\times 0)}{\text{総登録単位数(不合格科目を含む)}}$$

※成績保留としてのH評価は対象外であるが，合格，不合格が確定された後に対象となる。

※GPAは小数第2位まで表示される。（小数第3位は，四捨五入とする。）

②対象科目

卒業算入対象科目が対象となる。

ただし，以下の成績評価の場合はGPA計算の対象から除外される。

「P」および「Q」：研究指導における評価

「N」：認定科目における評価

③GPAの通知・証明

GPAの対象科目の成績およびGPAが記載された「GPA証明書」を発行する。

なお「成績証明書」には，GPAは記載されない。成績通知書，Waseda-netポータルの成績照会には記載される。

16　科目等履修生

科目等履修生には官公庁，外国政府，学校，研究機関，民間団体等の委託に基づく委託履修生と，それ以外の一般履修生とがある。科目等履修生の入学時期は学期の始めとする。ただし，委託履修生は事情により学期の中途においても入学を許可することがある。一般履修生の在学期間は1年間であり，引き続き科目等履修生として入学を志願する場合には改めて願い出なければならない。

①科目等の履修および単位について

委託履修生および一般履修生は，正規の学生の修学の妨げにならない限り授業科目および特定課題についての研究指導を受けられる。

なお，履修できる授業科目の制限単位は次のとおりである。

1. 授業科目のみの場合　　20単位
2. 授業科目および研究指導をあわせて履修する場合　　10単位

修士課程に正規生として入学した場合は，単位振替願を提出することによって，履修生として修得した単位のうち通常6単位，最高10単位までを修士課程修了単位数に振り替えることができる。

「留学」の在留資格をもつ外国学生は，1週間10時間（7科目相当）以上の科目の登録が必要なので注意すること。

②学費について（2012 年度）

	本学卒業生および 本学大学院修了生	左記以外
入学金	免除	50,000 円
履修料　1 単位につき	47,900 円	
研修指導料	修士課程　239,500 円（春学期（前期））・239,500 円（秋学期（後期））	
	博士後期課程　188,500 円（春学期（前期））・188,500 円（秋学期（後期））	
実験演習料	実験をともなう場合にのみ必要	

※研究指導および演習科目履修者に対しては，実験演習料を徴収する。

※次の者は選考料（25,000 円）および入学金を免除する。

イ．本学大学院正規学生であった者で，引き続き科目等履修生として入学を志願し許可された者。

ロ．前項の規定により科目等履修生となった者で次年度以降も引き続き科目等履修生として入学を志願し，許可された者。

ハ．（イ）の規定によらない履修生で，引き続き履修生として入学を志願し許可された場合には，2 年間に限り免除とする。

Ⅳ

学生生活

1	CAMPUS DIARY	1. CAMPUS DIARY
2	理工学術院および基幹理工学研究科ホームページ	2. ホームページ
3	学籍番号	3. 学籍番号
4	クラス担任制度	4. クラス担任
5	学生相談	5. 学生相談
6	就職	6. 就　職
7	学生証	7. 学生証
8	各種証明書類の交付	8. 証明書交付
9	各種願・届の提出	9. 各種願提出
10	奨学金制度	10. 奨学金
11	掲示	11. 掲　示
12	教室・共通ゼミ室の使用	12. 教室の使用
13	学生の課外活動	13. 課外活動
14	安全管理	14. 安全管理
15	海外留学等	15. 海外留学
16	禁煙キャンパス	16. 禁煙キャンパス
17	自転車，バイクおよび自動車の通学利用禁止	17. 自転車禁止
18	図書館（理工学生読書室・理工学図書館）	18. 図書館・読書室
19	コンピュータ・ルーム	19. コンピュータ・ルーム
20	実験施設紹介	20. 実験施設
21	保健センター西早稲田分室	21. 保健センター
22	交通機関のストライキと授業	22. 交通機関の影響
23	天候悪化（台風・大雪等）による休講等の取扱いについて	23. 天候変化の影響

1 CAMPUS DIARY

この研究科要項とは別に，『CAMPUS DIARY』が交付される。本研究科要項が基幹理工学研究科における学修を中心に編集されているのに対し，『CAMPUS DIARY』は，早稲田大学における学生生活を中心に編集されている。研究科要項と共に活用してもらいたい。

2 理工学術院および基幹理工学研究科ホームページ

本研究科ではホームページを開設し，インターネットを通じた情報発信を行っている。各専攻からの案内，各種申請手続や日程等の事務所からの情報，実験室等に関する情報を掲載している。

http：//www.sci.waseda.ac.jp

http：//www.waseda.jp/fse/

3 学籍番号

本研究科は，学生個人について入学時に学籍番号を定めている。この学籍番号は，修士課程，博士後期課程別になっており，それぞれの在学期間を通じて変更はない。

最初の 2 桁 51 は基幹理工学研究科，次の 2 桁は入学年度（西暦下 2 桁），次の 1 桁（アルファベット）は専攻別，最後の 3 桁は所属専攻内における学生の番号を示す。

なお，学籍番号とは別にコンピュータに入力する際にだけ使用するチェック・デジット（略称 CD）1 桁を付ける。これはコンピュータへの入力ミス防止のためのものである。

（例）　　（学籍番号）　　（CD）

51　12　A　　001　－4

基幹理工学研究科　2012 年度入学　専攻　　通し番号

専攻コード

A　数学応用数理専攻
B　情報理工学専攻
C　機械科学専攻
D　電子光システム専攻
E　表現工学専攻

種　　別	通し番号
修士課程	001 ～
博士課程	501 ～
(修士)再入学	601 ～
(博士)再入学	651 ～
(博士)一般科目等履修生 委託科目等履修生 外国人特別研修生	801 ～
(博士)交流学生	851 ～
(修士)一般科目等履修生 委託科目等履修生	901 ～
(修士)交流学生	951 ～

4 クラス担任制度

学生生活等について，諸君の相談相手となって，必要な指導助言を与えるために，クラス担任制度が設けられている。教員との人間的ふれあいや，勉学上・個人生活上のアドバイスを希望する者は，この制度を利用して，学生生活をより有意義なものとすることが望ましい。詳細については，科目登録の手引き・理工学術院ホームページ（http：//www.sci.waseda.ac.jp/office/career/classtannin.html）等で確認すること。なお，面会を希望する場合は，直接研究室，教員に予約をとること。

5 学生相談

(1) **理工学術院統合事務所（51 号館 1 階）**

科目登録・授業・試験・成績・学籍（休学・留学・退学等）・教室貸与・奨学金等，修学上に関わるすべての事項について，その相談に応じている。また，遺失物や拾得物も管理しているので，これらに関する質問があれば随時相談すること。

事務取扱時間・休業日

月～土曜日　9 時～ 17 時

休　業　日　日曜日・国民の祝日（一部開室）・創立記念日（10 月 21 日※授業実施の場合は開室）・年末年始･夏季一斉休業期間および夏季冬季休業中の土曜日･臨時の休業日。詳細は，理工学術院ホームページ，又は『科目登録の手引き』で確認すること。

(注) 夏季休業・冬季休業等の期間中は，事務処理が平常時より時間がかかる場合があるので留意すること。

(2) **ハラスメント防止室**

早稲田大学はハラスメント防止に真摯に取り組んでいます。

もう一歩先のハラスメント理解のための Q & A

〈解　説〉

Q ハラスメントって何ですか?

A ハラスメントとは，性別，社会的身分，人種，国籍，信条，年齢，職業，身体的特徴等の属性あるいは広く人格に関わる事項等に関する言動によって，相手方に不利益や不快感を与え，あるいはその尊厳を損なうことをいいます。大学におけるハラスメントとしては，性的な言動によるセクシュアル・ハラスメント，勉学・教育・研究に関連する言動によるアカデミック・ハラスメント，優越的地位や職務上の地位に基づく言動によるパワー・ハラスメントなどがあります。

Q ハラスメントって何で問題なのですか?

A 人権侵害だからです。ごく気軽な気持ちでの行為や言動が相手にとっては耐えられない苦痛となっていることもあります。結果として，日常生活に支障をきたすケースも少なくありません。自分に置き換えて，問題意識を高く持つことが大切です。そのためにも正しい知識，理解が求められます。

ハラスメント防止委員会では，「ハラスメント防止に関するガイドライン」を制定し，対応を定めるとともに，パンフレットや Web サイトで様々な情報を提供しています。是非活用してください。

ハラスメント防止委員会 URL
http://www.waseda.jp/stop/

Q 学生がハラスメントにあうのは , どんな場面ですか?

A きわめて残念なことですが，授業・ゼミ等がアカデミック・ハラスメントやセクシュアル・ハラスメントの場，サークル等がセクシュアル・ハラスメントやパワー・ハラスメントの場になりえます。

Q 学生が加害者になることもありますか?

A はい，ありえます。たとえばサークルのコンパで性的な言動を繰り返したり，飲酒を強要したり，交際をしつこく迫った結果，相手が不快感を持った場合には，セクシュアル・ハラスメント，パワー・ハラスメントになりえます。

〈相　談〉

Q ハラスメントをうけた場合，どこに相談すればいいのでしょうか?

A ハラスメント防止室（相談室）に相談してください。開室時間，相談方法，連絡先等の詳細については，下記を参照してください。

Q ハラスメント防止室では何をしてもらえるのですか?

A 現状について専門の相談員が詳細をうかがいます。かなりのケースが，この段階で気持ちに整理がつき，解決にいたっています。相手との関係について調整を希望する場合は，【対応策の検討】に進みます。その後，ハラスメント防止室の苦情処理案件の対象と認定された場合は，当事者からあらためてお話を伺い，相手方との調整が始まります。秘密堅持と被害者への報復等の禁止が明確に定められているので，安心して相談してください。また，外部の相談窓口も Web サイトで紹介しています。

Q ハラスメントなのかわからないのですが，相談してもよいでしょうか?我慢しようか悩んでいます。

A 感情には個人差があるので人によってはハラスメントと感じないようなケースでも，本人の主観的な感情が重要な要素になり，ハラスメントになることがあります。まずは，ハラスメント防止室に相談してください。

Q 友人から相談されているのですが?

A 友人に相談されたら，まずは真剣に耳を傾けて下さい。そして，適切な対処のために，ハラスメント防止室などの専門窓口へ相談するよう勧めてください。

■相談窓口　ハラスメント防止室　相談室

相談は，電話・メール・FAX・手紙どの方法でも承ります。来室前なら匿名での相談も可能です。来室の際は必ず電話で予約をしてください。

【TEL】03-5286-9824 ＊留守番電話機能つき**【FAX】**03-5286-9825

【E-mai】stop@list.waseda.jp

【URL】http：//www.waseda.jp/stop/

【開室時間】月～金　9：30 ～ 17：00

【事務所所在地】〒169-8050 新宿区戸塚町 1-104 24-8 号館 2 階（相談室）

6 就職

(1) 就職活動

理工系学生の企業への応募方法には，「自由応募」と「推薦応募」の２種類がある。「自由応募」とは，各企業等からの求人情報をもとに，自分の希望する企業に直接応募する制度であり，現在の文系の就職活動はこの方法によって行われている。また，「推薦応募」とは理工系独自の応募形態であり，就職希望者の推薦を依頼してくる企業に対して，大学（研究科・専攻）が推薦を行う制度である。企業が学科や推薦枠を指定してくる場合があるので，大学（研究科・専攻）は学生の希望を確認し，希望者が多い場合には調整等を行った上で，被推薦者を決定する。詳細は各専攻の就職担当教員に確認すること。

(2) 就職担当教員の指導等

各専攻では，修了予定者を対象に進路指導を行う就職担当教員を配置し，就職活動や進学について，適宜，必要な指導・アドバイスを行なっている。

(3) 各種行事案内

就職ガイダンスや就職講座は，キャリアセンターホームページのイベント大辞典（http://www.waseda.jp/career/event.html）にて案内しています。

(4) 就職資料室等の利用

① キャリアセンターでは，求人票や会社説明会のお知らせ，キャリアセンター独自で入手した情報などを公開している。

Waseda-net ポータル→「キャリアコンパス」→「企業･求人情報照会」メニューから確認のこと。

諸資料は，61 号館１階留学生ラウンジ内の「就職資料室」に配架している。また，一部連絡事務室に掲示される場合がある。

② 留学生ラウンジ内の就職資料室では，求人情報，Ｕターン・Ｉターン情報，各企業や官公庁の資料のほかに業界・企業研究のための参考図書，情報誌，先輩の就職活動体験記等の諸資料を，自由に閲覧出来るように配架している。

(5) キャリアセンターの利用

キャリアセンターでは，自分自身のキャリア形成の考え方，学生時代の過ごし方（心構え，早稲田大学にある資源・チャンスをどう生かすか等），といったアドバイスから実際の就職活動のサポートまで，幅広い支援を行っている。

〈主な活動〉

- **Course N@vi によるキャリア就職支援講座の配信**
- **キャリア講座**（キャリアの専門家が，社会とキャリア設計の関係等について講義）
- **その他キャリア形成支援イベント**（公務員・教員キックオフガイダンス，OB・OG 等現役社会人との交流イベント他）
- **就職支援イベント**（就職ガイダンス，業界研究講座，マナーセミナー，就活ミニセミナー他）
- **企業・求人情報の提供**（Waseda-net ポータル内［キャリアコンパス］より）
- **インターンシップの紹介および関連セミナー**
- **個別相談**（進路に関することならどんなことでも）

※詳細は，年度毎に配付される「キャリアガイドブック」「就職活動ガイドブック」およびキャリアセンターホームページを確認すること。

【場所】　戸山キャンパス 30 号館　学生会館 3 階
【時間】　平日 9：00 ～ 18：00
　　土曜 9：00 ～ 17：00
【TEL】　03-3203-4332
【E-mail】career@list.waseda.jp
【URL】　http：//www.waseda.jp/career/

(6) **内定・進路の報告**

卒業時には必ず内定（教員・公務員を含む）・進路（進学・留学・自営・未定などを含む）を報告すること。就職以外の場合も必須。

Waseda-net ポータル→「キャリアコンパス」→「内定・進路の報告」より

7　学生証

学生証は，身分を証明するだけでなく，修学上の様々な場面で必要となるので，常に携帯し，破損・紛失のないよう注意すること。

なお，学生証とは，「学生証カード」と有効年度を表示した「裏面シール」からなり，「学生証カード」の裏面に，「裏面シール」を貼り合わせて初めて効力が生じる。また有効期間は「裏面シール」に示された有効年度の 4 月 1 日（または 9 月 21 日）から翌年 3 月 31 日（または 9 月 20 日）までの 1 年間である。また，表面の所定の欄に氏名を記入すること。

(1) **交　付**

1 年次の学生証は，受験票と引き換えに交付する。

2 年次以上については，学年末に裏面シールを交付するので，これを前年度のシールと貼り替えることで，学生証を更新したこととなる。

なお，学生証カードは在学期間中使用するが，写真変更希望者は，在学中 1 回に限り無料で交換できる。この場合は，理工学術院統合事務所に申し出ること。

(2) **紛　失**

学生証を紛失した場合，悪用される恐れがあるので，ただちに警察に届け，理工学術院統合事務所で再交付の手続をすること。

(3) **再交付**

紛失等のため再交付を受ける場合は，カラー写真（縦 4cmx 横 3cm）を添付した所定の「再交付願」を理工学術院統合事務所へ提出すること。なお，紛失等による再交付の手数料として 2,000 円が必要となる。

(4) **提　示**

図書館や学生読書室の利用，各種証明書・学割・通学証明書の交付，種々の配付物を受けるとき，その他本学教職員の請求があったときは，学生証を提示しなければならない。

(5) **失　効**

修了または退学などにより学生の身分がなくなると同時に，その効力を失うので，ただちに理工学術院統合事務所へ返却すること。

8 各種証明書類の交付

本研究科で発行する証明書は以下の表のとおりである。発行は原則として即日発行であるが，システムメンテナンスや証明書の種類等により数日かかる場合もあるので，充分な余裕をもって申し込むこと。

(1) **手数料**

証明書の発行には手数料が必要になる。

在学中に関わる証明書　1通200円（修了者がその修了日の属する月末までに申請した証明書を含む）

修了者，退学者等に関わる証明書　1通300円

(2) **発行方法**

① 自動証明書発行機（事務所内・外に設置）を利用の場合

学生証・暗証番号が必要となる。暗証番号は入学手続時に届出た4桁の番号を使用すること。

② 窓口で申し込む場合

所定の「証明書交付願」に必要事項を記入し，手数料収納証を貼付の上，学生証を添えて申し込むこと。

証明書種別一覧表（★は自動証明書発行機にて発行可）

種別	
★在学証明書	教員免許状取得見込証明書
★成績証明書	教員免許状単位取得証明書
★卒業（修了）見込証明書	★英文在学証明書
卒業（修了）証明書	★英文成績証明書
★成績・卒業(修了)見込証明書	★英文卒業(修了)見込証明書
成績・卒業証明書	英文卒業（修了）証明書
退学証明書	★GPA証明書
学位取得証明書	その他証明書

(3) **学割**

自動証明書発行機（事務所内・外に設置）で1人年間10枚まで無料で発行可能。

9 各種願・届の提出

在学中，本人または保証人に何らかの異動や事故等があった場合には，必ずその事項についての所定の願または届を提出しなければならない。各種願・届用紙は理工学術院統合事務所で入手できる。

(1) **休学願**

① 休学の条件

病気その他の正当な理由により，引き続き2か月以上授業（試験を含む）に出席できない者は，研究科所定の申請手続に基づき，研究科長の許可を得て，休学できる。「休学願」にクラス担任または指導教員の所見を記入してもらい，各学期の提出期日までに理工学術院統合事務所に提出すること。

休学種別	休学願の提出期日	休学終了日	復学日	休学年数
春学期(前期)	5月31日まで	9月20日	9月21日	0.5年
秋学期(後期)	11月30日まで	翌年3月31日	翌年4月1日	0.5年

② 休学期間

休学は春学期（前期）休学あるいは秋学期（後期）休学の2種類とし，当該学年限りとする。ただし，特別の事情がある場合には，引き続き休学を許可することがある。休学中は在学年数に算入しない。春

学期（前期）・秋学期（後期）継続休学または秋学期（後期）から次年度春学期（前期）継続休学を希望する者は復学手続時に休学継続を願い出ること。なお，在籍中に休学できる期間は，通算して修士課程２年，博士後期課程３年を超えられない。

③　休学期間の学費

休学願の提出日により，休学中の学費は下表のとおりとなる。

春学期(前期)休学願	学費	
4 月30日まで	休学中在籍料	5 万円
	学生健康増進互助会費	1500 円
5 月１日から 5 月31日まで	当該学期の全額	

秋学期(後期)休学願	学費	
6月30日から 10月31日まで	休学中在籍料	5 万円
	学生健康増進互助会費	1500 円
11月１日から 11月30日まで	当該学期の全額	

※入学と同時に春学期（前期）を休学する場合は，学費の減額はない。
※「兵役」を理由に休学する場合は，事前に理工学術院統合事務所に相談すること。

(2) **留学願**

①　外国の大学等高等教育機関に４か月以上在籍し，学習または研究活動等を行う場合，研究科所定の申請手続に基づき，研究科長の許可を得て，「留学」できる。「留学」となるかどうか不明な場合には，事前に理工学術院統合事務所に確認すること。

②　在籍中に留学できる期間は１年間相当とする。特別な事情がある場合は，さらにこれを延長できる。

③　本学で主催する一部の留学プログラムを除いては，留学期間中は在学年数に算入しない。ただし，留学先の大学等において修得した単位数，その修得に要した期間，その他を勘案して，本学における教育課程の一部を履修したと認められた場合は，留学期間のうち１年または１学期を在学年数に算入できる。詳細は理工学術院統合事務所に問い合わせること。

④　留学期間中の学費については，理工学術院統合事務所に問い合わせること。ただし，留学センターが主催する留学の場合は，留学センターにて確認すること。「15. 海外留学等」も確認すること。

(3) **復学願**

①　復学対象者（休学・留学期間終了者）に対し，復学の手続が必要とされる時期に，理工学術院統合事務所からその手続に関する書類を保証人宛に送付するので，これに従って手続を行うこと。

②　復学は学期始めに限られる。

(4) **退学願**

①　退学を希望する場合は，学生証を添えて，理工学術院統合事務所へ申し出ること。

②　学期の途中で退学をする場合でも，その期の学費を納めなければならない。
ただし，手続を４月 14 日までに完了した場合には春学期（前期）分学費が，９月末日までに完了した場合には秋学期（後期）分学費が，それぞれ発生しない。
詳細については，理工学術院統合事務所に問い合わせること。

(5) **再入学願**

正当な理由で退学した者が，再入学を願い出た場合，退学した学年の翌学年から起算して，修士課程は４年度まで，博士後期課程は５年度までの間に限り，学年の始めにおいて選考の上，許可することがある。年度ごとの詳細については，前年度 11 月頃に決定するので，直接，理工学術院統合事務所に問い合わせること。

(6) **氏名・住所・保証人等変更届**

① 本人の住所・電話番号等が変更された場合は，直ちに Waseda-net ポータルの Profile 画面から登録を行うこと。また，本人の住所が変更された場合は，大学に届けてあるメールアドレス宛こ承認メールが届いた後，理工学術院統合事務所にて新しい学生証の裏面シールを受け取ること。

② 保証人または学費支払者の住所・電話番号等が変更された場合は，直ちに理工学術院統合事務所で所定の手続を行うこと。

③ 在学中に改姓（名）をした場合は，戸籍抄本を添付のうえ，届け出ること。

④ 死亡その他の理由で保証人を変更する場合は，直ちに新しい保証人を届け出ること。

10 奨学金制度

本学には，多くの奨学金制度が準備されている。奨学金には返還の必要のない「給付」奨学金と返還の必要がある「貸与」奨学金がある。

奨学金に出願する場合は，毎年，理工学術院統合事務所にて配布する「奨学金情報冊子 Challenge」を入手し，そこに記載されている所定の手続（奨学金登録）をする必要があるため十分に注意すること。（一部の奨学金を除く）出願資格は日本国籍を有する者，または永住者・定住者・日本人（永住者）の配偶者，子である。

その他の奨学金の募集等があった場合は，随時，正門掲示板，および理工学術院ホームページに掲示する。各専攻における独自の奨学金に関しては，専攻からの情報に注意すること。

なお，家計支持者の死亡・失職または災害等により，家庭の経済状況が急変した場合は，未登録であっても奨学課に申し出ると，校友会給付緊急奨学金・日本学生支援機構奨学金の緊急採用・災害採用等が適用される場合がある。

在留資格が，永住者・定住者・日本人（永住者）の配偶者，子以外の場合，外国人留学生向けの奨学金の対象となる。外国人留学生対象の奨学金の一覧は，「早稲田大学留学生ハンドブック」に記載されている。奨学金希望者は，留学生ラウンジ（61 号館 1 階）の掲示板，理工学術院ホームページにて周知される奨学金に，募集のある都度申し込むこと。

11　掲示

(1) **立看板について**

原則として西早稲田キャンパス内でのサークル等学生団体の立看板は認めない。ただし，正当な理由であると判断された場合は設置を許可する場合もある。理工学術院統合事務所総務課に問い合わせること。

許可された場合は，①通行の妨げになるような場所への設置はしないこと，②倒れないように針金等で固定をすること，③保護のため樹木への固定は行わないこと，とする。

また貸出しは掲示板のみで行っている。掲示物の印刷・貼り付け等は借主が各自で行うこと。

(2) **掲示物・ビラについて**

掲示板については，次項の表を参照すること。掲示板を使用する際は，次のルールに従うこと。ルールに反する場合には撤去する。

① 理工学術院統合事務所に申し出て承認を受けること。
② 掲示の期限を明示すること。
③ 期限を過ぎたものは自ら撤去すること。
④ ビラの配布は原則禁止とする。

掲示板一覧

場所	掲示板名称	掲示内容
正門掲示板	総合案内掲示板	各掲示板の掲示内容案内 講演会案内 催物案内 学生の会イベント インターンシップ情報 イベント情報
	入試掲示板	入試情報
	学生支援掲示板	学部奨学金・大学院奨学金 就職情報・キャリアセンターからのお知らせ 資格
	授業関連掲示板	学部暦・大学院暦 他箇所関係（オープン教育，教職，MNC 他） 科目登録・成績発表情報 休講情報 レポート 試験情報 授業時間割 教室変更
52・53・54 号館 1 階	学科・専攻ごとの掲示板	学科・専攻ごとのお知らせ
52 号館 1 階	授業時間割	時間割の最新情報
	教室変更	授業開始後の教室変更
56 号館 1 階	実験掲示板	応用物理学実験等の情報
57 号館 2 階	理工公認サークル掲示板	理工公認サークル 告知スペース
51号館学生ラウンジ	学生の会限定掲示板	学生の会 告知スペース
西門掲示場	西門掲示板	各掲示板の掲示内容案内 学部暦，大学院暦 講演会案内
50 号館 3 階	50 号館事務所掲示板	TWIns 関連情報，50 号館セミナールーム時間割表，講演会案内
61 号館 1 階	学生支援掲示板 (留学生ラウンジ / 就職資料室内)	留学生奨学金，キャリア支援（就職資料）

12　教室・共通ゼミ室の使用

授業外に教室を使用したい場合は，理工学術院統合事務所教学支援課備付けの「教室・ゼミ室使用願」を提出しなければならない。教室使用願の提出にあたっては，次の事項に留意すること。

(1) **使用資格**

理工学術院公認サークルおよびそれに準ずる団体，部長・会長・顧問等が理工学術院専任教職員である団体に限る。

(2) **使用願責任者**

使用願には，責任者（専任教職員）の印を必要とする。

(3) **使用願の提出**

使用願は，使用日の 3 日前（ただし事務所開室中）までに行うこと。

(4) **使用許可期間**

原則として下記の期間を除いて許可する。

> 日曜日，祝祭日，休業中の土曜日，入学式から授業開始までの期間および春学期・秋学期授業開始後 2 週間，春学期・秋学期理解度確認期間，夏季工事期間，理工展期間，入学試験構内立入禁止期間とその準備期間，その他諸行事で授業が休講となる期間

(5) **使用許可時間**

原則として，月～金曜日は 18 時から 20 時まで，土曜日は 14 時 45 分から 20 時までとする。ただし，休業期間中は 9 時から 17 時 30 分までとする。

(6) **使用許可教室**

52・53・54・56・57・58・60・61 号館の全教室および 51・60・61・63 号館共通ゼミ室。

(7) **使用許可期間**

原則として最長 1 か月とする。それ以上にわたる場合は，再度提出すること。

(8) **使用上の注意**

① 授業・教育・研究，および大学・学部・大学院の諸業務に支障を来す場合には，使用を許可しない。
② まわりの教室で行われている授業には充分注意し，その妨げにならないようにすること。
③ 教室内の机・椅子・その他の什器は動かさないこと。
④ 使用許可時間を厳守すること。
⑤ 大学が教室を使用しなければならない緊急の必要が生じた場合には，教室の変更をする場合がある。
⑥ 校舎の工事等の理由により，教室を貸し出せない場合がある。

13　学生の課外活動

学生生活は本来勉学を中心として展開されるべきである。しかし専門の知識を得ることのみに終始することは決して望ましいことではない。科学技術の根幹を理解するには多くの知識を必要とするが，それだけに，視野が狭くなりがちである。孤立した個人的な生活，少数の仲間とだけの閉鎖的な生活からは，広い教養と豊かな人間性を持った人物は生まれにくいものである。

本学術院には教員，卒業生，在学生で構成されている多くの学会がある。この学会には学生部会があって，課外活動に対して種々の便宜が与えられている。本学術院の特殊性を生かした学生部会と連絡を密にし，課外活動によって学生生活の充実をはかることが望まれる。

学生の課外活動は，大学という集団の中で最大限の自由が保障されなければならないことは言うまでもないが，それだけに，諸君は責任を持ち，規律を守らなければならない。課外活動はそれを通じて自己の人間形成をはかり，将来社会で活動する準備をすることが目的であるから，ある特定の目的をもつ外部の団体に左右され，プロ化して行動をすることは慎むべきだろう。

学生生活で諸君は種々の困難につきあたるにちがいない。その時は学友，指導教員との話し合い，あるいは保健センターの利用等を通してそれらを乗り越え，悔いのない学生生活を送るよう努力してほしい。

本学には多くの学生の会およびサークルがあり（「CAMPUS DIARY」参照），本学部の学生もこれに参加し，活躍している。

このほかに IAESTE（イアエステ・日本国際学生技術研修協会）がある。これは学生の外国企業での実習およびその国際交換を斡旋し，世界各国の学生間の理解と親善を深めることを目的とする会である。この会は 1948 年に設立され，1964 年には日本も加入した。現在 100 ヵ国以上がこれに参加しており，世界の理工農学系大学約 1, 000 校が IAESTE International の学生交換海外研修プログラムに参加している。また，後援企業は約 4, 000 社に及び，30 万人以上の学生を交換研修した実績をもっている。

14 安全管理

西早稲田キャンパスには，学生・教職員 10,000 人以上が集い，教育研究活動を行っている。理工系の特徴でもあるが，主に研究活動に専念する学部 4 年生，大学院生の数は 4,000 名を超え，多種多様な研究活動が展開されている。教育研究活動中の事故を未然に防ぐため，その他安全に関する諸課題を検討し改善を図るべく，教職員からなる「西早稲田キャンパス安全衛生委員会」が設置され，そのもとに様々な安全管理体制が組織され，安全衛生一斉点検をはじめキャンパス内の安全管理が行われている。

このような中，学生諸君には，以下の点を遵守してもらいたい。

・各実験科目においては，実験ガイダンスを通して，安全に関する注意があるので，それらを必ず守り，常に安全を意識して実験に取り組むこと。
・実験における安全については，研究分野ごとに特殊な内容があるので，指導教員等の指示に従い，作業の安全を確認して実験すること。
・各実験室等が開催する安全講習会等に積極的に参加し，学内ルール等を遵守すること。

また，新入生や研究室配属前の学部 3 年生を対象とした「安全 e-learning プログラム」（Course N@vi）や研究時の安全対策をまとめた「安全のてびき」（技術企画総務課ホームページ，http：//www.tps.sci.waseda.ac.jp/ の「安全衛生関連情報」からダウンロード可）などを活用するとともに，不明な点は関係する実験室等の技術系職員に問い合わせて欲しい。

（メールの問い合わせ：anzenrenraku @ list.waseda.jp）

理工学系の学生として，学内のルールはもちろん，関係する法律・条令を遵守し，自分のみならず，周囲の安全，広くは地球規模の環境安全・保全を意識し行動すること。

緊急時の対応

（1）**けが・重病**

大けが･重病の場合には，学内緊急電話（学内緊急電話：内線 3000，外線 03-5286-3022）に連絡すること。緊急の場合（動かさないほうがよい・動かせない場合も含む）に，直接 119 番に通報した場合は，救急車

誘導のため学内緊急電話にも必ず連絡すること。けがをした人・具合の悪い人が動かせる場合には，保健センター（西早稲田分室　51 号館 1 階：内線 2640）で処置を受け，必要があれば学外の医療機関で治療を受ける。同センターが不在のときは学内緊急電話に連絡すること。

西早稲田キャンパスには 4 台の AED が設置されていて（http://www.waseda.jp/ecocampus/saf/activity/aednishiwaseda.html 参照）緊急事態の場合，状況に応じて使用できる。

緊急時の心肺蘇生，AED の使用方法などに関心があるものは「普通救命講習」（年 4 回程度開催）を受講すること。詳細は技術企画総務課ホームページまたは Waseda-net ポータルなどで通知する。

(2) **火　災**

近くにある消火器で初期消火するとともに，場所・状況等を学内緊急電話に至急連絡し，その指示を受けること。消火器で消火できない場合には，近くの人とともに避難すること。教室棟の廊下等には非常用電話（赤いボックス）が設置されているので，それを使って学内緊急電話（内線 3000）に連絡できる。

(3) **大地震**

地震が静まるまで，机等の下で身の安全を確保する。大学は，大学本部・各キャンパスに対策本部を設け，情報の収集，学生・教職員の安全確保をはかることにしてあるので，その指示に従うこと。大学総務部発行の「大地震対応マニュアル（学生用）」を参考にすると良い。

15　海外留学等

海外留学についての時期・学費・単位認定の可否および学部独自のプログラムについては理工学術院統合事務所教学支援課に相談し，全学生を対象にした本学の海外留学プログラムの内容や応募手続方法などについては，留学センター作成の「STUDY ABROAD 留学の手引き」や留学センターホームページ（http://www.waseda.jp/cie/index-j.html）をまず参照すること。また，在学生以外も参加できる短期プログラムはエクステンションセンター（http://www.ex-waseda.jp/）で主催している。

全学生を対象にした本学の留学プログラムの概要は，大別すると以下のとおりであるが，留学センター提供の留学プログラムへの参加を検討する学生は，4 月と 10 月に開催される「留学フェア」への参加を勧める。留学の概要説明や注意点，プログラムの情報入手方法，本学留学センターインフォメーションルーム（早稲田キャンパス 22 号館 3 階）の使用方法など，留学を検討するのに有益な情報が得られる。特に長期留学の場合，遅くとも 1 年以上前からの準備が必要であるため，年間を通した留学応募手続案内などの具体的日程や情報案内等について，随時 Waseda-net ポータルのお知らせや留学センターホームページで確認すること。

本学の留学プログラムの留学費用については，プログラムによって取扱いが異なり，また派遣先大学の事情により毎年異なる場合がある。奨学金は，日本学生支援機構の留学生交流支援制度，早稲田大学学生交流奨学金，交換留学奨学金等があり，奨学金の募集要項等は派遣先大学が決定した後に配布される。

大学院生が早稲田大学の交換留学制度を利用して留学をしようとする場合，学部生とは異なった準備やプロセスが必要となる場合があり，注意が必要である。特に欧米の大学で，大学院生の研究内容がより専門的であることから，派遣先の事情により受入がスムーズに認められないことがある。留学先機関の変更を求められたり，受入自体が不可となることもある。その場合，代わりの受け入れ先を提供されることもあれば，そうでない場合もある。交換留学では，受入に関わる決定は基本的には先方に委ねられているので，こうしたリスクが生じやすいことも認識しておく必要がある。

プログラムの概要：「長期留学」と「短期留学」

(1) **長期留学（半年・1 学年期間）**

① 早稲田大学交換留学プログラム（学部生，研究科生対象）

海外の協定校から留学生を受け入れ，同時に早大生を派遣する制度。ある程度自由に科目を履修できる。一部の大学をのぞいて学費は，早稲田大学の所属学部・研究科の学費等のみである。但し，現地で施設費等の支払いが必要となる場合もある。派遣人数は１～３名が通常で，多種多様な国の大学が協定校となっている。英語によるプログラム参加者には，TOEFL スコアが必要となり，非英語によるプログラムでは，現地の言語で授業についていける語学能力の証明が求められる。

但し，出願期間は， 募集年度により異なることがあるので，最新情報は留学センターホームページで確認すること。

② 箇所間協定交換留学プログラム

一部の専攻では，いくつかの海外協定校と独自に協定を締結している。これらの交換留学プログラムについては，独自の選考日程および方法によって選抜が行われるため，各専攻の指示に従うこと。

③ ISA（Individualized Studies Abroad）プログラム（学部生対象，一部大学院生可）

交換プログラムと同様，現地大学の通常カリキュラムの中で，現地のコーディネーターと相談しながら，ある程度自由に科目を履修できるプログラム。語学力が低い場合，語学の勉強を義務づけるところもある。学費はそれぞれのプログラムで決められたプログラムフィーを支払う。本学学費等は免除となる。実施機関の所在国および地域は，北アメリカ，イギリス・アイルランド，オセアニアが中心。

(2) **短期留学（数週間）**

海外の渡航期間が数週間程度の語学学習および異文化体験を中心とした特別留学プログラム。本学主催箇所としては，留学センター，エクステンションセンター等が，夏季や春季にプログラムを提供している。

(3) **その他の留学**

自分で希望大学や語学研修機関から入学許可を得て，いわゆる私費で留学先の学費と生活費をまかなう形の留学形態を私費留学という。私費留学の場合はすべての手続を自分で行うかもしくは留学斡旋業者を利用して行うことになる。学籍上の扱いについては，ケースによって異なるため理工学術院統合事務所に確認すること。また，専攻独自に主催される留学プログラムが，その都度研究科・専攻掲示板にて募集される場合がある。

16 禁煙キャンパス

受動喫煙（他人のタバコの煙を吸わされること）の防止を謳った健康増進法の施行，文部科学省通達，新宿区条例の施行および分煙化徹底についての本学理事会決定に基づき，西早稲田キャンパスにおける分煙ルールを以下のように定めている。各自，分煙ルールを厳守すること。また，通学中の路上喫煙に関しては，マナーとルールを守ること。早大生としての自覚を持った行動が望まれる。

1．「喫煙指定場所」を除き，公共の場所（教室・ゼミ室，実験室，会議室，ラウンジ，ホワイエ，アトリウム，図書館・学生読書室，生協施設，中庭，廊下・階段・通路・エレベータ，トイレ等），および屋外エリアを禁煙とする。

2．研究室など，ゼミや学生指導を行う場は教室とみなし，禁煙とする。

3．歩行喫煙，吸殻の投げ捨て等は厳禁とする。

17　自転車 , バイクおよび自動車の通学利用禁止

学生が西早稲田キャンパス内へ自転車，バイク，自動車を乗り入れ，駐輪・駐車することは，原則として禁止している。また，周辺道路も終日駐車禁止となっているため，自転車，バイクおよび自動車を通学に利用することを禁止する。なお，自転車の場合に限り，特別の事情がある場合は理工学術院統合事務所総務課（51 号館 1 階）に問い合わせること。

これまでも，本学の学生によるものと思われる正門前道路や明治通り側歩道等の違法駐輪・駐車に対して近隣住民からたびたび苦情が寄せられ，所轄の警察署からも再三にわたり厳しい注意をうけている。また，この迷惑駐車が原因となって交通事故も発生している。周辺通路の駐車禁止を厳守すること。自分だけはという意識を捨て，早大生としての自覚を持った行動が望まれる。

18　図書館（理工学生読書室・理工学図書館）

早稲田大学には全学で 25 の図書館・図書室等があり，総称して「早稲田大学図書館」という。学部学生は中央図書館をはじめ 12 箇所の図書館・学生読書室等で資料の貸出を受けることができる。サービス全般については，図書館ホームページ　http://www.wul.waseda.ac.jp/index-j.html に詳細な案内がある。図書館システムやサービスについては，日々進化しているので，最新情報は図書館ホームページで確認すること。

所蔵資料は蔵書検索システム WINE　http://wine.wul.waseda.ac.jp/ でどこからでも検索できる上，携帯サイトもある。この WINE 上で，自分が借り出している資料の状況確認や貸出期間の延長もできる。

図書や雑誌，新聞，視聴覚資料といった現物資料だけではなく，電子ブック，電子ジャーナルやオンラインデータベースの電子資料も多数契約しているので，活用してほしい。図書館の学術情報検索　http://www.wul.waseda.ac.jp/imas/index.html で一括して案内している。自宅等，学外から電子資料を利用するには，「学外アクセス」http://www.wul.waseda.ac.jp/imas/remote/index.html を経由すること。

西早稲田キャンパスには，理工学生読書室と理工学図書館がある。以下それぞれの特長と利用上の注意事項を紹介する。

⑴ **理工学生読書室** 52 号館地下 1 階

理工学術院学生を主対象とする学習図書館であり，理工系図書を中心とした授業カリキュラムに即した日本語図書がそろっている。利用の多い本は複本制をとり，複数部数用意している。

⑵ **理工学図書館** 51 号館地下 1 階

理工系分野の学術雑誌と外国語を含めた参考図書を蔵書の中心とした研究図書館である。オンラインで利用できるものは，極力オンライン版を導入し，利便性を高めている。

⑶ **利用上の注意事項**

①　通常授業期間中の開館時間　　月～金　9:00 ～ 21:00　　土　9:00 ～ 19:00

（長期休業期間中等は変更になるので図書館ホームページを参照のこと）

②　入館前に荷物はロッカーに入れ必ず鍵をかける。ロッカー利用に 100 円硬貨が必要だが利用後戻る。

③ 学生証は必ず持参。忘れた場合は図書館が利用できない。

④ 館内では喫煙，雑談，携帯電話での通話，飲食は禁止。

⑤ 図書資料は大切に扱うこと。無断持ち出し，書き込み，線引き，汚損等があった場合は厳重に対処する。

⑥ 貸出期限を超えた場合は，1 日 1 冊 1 点の反則点がつき，50 点を超えると 2 週間の貸出停止となる。返却日の 5 日前に図書館からメールで連絡がいく。

⑦ 契約電子資料の利用に際しては，ルールを遵守する。http://www.wul.waseda.ac.jp/db/db_notice.html

⑧ 古い雑誌やオンラインで利用できる雑誌の一部については，埼玉県にある本庄保存書庫へ別置している。WINE や電子ジャーナルポータル http://tm3xa4ur3u.search.serialssolutions.com/ で確認すること。オンラインで利用できない場合は，取り寄せができる。

⑨ 図書館利用上で不明な点があったらまずは図書館ホームページを検索する。それでもわからない場合は，カウンターにて問い合わせるか，オンラインレファレンスを利用すること。
Waseda-net ポータル → システムサービス → 図書館申請フォーム → オンラインレファレンス

19 コンピュータ・ルーム

西早稲田キャンパスには，約 700 台のコンピュータが授業等で利用されている。授業等による利用が優先されるが，利用していない時間帯は，レポート作成やインターネット閲覧など自由に利用できる（オープン利用）。

63 号館 3 階（2012 年 4 月現在）

名称	収容人数	用途
A ルーム	80 名	コンピュータ・ルーム（島型）
B ルーム	80 名	
C ルーム	100 名	
D ルーム	48 名	コンピュータ・ルーム（教室型）
E ルーム	48 名	
F ルーム	48 名	主に語学授業の利用を想定した コンピュータ・ルーム（教室型）
G ルーム	48 名	
H ルーム	12 名	グループ学習用コンピュータ・ルーム（島型）

その他（2012 年 4 月現在）

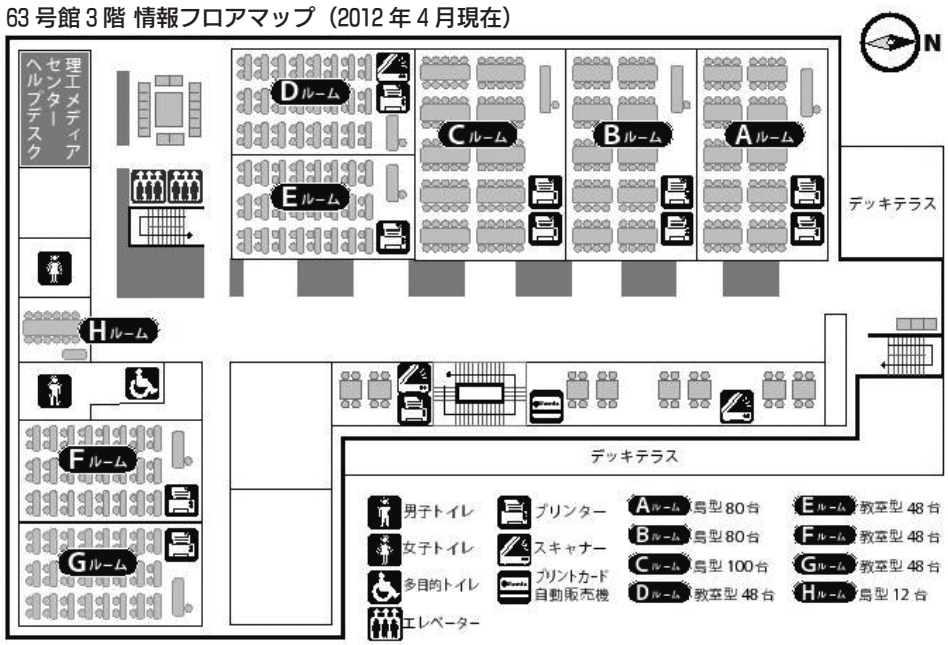
名称	収容人数	場所
製図 /CAD 室	208 名	57 号館　1 階

各コンピュータ・ルームの利用状況は，インフォメーションディスプレイ（63号館 1階・3階に設置）および理工メディアセンターのホームページ（http://www.mse.waseda.ac.jp/）“コンピュータ・ルーム利用スケジュール”で確認できる。

〈相談窓口〉

学内の情報環境や各種サービス利用についての相談窓口として，ヘルプデスクが 63号館 3階南側に設けられている。

63 号館 3 階 情報フロアマップ（2012 年 4 月現在）



○ Windows 環境を利用する

すべてのコンピュータ・ルームで Windows が利用できる。Word，Excel，PowerPoint のほか，理工系ソフトウェア，ソフトウェア開発環境などが用意されている。Windows の利用には，入時に登録手続を行う Waseda-net ID とパスワードが必要。

○ UNIX 環境を利用する

すべてのコンピュータ・ルームから UNIX 環境への接続ができる。主にプログラミング言語やアルゴリズム，数値解析などの授業で利用されている。UNIX 環境の利用には，Waseda-net ポータルの「理工系学生ページ」より利用申請が必要。

○語学学習環境を利用する

F ルーム及び G ルームでは，ヘッドセットが常設されており，語学学習を支援するシステム（コールシステム）が利用できる。主に語学の授業およびオープン利用時の自主学習で活用されている。

20 実験施設紹介

（1）共通実験室

西早稲田キャンパスには，学部 1 年次，2 年次に履修する基礎実験科目や各学科が設置している専門実験科目などを実施する教育実験施設がある。これらを学科の枠を越えて共通的に利用していることから共通実験室と呼んでいる。これらの実験室では実験教育を中心に実施しているが，ここで保有する設備は研究活動にも広く利用されている。

○理工学基礎実験室

理工学基礎実験室では，「理工学基礎実験 1 」および「理工学基礎実験 2 」を実施している。それぞれの学問分野ごとに，物理系基礎実験室・化学系基礎実験室・生命科学系基礎実験室・工学系基礎実験室の 4 つの実験室で構成されている。

（物理系基礎実験室）

「理工学基礎実験 1 」の物理系分野の基礎実験を行っている。ものづくりをベースとした創造的でユニークな実験を通して物理学の基礎を学ぶ。

（化学系基礎実験室）

「理工学基礎実験 1 」および「理工学基礎実験 2 」の化学系分野の基礎実験を行っている。身近な化学的事象を扱った実験を通して，合成，抽出，分析等の化学に関する基礎的な知識と操作を学ぶ。

（生命科学系基礎実験室）

「理工学基礎実験 1 」の生命科学系分野の基礎実験を行っている。細胞の観察や DNA の抽出などの生命科学系の基礎を学ぶ。

（工学系基礎実験室）
「理工学基礎実験 2 」の工学系分野の基礎実験を行っている。走査型電子顕微鏡操作やコンピュータ自動計測などを通して，高度で実践的な工学系の基礎技術を修得する。

○材料実験室
各種構造材料（金属・木材・コンクリート）の強度試験・物性試験や構造物の強度評価に関する専門実験を実施している。

○工作実験室
機械工作設備を用いた機械工作実習を行う実験室。工作指導を受けながら研究実験用の実験装置・部品加工や試作などを行える。

○熱工学実験室，流体実験室，制御工学実験室
これらの実験室ではそれぞれ，熱工学，流体工学，制御工学に関する専門実験を実施している。流体実験室では水理・水質に関する専門実験も実施している。

○製図・CAD 室
ドラフターと平行定規（製図台）を合わせて約 400 台有し，建築系，機械系の製図の基礎を習得する実習や CAD（コンピュータを使用した）による設計製図演習の授業が行われている。

○測量実習室
さまざまな測量機器を用いた測量実習を実施している。測量実習以外にも写真測量による自然環境変化の判読や計測測定，遺跡調査等の研究に利用されている。

○電気工学実験室
電気・電子系分野および情報通信分野の専門実験を実施している。また，電圧・電流・磁場の測定や回路製作などに関する技術相談も行っている。

○化学分析実験室
重量分析・容量分析・機器分析など無機分析化学の専門実験を実施している。古典的な化学分析の基礎から大型装置を使用した機器分析まで幅広い知識と技術を習得できる。

○物理化学実験室
化学の対象である物質や物質を構成している化合物，分子などについて，物理学的な手法を用いた専門実験を実施している。

○有機化学実験室
試薬，器具・装置の取扱い方から有機化合物の合成，分離・精製など有機化学実験の基本を学ぶ。講義

で学んだ反応機構などを実際に実験を通して確認し，有機化学の知識の理解をさらに深める。また，実験操作を繰返し訓練することで有機化学の実験操作方法の技術を習得する。

○共用実験室（生命科学系）

本実験室では遺伝子やタンパク質などの生体分子の取扱い方法や，細胞の培養や分画，生物個体を用いた形態学的・生理学的な実験を行い，生命科学の手法を幅広く習得する。

(2) 研究用共同利用施設

研究用共同利用施設では，研究用として共同利用が可能な大型装置や精密計測機器などが集中的に管理され，幅広い研究活動に利用されている。また，それぞれの機器利用講習会や技術相談なども行われている。

○物性計測センターラボ

物性計測センターラボは，物質の構造を解析するための研究用共同利用施設である。研究室に配属された 4 年生から大学院修士課程，博士後期課程，研究員まで様々な分野の研究で利用されている。最先端の研究用計測機器が整備されているため，学内だけでなく他大学や研究機関などからの利用もある。

○マイクロテクノロジーラボ

半導体加工装置やクリーンルームを研究用の共同利用設備として開放している。機械工学，物性物理，化学，材料工学など幅広い分野の研究者に利用されている。

○映像情報ラボ

マルチメディア研究や教材作成などのための映像情報系機器を，共同利用設備として開放している。大型カラープリンターを用いた学会発表やプレゼンテーション用のポスター作成などを行える。

21 保健センター西早稲田分室

保健センター

保健センターは学生が健康な状態で大学生活が送れるように，健康の基礎作りと生涯を通じて心身の健康の自己管理能力を身につけるよう援助していくことを目的に設置されている。保健センターは，早稲田キャンパスのほか，各キャンパスに分室が設置されている。

なお，詳細については，ホームページ（http://www.waseda.jp/kenkou/center/HSC/）を参照すること。

保健センター西早稲田分室（51 号館 1F 07 室）

開室時間　月～土曜日　9：00 ～ 17：00

直通電話　03-5286-3021　〈学生相談直通　03-5286-3082〉

【主な業務】

(1) 学生定期健康診断

(2) 学生・教職員の特殊健康診断

(3) 各種健康診断書の発行

（ただし，定期健康診断を受診した者に限る）

(4) 健康相談

月～金曜日　9：00 ～ 17：00

(5) 医師による診察

診察受付時間　月～金曜日　13：30 ～ 15：40

(6) 応急救急処置，傷病者の休養

月～土曜日　9：00 ～ 17：00

※西早稲田分室の前室（入り口の部屋）は常時開室しているので，簡単な傷の手当て等必要な時は何時でも利用できるようになっている。

(7) 学生相談（51 号館 1F 07 室）

心理相談，学生生活全般について心理専門相談員が応じている。

相談時間　週 3 回　13：00 ～ 17：00（予約制）

(8) その他の相談

「学校において予防すべき感染症」について

下記の感染症に罹患した場合は，他者への感染防止のため，学校保健安全法第 19条により出席を停止する。出席停止の期間は，感染症の種類に応じて決められている。完治後，至急以下の欠席措置に関する手続を行うこと。

1. 診断を受けた医師に「学校における感染症治癒証明書（※ 1）」の記入を依頼すること。
2. 「欠席届（※ 2）」を記入し，「学校における感染症治癒証明書」と併せて，至急科目担当教員に相談する。

※ 1「学校における感染症治癒証明書」は，保健センターのホームページにてダウンロードが可能。

保健センターホームページ：http://www.waseda.jp/kenkou/center/HSC/

※ 2「欠席届」は，理工学術院統合事務所（51 号館 1 階）にて配布している。

（学校において予防すべき感染症の種類）

第 1 種：治癒するまで出席停止

エボラ出血熱，クリミア・コンゴ出血熱，重症急性呼吸器症候群（SARS コロナウィルスであるもの），痘そう，南米出血熱，ペスト，マールブルグ病，ラッサ熱，急性灰白髄炎，ジフテリア，鳥インフルエンザ，新型インフルエンザ等感染症，指定感染症及び新感染症

第 2 種：飛沫感染する感染症で，学校において流行を広げる可能性が高いもの

インフルエンザ（解熱した後 2 日を経過するまで），百日咳（特有の咳が消失するまで），麻しん（解熱した後 3 日を経過するまで），流行性耳下腺炎（耳下腺の腫脹が消失するまで），風しん（発疹が消失するまで），水痘（すべての発疹が痂皮化するまで），咽頭結膜熱（主要症状が消退した後 2 日を経過するまで），結核（感染のおそれがないと認めるまで）

第 3 種：学校教育活動を通じ，学校において流行を広げる可能性があるもの

コレラ，細菌性赤痢，腸管出血性大腸菌感染症，腸チフス，パラチフス，流行性角結膜炎，急性出血性結膜炎，その他の感染症

＊資料　学校保健安全法施行規則

22　交通機関のストライキと授業

早稲田・戸山・西早稲田（旧大久保）キャンパスの場合は，1，2，3，4 を適用し，所沢キャンパスは，1，2，3，5 を適用する。

1. JR 等交通機関のストライキが実施された場合（ゼネスト）

首都圏における JR のストライキが

A　午前 0 時までに中止された場合，平常通り授業を行う。

B　午前 8 時までに中止された場合，授業は 3 時限目（午後 1 時）から行う。

C　午前 8 時までに中止の決定がない場合は，授業は終日休講とする。

上記は，JR の順法闘争および私鉄のストライキには適用しない。

2. 首都圏 JR の部分（拠点）ストライキが実施された場合

平常通り授業を行う。

3. 首都圏 JR の全面時限ストライキが実施された場合

A　午前 8 時までストライキが実施された場合，授業は 3 時限目（午後 1 時）から行う。

B　正午までストライキが実施された場合，6 時限目（午後 6 時 15 分）から授業を行う。

C　正午を越えてストライキが実施された場合，授業を終日休講とする。

4. 私鉄，都市交通のみストライキが実施された場合

平常通り授業を行う。

5. ① 西武鉄道新宿線または西武鉄道池袋線のどちらか一方でもストライキが実施された場合

② ①の西武鉄道両線のストライキが実施されない場合でも，西武バスのストライキが実施された場合次の通りとする。

A　午前 8 時までストライキが実施された場合，授業は 3 時限目（午後 1 時）から行う。

B　午前 8 時を越えてストライキが実施された場合，授業を終日休講とする。

23　天候悪化（台風・大雪等）による休講等の取扱いについて

気象状況悪化による休講等の取り扱いについて

気象庁による気象警報のみに基づく授業の休講・試験の延期措置は行わない。

ただし，大雨，洪水，暴風，暴風雪，大雪等の気象状況および気象庁による気象警報をもとに，危険であると判断した場合は，次のとおり，授業の休講・試験の延期措置をとる。

休講・延期となるのは，対象キャンパスにて実施されるすべての授業および試験となる。

1.　台風や大雪等，気象状況が時間の経過とともに悪化することが十分予測される場合は，前日に授業

の休講・試験の延期措置の決定を行うことがある。その場合は，前日の午後 7 時までに決定の判断を行い，学生への周知は本学ホームページ等に前日の午後 9 時までに掲載して行う。

2. 授業の休講・試験の延期措置を決定する場合は，原則として，各時限の授業・試験開始 60 分前までに決定し，本学ホームページ等で周知・広報する。ただし，できる限り授業・試験開始の 2 時間前までには周知できるよう努力する。

※芸術学校・川口芸術学校は西早稲田キャンパスに含める。

※両高等学院およびエクステンションセンターは除く。

■通知方法

・早稲田大学トップページ

URL：http://www.waseda.jp/

・早稲田大学携帯向けお知らせページ （携帯からのアクセス可能）

URL：http://m.waseda.jp/

・早稲田大学緊急お知らせサイト（Yahoo! ブログ）（携帯からのアクセス可能）

URL：http://blogs.yahoo.co.jp/waseda_public/

・Waseda-net ポータルログイン前画面

URL：https://www.wnp.waseda.jp/

■例外的な対応について

・オンデマンド授業について

休講の対象外とする。

・複数のキャンパスで同時に実施する授業について

複数のキャンパス（例：早稲田または西早稲田⇔本庄）で，遠隔会議システムを利用して実施する授業は，いずれかのキャンパスが休講となった場合は，原則休講とする。

ただし，各キヤンパスでの受講者数に著しい差がある等の特殊な事情がある場合は，受講できない学生への十分な配慮を行うことを条件に，休講の対象外とすることができる。

例：早稲田で 100 名受講，本庄で 10 名受講している授業で，本庄が休講の場合。

→本庄での受講者への十分な配慮を行うことを条件に，早稲田のみで実施可。

学生は大学の決定した授業の休講・試験の延期措置に原則として従うこととするが，授業が実施されるキャンパスまでの交通経路内に気象庁による気象警報が発令され，気象状況等に鑑みて通学することが危険又は困難であると自身で判断し，通学を見合わせた場合は，所属学部（研究科）による承認済みの欠席届をもって，該当科目の担当教員へ申し出ることにより，欠席の配慮を求めることができる。

V

付　　録

1	早稲田大学大学院学則（抜粋）	1. 学則(抜粋)
2	早稲田大学学位規則（抜粋）	2. 学位規則（抜粋）
3	大学院外国人特別研修生に関する規程	3. 外国人特別研修生に関する規程
4	大学院科目等履修生に関する規程	4. 科目等履修生に関する規程
5	大学院研究生に関する規程	5. 研究生に関する規程
6	早稲田大学校歌	6. 校歌
7	早分かり URL・電話番号	7. URL・電話番号
8	キャンパスマップ	8. キャンパスマップ

1 早稲田大学大学院学則（抜粋）

第１章　総　則

（設置の目的）

第１条　本大学院は，高度にして専門的な学術の理論および応用を研究，教授し，その深奥を究めて，文化の創造，発展と人類の福祉に寄与することを目的とする。

（博士課程）

第２条　本大学院に博士課程をおく。

2　博士課程の標準修業年限は，５年とする。

3　博士課程は，これを前期２年，後期３年の課程に区分し，前期２年の課程を，修士課程として取り扱うものとする。

4　前項の前期２年の課程は，「修士課程」といい，後期３年の課程は，「博士後期課程」という。

5　修士課程の標準修業年限は，２年とする。ただし，教育研究上の必要があると認められる場合には，研究科，専攻または学生の履修上の区分に応じ，その標準修業年限は，２年を超えるものとすることができる。

6　前項の規定にかかわらず，修士課程においては，主として実務の経験を有する者に対して教育を行う場合であって，教育研究上の必要があり，かつ，昼間と併せて夜間その他特定の時間または時期において授業または研究指導を行う等の適切な方法により教育上支障を生じないときは，研究科，専攻または学生の履修上の区分 に応じ，標準修業年限を１年以上２年未満の期間とすることができる。

（課程の趣旨）

第３条　博士後期課程は，専攻分野について研究者として自立して研究活動を行い，またはその他の高度に専門的な業務に従事するに必要な高度の研究能力およびその基礎となる豊かな学識を養うものとする。

2　修士課程は，広い視野に立って精深な学識を授け，専攻分野における研究能力または高度の専門性を要する職業等に必要な高度の能力を養うものとする。

3　専門職学位課程は，高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識および卓越した能力を培うものとする。

(研究科の構成)

第４条　本大学院に次の研究科をおき，各研究科にそれぞれの専攻をおく。(基幹・創造・先進理工学研究科のみ抜粋)

研究科	博士課程	
	修士課程	博士後期課程
基幹理工学研究科	数学応用数理専攻 情報理工学専攻 機械科学専攻 電子光システム学専攻 表現工学専攻	数学応用数理専攻 情報理工学専攻 機械科学専攻 電子光システム学専攻 表現工学専攻
創造理工学研究科	建築学専攻 総合機械工学専攻 経営システム工学専攻 建設工学専攻 地球・環境資源理工学専攻 経営デザイン専攻	建築学専攻 総合機械工学専攻 経営システム工学専攻 建設工学専攻 地球・環境資源理工学専攻 経営デザイン専攻
先進理工学研究科	物理学及応用物理学専攻 化学・生命化学専攻 応用化学専攻 生命医科学専攻 電気・情報生命専攻 生命理工学専攻 ナノ理工学専攻 共同原子力専攻	物理学及応用物理学専攻 化学・生命化学専攻 応用化学専攻 生命医科学専攻 電気・情報生命専攻 生命理工学専攻 ナノ理工学専攻 共同先端生命医科学専攻 共同先進健康科学専攻 共同原子力専攻

(収容定員)

第５条　各研究科の収容定員は，次のとおりとする。(基幹・創造・先進理工学研究科のみ抜粋)

研究科	専攻	修士課程		博士後期課程		合計
		入学定員	収容定員	入学定員	収容定員	収容定員
基幹理工学研究科	数学応用数理専攻	90	180	25	75	255
	情報理工学専攻	130	260	30	90	350
	機械科学専攻	115	230	25	75	305
	電子光システム学専攻	45	90	7	21	111
	表現工学専攻	45	90	8	24	114
	計	425	850	95	285	1,135
創造理工学研究科	建築学専攻	120	240	20	60	300
	総合機械工学専攻	70	140	12	36	176
	経営システム工学専攻	60	120	10	30	170
	建設工学専攻	70	140	12	36	176
	地球・環境資源理工学専攻	95	190	15	45	235
	経営デザイン専攻	70	140	10	30	170
	計	485	970	79	237	1,207
先進理工学研究科	物理学及応用物理学専攻	100	200	27	81	281
	化学・生命化学専攻	50	100	10	30	130
	応用化学専攻	95	190	28	84	274
	生命医科学専攻	60	120	15	45	165
	電気・情報生命専攻	125	250	20	60	310
	生命理工学専攻	70	140	15	45	185
	ナノ理工学専攻	35	70	7	21	91
	共同先端生命医科学専攻	−	−	5	15	15
	共同先進健康科学専攻	−	−	4	12	12
	共同原子力専攻	15	30	4	12	42
	計	550	1,100	135	405	1,505

第2章　教育方法等

（教育方法）

第6条　本大学院の教育は，授業科目および学位論文の作成等に対する指導（以下「研究指導」という。）によって行うものとする。

（履修方法等）

第7条　各研究科における授業科目の内容・単位数および研究指導の内容ならびにこれらの履修方法は各研究科において別に定める。

2　学生の研究指導を担当する教員を指導教員という。

3　本大学院の講義，演習，実習などの授業科目の単位数の計算については，早稲田大学学則第12条および第13条の規定を準用する。

（他研究科または学部の授業科目の履修）

第8条　当該学術院教授会または研究科運営委員会（以下「研究科運営委員会等」という。）において，教育研究上有益と認めるときは，他の研究科の授業科目または学部の授業科目を履修させ，これを第13条，第13条の2または第13条の3に規定する単位に充当することができる。

（授業科目の委託）

第9条　当該研究科運営委員会等において教育研究上有益と認めるときは，他大学の大学院（外国の大学の大学院を含む。）とあらかじめ協議の上，その大学院の授業科目を履修させることができる。

2　前項の規定により履修させた単位は10単位を超えない範囲で，これを第13条に規定する単位に充当することができる。

（研究指導の委託）

第10条　当該研究科運営委員会等において，教育研究上有益と認めるときは，他大学の大学院または研究所（外国の大学の大学院または研究所を含む。）とあらかじめ協議の上，本大学院の学生にその大学院等において研究指導を受けさせることができる。ただし，修士課程の学生について認める場合には，当該研究指導を受ける期間は，1年を超えないものとする。

（単位の認定）

第11条　授業科目を履修した者に対しては，試験その他の方法によって，その合格者に所定の単位を与える。（試験および成績評価）

第12条　授業科目に関する試験は，当該研究科運営委員会等の定める方法によって，毎学年末，またはその研究科運営委員会等が適当と認める時期に行う。

2　授業科目の成績は，A^{+}，A，B，CおよびFの五級に分かち，A^{+}，A，BおよびCを合格とし，Fを不合格とする。ただし，研究指導等の成績については，PおよびQの二級に分かち，Pを合格とし，Qを不合格とすることができる。

第3章　課程の修了および学位の授与

（修士課程の修了要件）

第13条　修士課程の修了の要件は，大学院修士課程に2年以上在学し，各研究科の 定めるところにより，所要の授業科目について所定の単位を修得し，かつ，必要な研究指導を受けた上，修士論文の審査および試験に合格することとする。ただし，在学期間に関しては，優れた業績を上げた者について当該研究科運営委員会等が認めた場合に限り，大学院修士課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

2　前項の場合において，当該修士課程の目的に応じ適当と認められるときは，特定の課題についての研究の成果の審査をもって修士論文の審査に代えることができる。

3　2年 以外の標準修業年限を定める研究科，専攻または学生の履修上の区分にあっては第1項の前段に規定する在学年数については，当該標準修業年限以上在学するものとする。

（博士課程の修了要件）

第14条　博士課程の修了の要件は，大学院博士課程に5年（修士課程に2年以上在学し，当該課程を修了した者にあっては，当該課程における2年の在学期間を含む。）以上在学し，各研究科の定めた所定の単位を修得し，所要の研究指導を受けた上，博士論文の審査および試験に合格することとする。ただし，在学期間に関しては，優れた研究業績を上げた者について当該研究科運営委員会等が認めた場合に限り，大学院博士課程に3年（修士課程に2年以上在学し，当該課程を修了した者にあっては，当該課程における2年の在学期間を含む。）以上在学すれば足りるものとする。

2　第2条第6項の規定により標準修業年限を1年以上2年未満とした修士課程を修了した者および第13条第1項ただし書の規定による在学期間をもって修士課程を修了した者の博士課程の修了の要件は，大学院博士課程に修士課程における在学期間に3年を加えた期間以上在学し，各研究科の定めた所定の単位を修得し，所要の研究指導を受けた上，博士論文の審査および試験に合格することとする。ただし，在学期間に関しては，優れた研究業績を上げた者について当該研究科運営委員会等が認めた場合に限り，大学院博士課程に3年（修士課程における在学期間を含む。）以上在学すれば足りるものとする。

3　前2項の規定にかかわらず，第29条第2号，第3号および第4号の規定により，博士後期課程への入学資格に関し修士の学位を有する者と同等以上の学力があると認められた者が，博士後期課程に入学した場合の博士課程の修了の要件は，大学院博士課程に3年以上在学し，各研究科の定めた所定の博士論文提出資格要件を満たし，所要の研究指導を受けた上，博士論文の審査および試験に合格することとする。ただし，在学期間に関しては，優れた研究業績を上げた者について当該研究科運営委員会等が認めた場合に限り，大学院博士課程に1年以上在学すれば足りるものとする。

5　博士論文を提出しないで退学した者のうち，博士後期課程に3年以上在学し，かつ，必要な研究指導を受けた者は，退学した日から起算して3年以内に限り，当該研究科運営委員会等の許可を得て，博士論文を提出し，試験を受けることができる。

（博士学位の授与）

第15条　本大学院の博士課程を修了した者には，博士の学位を授与する。

（修士学位の授与）

第16条　本大学院の修士課程を修了した者には，修士の学位を授与する。

（課程によらない者の博士学位の授与）

第17条　博士学位は，第15条の規定にかかわらず，博士論文を提出して，その審査および試験に合格し，かつ，専攻学術に関し博士課程を修了した者と同様に広い学識を有することを確認された者に対しても授与することができる。

（学位規則）

第18条　この学則に定めるもののほか，学位に付記する専攻分野名その他学位に関し必要な事項は，早稲田大学学位規則（1976年教務達第2号）をもって別に定める。

第 6 章　入学・休学・退学・転学・専攻の変更および懲戒

（入学の時期）

第27条　入学時期は，毎学期の始めとする。

（修士課程および専門職学位課程の入学資格）

第28条　本大学院の修士課程および専門職学位課程は，次の各号の一に該当し，かつ，別に定める検定に合格した者について，入学を許可する。

一　大学を卒業した者

二　学校教育法（昭和 22 年法律第 26 号）第 68 条の 2 第 3 項の規定により学士の学位を授与された者

三　外国において通常の課程による 16 年の学校教育を修了した者

四　文部科学大臣の指定した者

五　大学に 3 年以上在学し，または外国において学校教育における 15 年の課程を修了し，本大学院において，所定の単位を優れた成績をもって修得したものと認めた者

六　各研究科において，個別の入学資格審査により，大学を卒業した者と同等以上の学力があると認めた者で，22 歳に達した者

（博士後期課程の入学資格）

第29条　本大学院の博士後期課程は，次の各号の一に該当し，かつ，別に定める検定に合格した者について入学を許可する。

一　修士または修士（専門職）もしくは法務博士（専門職）の学位を得た者

二　外国において修士もしくは修士（専門職）の学位またはこれに相当する学位を得た者

三　文部科学大臣の指定した者

四　各研究科において，個別の入学資格審査により，修士または修士（専門職）もしくは法務博士（専門職）の学位を有する者と同等以上の学力があると認めた者で，24 歳に達した者

（入学検定の手続）

第30条　本大学院に入学を志願する者は，大学が定める期日までに，大学に別表 1 に定める入学検定料を納付し，必要書類を提出しなければならない。

（入学手続）

第31条　入学または転入学を許可された者は，大学が指定する入学手続期間内に，大学に入学金ならびに最初の学期に係る授業料，施設費，演習料，および実験演習料を納め，所定の書類を提出しなければならない。

（保証人）

第32条　保証人は，父兄または独立の生計を営む者で，確実に保証人としての責務を果し得る者でなければならない。

2　保証人として不適当と認めたときは，その変更を命ずることができる。

3　保証人は，保証する学生の在学中，その一身に関する事項について一切の責任を負わなければならない。

4　保証人が死亡し，またはその他の理由でその責務を果たし得ない場合には，新たに保証人を選定して届け出なければならない。

（在学年数の制限）

第33条　本大学院における在学年数は，修士課程および専門職学位課程にあっては 4 年，博士後期課程にあっては 6 年を超えることはできない。

2　前項の規定にかかわらず 2 年以外の標準修業年限を定める研究科，専攻または学生の履修上の区分における修士課程および専門職学位課程の在学年数にあっては当該標準修業年限の 2 倍を超えることはできないものとする。

（休学）

第34条　病気その他の理由で引き続き 2 か月以上出席することができない者は，休学願書にその理由を付し，保証人連署で所属する研究科の研究科長に願い出なければならない。

2　休学は当該学年限りとする。ただし，特別の事情がある場合には，引続き休学を許可することがある。この場合，休学の期間は通算し修士課程および専門職学位課程においては 2 年，博士後期課程においては 3 年を超えることはできない。

3　前項の規定にかかわらず 2 年以外の標準修業年限を定める研究科，専攻または学生の履修上の区分における修士課程および専門職学位課程の通算年数にあっては当該標準修業年限を超えることはできない。

4　休学者は，学期の始めでなければ復学することができない。

5　休学期間は，在学年数に算入しない。

（専攻および研究科の変更等）

第35 条　専攻および研究科の変更または転入学に関する願い出があった場合には，当該研究科運営委員会等の議を経てこれを許可することができる。

（任意退学）

第36条　病気その他の事故によって退学しようとする者は，理由を付し，保証人連署で願い出なければならない。

（再入学）

第37条　正当な理由で退学した者が，再入学を志望したときは，選考の上これを許可することがある。この場合には，既修の授業科目の全部または一部を再び履修させることがある。

（懲戒）

第38条　学生が，本大学の規約に違反し，または学生の本分に反する行為があったときは懲戒処分に付することがある。

2　懲戒は，戒告，停学，退学の 3 種とする。

（処分退学）

第39条　次の各号の一に該当する者は，退学処分に付す。

一　性行不良で改善の見込みがないと認められる者

二　学業を怠り，成業の見込みがないと認められる者

三　正当の理由がなくて出席常でない者

四　本大学院の秩序を乱し，その他学生としての本分に著しく反した者

第 7 章　入学検定料・入学金・授業料・演習料・実験演習料および施設費等

（授業料等の納入期日）

第41条の 2　学生は，第 31 条の場合を除き，次の各号に掲げる学期に係る授業料，施設費，演習料および実験実習料（以下「授業料等」という。）を当該各号に掲げる日までに大学に納めなければならない。

一　前期　　4 月 15 日

二　後期　　10 月 1 日

2　前項の規定にかかわらず，修業年限を超えて在学する者の授業料等の額および納入期日は，細則で定

める。

（授業料等の額）

第42条　入学金および授業料等の額は，「学費の納入と抹籍」のとおりとする。

（納入学費の取扱）

第43条　既に納入した授業料およびその他の学費は，事情のいかんにかかわらず返還しない。

（中途退学者の学費）

第44条　学年の中途で退学した者でも，その期の学費を納入しなければならない。

（抹籍）

第45条　学費の納入を怠った者は，抹籍することがある。

第８章　外国学生

（外国学生の入学選考）

第46条　外国において通常の課程による 16 年の学校教育を修了した者，またはこれに準ずる者は，第28条および第29条の規定にかかわらず，特別の選考を経て入学を許可することができる。

2　前項の規定による選考方法は，研究科長会の議を経て，各研究科運営委員会等が定める。

（外国学生の入学出願書類）

第47条　前条の規定により入学を志願する者は，必要な書類のほか，日本に在住して，学業に従事することが適法であることを証明するに足る，外国政府その他の官公署の証明書を提出しなければならない。

（外国学生の特別科目）

第48条　第46条および第47条の規定により入学を許可された者については，学修の必要に応じて，一般に配置された科目の一部に代え，またはこれに加えて特別の科目を履修させることができる。

2　前項の規定による特別の科目は，当該研究科運営委員会等が定める。

（外国で修学した日本人の取扱）

第49条　日本人であって，第 28 条第 3 号および第 29 条第 2 号に該当する者は，本章の規定によって取扱うことができる。

（外国人特別研修生）

第50条　第46条から第48条までの外国学生の規定にかかわらず，外国人であって本大学院において特定課題についての研究指導を受けようとする者があるときは，支障がない限り，外国人特別研修生として入学させることができる。

2　外国人特別研修生の入学手続・学費等については，別に規程をもって定める。

第９章　科目等履修生

（科目等履修生）

第51条　第27条から第29条までの規定によらないで，本大学院において授業科目を履修しようとする者または特定課題についての研究指導を受けようとする者があるときは，科目等履修生として入学させることができる。

（科目等履修生の種類）

第52条　官公庁，外国政府，学校，研究機関，民間団体等の委託に基づく者を委託履修生という。

2　前項に定める履修生以外の者を一般履修生という。

（科目等履修生の選考）

第53条　科目等履修生として入学を志願する者については，正規の学生の修学を妨げない限り，選考の上入学を許可する。

（科目等履修生の履修証明書）

第54条　科目等履修生が履修した科目について試験を受け，合格したときは，単位を授与し，本人の請求によって証明書を交付する。

（科目等履修生の学費，入学手続等）

第55条　科目等履修生は，別表に従い，入学金，聴講料および研究指導料を納めなければならない。

2　科目等履修生の入学手続等は，別に規程をもって定める。

第55条　別表（基幹・創造・先進理工学研究科）

入学金		50,000 円
授業科目聴講料	1 単位につき	47,900 円
研究指導料	修士（各期）	239,500 円
	博士（各期）	188,500 円

注　1．本大学卒業生および本大学院修了者の入学金は免除する。

2．聴講料および研究指導料の合計額は，当該年度における第 1 年度の授業料と施設費の合計額を上限とする。

（正規学生の規定準用）

第56条　科目等履修生については，第 3 章ならびに第 33 条および第34条を除き，正規の学生に関する規定を準用する。

第 10 章　研究生

（研究生）

第57条　本大学院博士後期課程に 6 年間在学し，博士論文を提出しないで退学した者のうち，引き続き大学院において博士論文作成のため研究指導を受けようとする者があるときは，研究生として入学させることができる。

（研究生の選考）

第58条　研究生として研究指導を受けようとする者については，正規の学生の修学を妨げない限り，選考の上入学を許可する。

（研究生の入学手続，学費および在学期間等）

第59条　研究生の入学手続，学費および在学期間等については別に規程をもって定める。

（正規学生の規定準用）

第60条　研究生については，本章の規定および別に定める規程によるほか，正規の学生に関する規定を準用する。

第 11 章　交流学生

（交流学生の受託）

第61条　他大学の大学院の学生で，協定に基づき本大学院の授業科目を履修しようとする者または特定課題についての研究指導を受けようとする者を，交流学生として受け入れることができる。

（交流学生の受入手続，学費等）

第62条　交流学生の受入手続および学費等については，当該大学との協定による。

2 早稲田大学学位規則（抜粋）

（目 的）

第１条 この規則は，早稲田大学学則（1949 年 4 月 1 日示達。以下「大学学則」という。）および早稲田大学大学院学則（1976 年教務達第 1 号。以下「大学院学則」という。）に定めるもののほか，早稲田大学が授与する学位について必要な事項を定めることを目的とする。

（学位）

第２条 本大学において授与する学位は，学士，博士，修士および専門職学位とする。

3 博士の学位は次のとおりとする。（基幹・創造・先進理工学研究科のみ抜粋）

研 究 科	専 攻	学位（専攻分野）
基幹理工学研究科	数学応用数理専攻	博士（工学）または博士（理学）
	情報理工学専攻	博士（工学）
	機械科学専攻	
	電子光システム学専攻	博士（工学）または博士（理学）
	表現工学専攻	博士（工学）
創造理工学研究科	建築学専攻	博士（工学）または博士（建築学）
	総合機械工学専攻	博士（工学）
	経営システム工学専攻	
	建設工学専攻	
	地球・環境資源理工学専攻	博士（工学）または博士（理学）
	経営デザイン専攻	博士（経営工学）
先進理工学研究科	物理学及応用物理学専攻	博士（工学）または博士（理学）
	化学・生命化学専攻	博士（理学）
	応用化学専攻	博士（工学）
	生命医科学専攻	博士（工学）または博士（理学）
	電気・情報生命専攻	
	生命理工学専攻	
	ナノ理工学専攻	
	共同先端生命医科学専攻	博士（生命医科学）
	共同先進健康科学専攻	博士（生命科学）
	共同原子力専攻	博士（工学）または博士（理学）

4 大学は，前項に定める学位のほか博士（学術）の学位を授与することができる。

5 修士の学位は次のとおりとする。（基幹・創造・先進理工学研究科のみ抜粋）

研 究 科	専 攻	学位（専攻分野）
基幹理工学研究科	数学応用数理専攻	修士（工学）または修士（理学）
	情報理工学専攻	修士（工学）
	機械科学専攻	
	電子光システム学専攻	修士（工学）または修士（理学）
	表現工学専攻	修士（工学）
創造理工学研究科	建築学専攻	修士（工学）または修士（建築学）
	総合機械工学専攻	修士（工学）
	経営システム工学専攻	
	建設工学専攻	
	地球・環境資源理工学専攻	修士（工学）または修士（理学）
	経営デザイン専攻	修士（経営工学）
先進理工学研究科	物理学及応用物理学専攻	修士（工学）または修士（理学）
	化学・生命化学専攻	修士（理学）
	応用化学専攻	修士（工学）
	生命医科学専攻	修士（工学）または博士（理学）
	電気・情報生命専攻	
	生命理工学専攻	
	ナノ理工学専攻	
	共同原子力専攻	

(博士学位授与の要件)

第4条　博士の学位は，大学院学則第14条により博士課程を修了した者に授与する。

2　前項の規定にかかわらず，博士の学位は本大学院の博士課程を経ない者であっても，大学院学則第17条により授与することができる。

(修士学位授与の要件)

第6条　修士の学位は，大学院学則第13条により修士課程を修了した者に授与する。

(課程による者の学位論文の受理)

第7条　本大学院の課程による者の学位論文は，修士課程および専門職学位課程については2部を，博士後期課程については3部を作成し，それぞれに論文概要書を添えて研究科長に提出するものとする。ただし，研究科長は，審査に必要な部数の追加を求めることができる。

2　研究科長は，前項の学位論文を受理したときは，学位を授与できる者か否かについて研究科運営委員会の審査に付さなければならない。

(課程によらない者の学位の申請)

第8条　第4条第2項の規定により学位の授与を申請する者は，学位申請書に博士論文3部，論文書概要書および履歴書を添え，その申請する学位の専攻分野を指定して，総長に提出しなければならない。

(課程によらない者の学位論文の受理)

第9条　前条の規定による博士論文の提出があったときは，総長は，その論文を審査すべき研究科運営委員会の議を経て，受理するか否かを決定し，受理することに決定した学位論文について審査を付託するものとする。

2　研究科長は，受理の可否および審査のため必要と認めるときは，前条に規定する論文の部数のほか，必要な部数を追加して提出させることができる。

(学位論文)

第10条　博士，修士および専門職学位の学位論文は1篇に限る。ただし，参考として，他の論文を添付することができる。

2　前項により，一旦受理した学位論文等は返還しない。

3　審査のため必要があるときには，学位論文の副本，訳文，模型または標本等の資料を提出させることがある。

(審査料)

第11条　第9条の規定により，学位論文を受理したときは，学位の申請者にその旨を通知し，別に定める審査料を納付させなければならない。ただし，一旦納付した審査料は返還しない。

(審査員)

第12条　研究科運営委員会は，第7条第2項の規定により，学位論文が審査に付されたとき，または第8条および第9条の規定により，学位の審査を付託されたときは，当該研究科の教員のうちから，3人以上の審査員を選任し，学位論文の審査および試験または学識の確認を委託しなければならない。

2　研究科運営委員会は必要と認めたときは，前項の規定にかかわらず本大学の教員または教員であった者を，学位論文の審査および試験または学識の確認の審査員に委嘱することができる。

3　研究科運営委員会は必要と認めたときは，第1項の規定にかかわらず他の大学院または研究所等の教員等に学位論文の審査員を委嘱することができる。

4　研究科運営委員会は，第１項の審査員のうち１人を主任審査員として指名しなければならない。ただし，研究科運営委員会が必要と認めたときは，第２項の審査員のうち，本大学の専任教員である者または，協定等に基づいて嘱任した客員教員を主任審査員として指名することができる。

（審査期間）

第13条　修士学位および専門職学位の授与にかかわる論文の審査および試験は，論文提出後３か月以内に，また博士学位の授与にかかわる論文の審査，試験および学識の確認は，論文の提出または学位の授与の申請を受理した後，１年以内に終了しなければならない。ただし，特別の理由があるときは，研究科運営委員会の議を経てその期間を延長することができる。

（面接試験）

第14条　第８条の規定により学位の授与を申請した者については，博士論文の審査のほか，面接試験を行う。この試験の方法は研究科運営委員会において定める。

2　前項の規定にかかわらず，研究科運営委員会が特別の理由があると認めたときは，面接試験を行わないことができる。

（試験）

第15条　大学院学則第14条による試験の方法は，研究科運営委員会において定める。

（学識確認の方法）

第16条　大学院学則第17条による学識の確認は，博士論文に関連ある専攻分野の科目および外国語についての試問の方法によって行うものとする。

2　前項の規定にかかわらず研究科運営委員会が特別の理由があると認めた場合は，学識の確認のための試問の一部または全部を免除することができる。

（審査結果の報告）

第17条　博士の学位に関する審査が終了したときは，審査員は速やかに審査の結果および評価に関する意見を記載した審査報告書を研究科運営委員会に提出しなければならない。

（学位論文の判定）

第18条　前条の審査の報告に基づき，研究科運営委員会は無記名投票により，合格，不合格を決定する。ただし，特別の場合には，他の方法によることができるものとし，その方法については，研究科長会の承認を得なければならない。

2　前項の判定を行う研究科運営委員会には，当該研究科運営委員の３分の２以上の出席を要し，合格の判定については，出席した委員の３分の２以上の賛成がなければならない。この場合の定足数の算定に当たっては，外国出張中の者，休職中の者，病気その他の事由により，引き続き２か月以上欠勤中の者，および所属長の許可を得て出張中の者は，当該研究科運営委員の数に算入しない。

3　前項の規定にかかわらず，研究科運営委員会が必要と認めたときは，当該研究科運営委員以外の第 12 条に規定する審査員を学位論文判定の審議に加えることができるものとする。

4　研究科運営委員会が第１項の合否を決定したときは，研究科長はこれを総長に報告しなければならない。

（学位の授与）

第19条　総長は，前条第３項の規定による報告に基づいて学位を授与し，学位記を交付する。

2　学位を授与できない者には，その旨を通知する。

(論文審査要旨の公表)

第20条　博士の学位を授与したときは，その論文の審査要旨は，大学が適当と認める方法によってこれを公表する。

(学位論文の公表)

第21条　博士の学位を授与された者は，授与された日から 1 年以内に，当該博士論文を，書籍または学術雑誌等により，公表しなければならない。ただし，学位を授与される前に，印刷公表されているときは，この限りではない。

2　前項の規定にかかわらず博士の学位を授与された者は，やむを得ない理由がある場合には，研究科運営委員会の承認を受けて，当該論文の全文に代えて，その内容を要約したものを印刷公表することができる。この場合，大学はその論文の全文を求めに応じて閲覧に供するものとする。

3　第 1 項の規定により，公表する場合は，当該論文に「早稲田大学審査学位論文（博士)」と，また前項の規定により公表する場合は，当該論文の要旨に，「早稲田大学審査学位論文（博士）の要旨」と明記しなければならない。

(学位の名称)

第22条　本大学の授与する学位には，早稲田大学と付記するものとする。

(学位授与の取消)

第23条　本大学において博士，修士または専門職学位を授与された者につき，不正の方法により学位の授与を受けた事実が判明したときは，総長は，当該研究科運営委員会および研究科長会の議を経て，既に授与した学位を取り消し，学位記を返還させ，かつ，その旨を公表するものとする。

2　研究科運営委員会において前項の議決を行う場合は，第 18 条第 2 項の規定を準用する。

3　大学院外国人特別研修生に関する規程

(根拠および目的)

第 1 条　この規程は，早稲田大学大学院学則（1976 年教務達第 1 号。以下「学則」という。）第 50 条（外国人特別研修生）の規定に基づき，外国人特別研修生（以下「特別研修生」という。）の取り扱いについて定める。

2　特別研修生については，この規程によるほか，正規学生に関する学則の規定を準用する。

(受入資格)

第 2 条　特別研修生として入学することのできる者は，外国の大学において，修士課程修了者またはこれと同等以上の学力を有し，科目等履修生として受け入れることが適当でないと認められる者に限る。

(入学時期)

第 3 条　特別研修生の入学時期は，学期の始めとする。ただし，事情により学期の中途においても，入学を許可することができる。

(出願手続)

第 4 条　特別研修生として入学を志願する者は，必要書類に選考料を添えて，当該研究科委員長に願い出なければならない。

2　選考料は，科目等履修生として入学を志願する者の額と同額とする。

（科目の履修）

第５条　指導教員が必要と認めた場合は，特別研修生に本大学院または学部に配置されている授業科目の一部を履修させることができる。

（在学期間）

第６条　特別研修生の在学期間は，当該学年限りとし，引き続き特別研修生として入学を志願する場合には，改めて願い出なければならない。

（証明書）

第７条　特別研修生が研究報告書を提出したときは，当該研究科は適当と認めた者に対して証明書を発行することができる。

（入学手続）

第８条　特別研修生として入学を許可された者は，所定の学費等を納入して，学生証の交付を受けなければならない。

（学費等）

第９条　特別研修生の入学金および研究指導料は次のとおりとする。

入学金		50,000 円
研究指導料	前・後期	188,500 円

（博士後期課程）

2　特別研修生に対し，演習料または実験演習料，学会費，学友会費等を正規の学生に準じて徴収することができる。

3　在学期間が 6 か月以内の場合の研究指導料および演習料または実験演習料等は半額とし，6 か月を超える場合は全額とする。

4　既に納入した入学金，研究指導料および演習料または実験演習料等は，事情のいかんにかかわらず返還しない。

（選考料および入学金の免除）

第10条　特別研修生であった者が，引き続き特別研修生として入学を志願し許可された場合には，選考料および入学金を免除する。

4 大学院科目等履修生に関する規程

（根拠および目的）

第１条　この規程は，早稲田大学大学院学則（1976 年教務達第１号）第 55 条（科目等履修生の学費，入学手続等）の規定に基づき，科目等履修生の取り扱いについて定める。

（入学時期）

第２条　科目等履修生の入学時期は，学期の始めとする。ただし，委託履修生は，事情により学期の中途においても，入学を許可することができる。

（履修単位）

第３条　科目等履修生が聴講できる授業科目の制限単位は，次のとおりとする。

一　授業科目のみの場合　20 単位

二　授業科目および研究指導をあわせて受講する場合　10 単位

（出願手続）

第４条　科目等履修生として入学を志願する者は，所定の願書に，履歴書，最近撮影の写真および選考料２万５千円を添えて，当該研究科長に願い出なければならない。ただし，委託履修生は，このほかに，官公庁，外国政府，学校，研究機関，民間団体等の委託書を添付しなければならない。

２　前項前段の規定にかかわらず，独立研究科の選考料は３万円とする。

（在籍期間）

第５条　科目等履修生の在籍期間は，入学した年度の３月 15 日までとする。ただし，授業科目により特別な在籍期間が定められている場合は，当該期間とする。

（入学手続）

第６条　科目等履修生として入学を許可された者は，入学金および次の区分による所定の学費を納入して，学生証の交付を受けなければならない。

一　授業科目のみの場合　聴講料

二　研究指導のみの場合　研究指導料

三　授業科目および研究指導の場合　聴講料および研究指導料

（選考料および入学金の免除）

第７条　本大学大学院正規学生であった者が，引き続き科目等履修生として入学を志願し許可された場合には，選考料および入学金を免除する。

２　前項の規定により科目等履修生となった者が，引き続き科目等履修生として入学を志願し許可された場合には，選考料および入学金を免除する。

３　第１項の規定によらない科目等履修生が，引き続き科目等履修生として入学を志願し許可された場合には，２年間に限り選考料および入学金を免除する。

（入学金，聴講料，研究指導料）

第８条　科目等履修生の入学金・聴講料および研究指導料は，別に定める。

（演習料，実験演習料，学友会費，学会費等）

第９条　科目等履修生に対し，演習料または実験演習料，学友会費，学会責等を正規の学生に準じて徴収することができる。

5　大学院研究生に関する規程

（根拠および目的）

第１条　この規程は，早稲田大学大学院学則（1976 年教務達第１号）第 59 条（研究生の入学手続，学費および在学期間等）の規定に基づき，研究生の取り扱いについて定める。

（出願手続）

第２条　研究生として入学を志願する者は，所定の願書により，当該研究科長に願い出なければならない。

（入学手続，学費）

第３条　研究生として入学を許可された者は，次の区分による所定の学費を納入して，学生証の交付を受けなければならない。

一　研究指導料　博士後期課程の新３年生の授業料の半額

二　演習料・実験演習料　博士後期課程の新３年生の演習料または実験演習料の全額。ただし，その年度の前期において学位を取得した場合は半額

2　前項の学費の分納期は，次のとおりとする。

研究指導料　第１期　全額

演習料・実験演習料　第１期　半額　第２期　半額

（在学期間）

第４条　研究生の在学期間は１年とする。ただし，研究指導を継続して受けようとするときは，原則として２回に限り延長することができる。

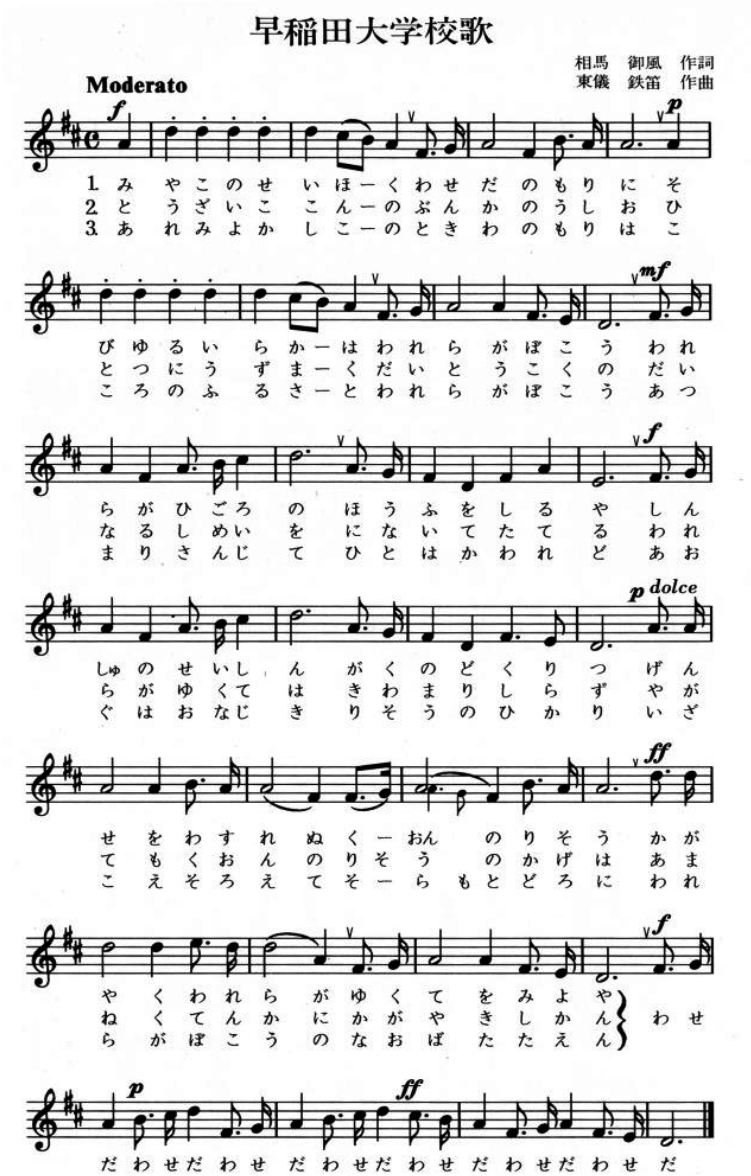
2　在学期間の延長を希望する者は，毎年度の終りまでに，理由を付して，当該研究科長に願い出なければならない。

3　在学期間の延長の許可は，当該研究科運営委員会の議論を経て，研究科委員長が行う。

（学友会費，学会費等）

第５条　研究生に対し，学友会費，学会費等を正規の学生に準じて徴収することができる。

6 校歌



一.
都の西北 早稲田の森に
聳ゆる甍は われらが母校
われらが日ごろの抱負を知るや
進取の精神 学の独立
現世を忘れぬ 久遠の理想
かがやくわれらが行手を見よや
わせだ わせだ わせだ わせだ
わせだ わせだ

二.
東西古今の文化のうしほ
一つに渦巻く 大島国の
大なる使命を 担ひて立てる
われらが行手は 窮り知らず
やがても久遠の 理想の影は
あまねく天下に輝き布かん
わせだ わせだ わせだ わせだ
わせだ わせだ

三.
あれ見よかしこの 常盤の森は
心のふるさと われらが母校
集まり散じて 人は変れど
仰ぐは同じき 理想の光
いざ声そろへて 空もとどろに
われらが母校の名をばたたへん
わせだ わせだ わせだ わせだ
わせだ わせだ わせだ

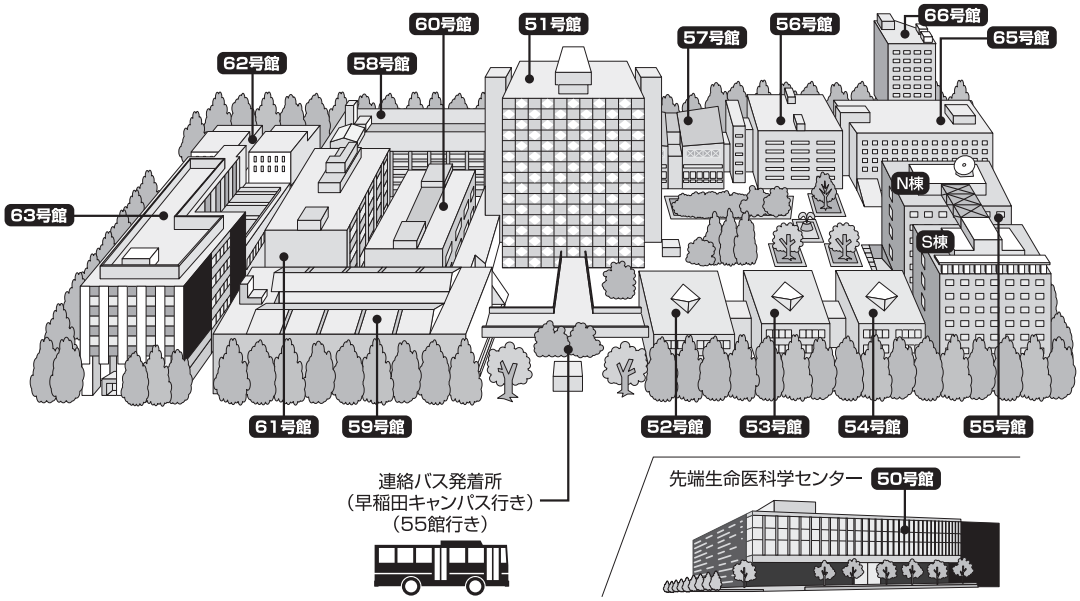
7　早分かり URL・電話番号

要項やホームページを見ても理解できない場合のために，下記を紹介。

内　　容	担当・掲載場所等	電話番号	URL，メールアドレス等
科目登録，試験，成績，証明書，サークル，学費，奨学金，留学，休学，退学等修学に関わることで質問したい。	教学支援課	03－5286－3002	gakumu@sci.waseda.ac.jp
入試，転科，教員の研究内容，カリキュラム体系，ホームページ，広報等に関わることで質問したい。	総務課	03－5286－3003	gyoumu@sci.waseda.ac.jp
構内掲示，自転車駐輪，会議室管理・予約，TA，各種研究助成制度等で質問したい。	総務課	03－5286－3000	
Waseda−netの使用方法，パソコン全般について質問したい。	理工メディアセンターヘルプデスク	03－5286－3355	helpdesk@mse.waseda.ac.jp
英語の単位修得基準，履修方法等について知りたい。	英語教育センターホームページ		http://www.celese.sci.waseda.ac.jp/
勉強の進め方や卒業に必要な科目等，個人的にクラス担任と相談したい。	理工学術院ホームページ		http://www.sci.waseda.ac.jp/office/kyouinsitu.html
特定の教員と連絡が取りたい。	理工学術院ホームページ		http://www.sci.waseda.ac.jp/office/kyouinsitu.html
休講情報を知りたい。	理工学術院ホームページ		http://www2.sci.waseda.ac.jp/LOCAL/kyuko/（学内のみ参照可能）
端末などを廃棄したい。物が壊れている。	技術企画総務課	03－5286－3500	http://www.tps.sci.waseda.ac.jp/
怪我をした。頭痛がする。	保健センター西早稲田分室	03－5286－3021	http://www.waseda.jp/kenkou/center/HSC/
留学生で，学生生活が不安だ I am an international student. Student life is uneasy.	教学支援課	03－5286－3002	gakumu@sci.waseda.ac.jp
連絡バスの時刻表が知りたい。	理工学術院ホームページ		
図書館の開室時間等について知りたい。	理工学図書館	03－5286－3889	riko-tosho@list.waseda.jp
生協の営業時間，生協での書籍販売，カフェテリアについて質問したい。	早稲田大学生協	03－3200－4206	info@wcoop.ne.jp
上記には当てはまらないが，質問がある。	理工学術院統合事務所代表	03－5286－3000	info@sci.waseda.ac.jp

8 キャンパスマップ

西早稲田キャンパス建物配置図
Campus Building



理工メディアセンター ヘルプデスク
63号館3階

コンピュータ・ルーム・A~H
PC464台
63号館3階

理工レストラン
63号館1階

理工学基礎実験室 (工学系)
63号館地下1階

WASEDA ものづくり工房
61号館1階

製図・CAD室
PC208台
57号館1階

生協購買部, 書籍部
57号館地下1階

理工学基礎実験室 (化学系・生命科学系)
56号館

理工学基礎実験室 (物理系)
56号館2階

理工カフェテリア
56号館地下1階

学生読書室
52号館, 53号館地下1階

理工学統合事務所
51号館1階

保健センター 西早稲田分室
51号館1階

学生相談室
51号館1階

学生ラウンジ
51号館2階

留学生ラウンジ &就職情報室
61号館1階

理工学図書館
51号館地下1階

学科・専攻別連絡事務室一覧

基幹理工

数学科
数学応用数理専攻
63号館1階01

応用数理学科
数学応用数理専攻
63号館1階01

情報理工学科
情報理工学専攻
63号館1階01

機械科学・航空学科
機械科学専攻
60号館2階08

電子光システム学科
電子光システム学専攻
63号館1階01

表現工学科
表現工学専攻
63号館1階01

創造理工

建築学科
建築学専攻
55号館N棟2階03

総合機械工学科
総合機械工学専攻
60号館2階08

経営システム工学科
経営システム工学専攻
51号館13階00

経営デザイン専攻
51号館9階03B

社会環境工学科
建設工学専攻
51号館17階07B

環境資源工学科
地球・環境資源理工学専攻
51号館13階

社会文化領域
51号館4階00

先進理工

物理学科
物理学及応用物理学専攻
55号館N棟2階03

応用物理学科
物理学及応用物理学専攻
55号館N棟2階03

化学・生命化学科
化学・生命化学専攻
55号館N棟2階03

応用化学科
応用化学専攻
55号館N棟2階03

生命医科学科
生命医科学専攻
50号館3階
先端生命医科学センター事務所内
〒162-8480
新宿区若松町2番2号

電気・情報生命工学
電気・情報生命専攻
55号館N棟2階03

生命理工学専攻
50号館3階
先端生命医科学センター事務所内

ナノ理工学専攻
63号館1階01

共同先端生命医科学専攻
50号館3階
先端生命医科学センター事務所内

共同先進健康科学専攻
50号館3階
先端生命医科学センター事務所内

共同原子力専攻
63号館1階01

英語教育センター
51号館1階08

国際教育センター
63号館1階01

NISHIWASEDA CAMPUS　早稲田大学西早稲田キャンパス

■交通案内図

■キャンパス周辺図

JR（山手線）	高田馬場駅 戸山口下車	徒歩12分
JR（山手線）	新大久保駅 下車	徒歩12分
東京メトロ東西線	高田馬場駅 下車	徒歩12分
東京メトロ副都心線	西早稲田駅 下車	徒歩 0分
西武新宿線	高田馬場駅 下車	徒歩12分
都バス	都立障害者センター前 下車	徒歩1分
	高田馬場駅（高71）九段下行き	
	池袋駅東口（池86）渋谷駅行き	
	新宿駅西口（早77）早稲田行き	

都営大江戸線	牛込柳町より	徒歩6分
	若松河田駅より	徒歩8分
都営新宿駅	曙橋駅より	徒歩10分